

令和5年度中学部3年（I課程） 国語科 年間指導計画

単位数 ／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
3／105	三省堂書房「国語Ⅲ」	

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等評価：(知・技)知識・技能
(思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 文章に表れているものの見方や考え方を捉えることができる。 (思判表力) 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。 (学・人) 進んで考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって批評しようとしている。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	7	(知及技) 描かれた情景を想像しながら読み、内容を理解する。(Cイ) (思判表力) 詩にこめられた作者の思いを捉え、自分の意見をもつ。(Cエ) (学・人) 学習課題にそって考えを伝え合う。	(知・技) ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) (思・判・表) 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(Cイ) (主学) ・進んで文章に表れているものの見方や考え方を捉え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。	(詩) 岩が	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 描かれた情景を想像しながら読み、内容を理解する。 ・情景を想像しながら音読する。 ・詩に描かれた「岩」と「魚」の逆らい方を、それぞれ説明する。 2 詩にこめられた作者の思いを捉え、自分の意見をもつ。 ・「岩」と「魚」にとって「流れ」とはどのようなものか、話し合う。 ・作者の思いを捉え、それについてどう考えるか、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。
	10	(知及技) 小説の構成や場面の展開を捉え、その効果を評価する。(Cウ) (思判表力) 過去を回想する語り手の思いを捉え、それに基づいて自分の考えをもつ。(Cア) (学・人) 進んで物語の展開の仕方などを捉える。	(知・技) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (思・判・表) 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、物語の展開の仕方などを捉えている。(Cア) (主学) 進んで物語の展開の仕方などを捉え、学習課題にそって批評しようとしている。	(小説) 握手	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 小説の構成や場面の展開を捉える。 ・本文を通読する。 ・時間を観点にして本文をくぎり、構成を捉える。 2 登場人物のしぐさに着目して、心情を捉える。 ・ルロイ修道士の特徴的なしぐさとその意味を捉える。 ・握手の仕方に着目して、ルロイ修道士の変化を整理する。 3 過去を回想する語り手の思いを捉え、自分の考えをもつ。 ・ルロイ修道士が病気ではないかと感じた「私」の言動について考えを交流する。 ・最後の場面の「私」の心情を考える。 4 小説の構成や場面の展開の効果を評価する。 ・最後の場面から感じたことを交流する。 ・最後の場面の効果を考える。

	(知及技) 文章の構成や論理の展開の仕方を捉え、評価することができる。(Cウ) (思判表力) 「間」や「和」を観点にして、日本文化についての自分の考えを深める。(Cエ) (学・人) 学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。	(知・技) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) (思・判・表) 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。(Cウ) (主学) ・進んで文章の構成や表現の仕方について評価し、学習課題にそって考えをまとめようとしている。	(評論文) 間の文化	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 文章の構成や論理の展開の仕方を捉える。 ・本文を通読し、内容を捉える。 ・「間」について、それぞれの特徴をまとめる。 ・「和はこの間があって初めて成り立つ」と筆者が述べる理由をまとめる。 2 文章の構成や論理の展開の仕方を評価する。 ・「掟」という言葉が用いられていることの効果を考える。 ・「空間的」「時間的」「心理的」の順序で示されている効果を考える。 3 「間」や「和」を観点にして、日本文化についての自分の考えを深める。 ・筆者の主張について、自分の意見をまとめる。
--	--	--	-------------------	--

	(知及技) 俳句のきまりや表現の特徴をもとに、俳句についての理解を深めることができる。(Cウ) (思判表力) 語句に注意して情景を豊かに想像し、俳句を読み味わうことができる。(Cエ) (学・人) 俳句を実際作成し、生徒同士で評価し合うことができる。	(知・技) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) (思・判・表) 「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。(Cウ) 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(Cエ) (主学) ・進んで文章の構成や表現の仕方について評価し、学習課題にそって批評しようとしている。	(俳句) 俳句の世界	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 俳句のきまりや表現の特徴をもとに、俳句についての理解を深める。 ・「俳句の世界」を読み、俳句の特徴を書き出す。 ・「俳句十句」について、情景を想像しながら音読する。 2 語句に注意して情景や心情を捉え、俳句を読み味わう。 ・印象に残った俳句を選び、詠まれた情景や心情をまとめる。 ・選んだ俳句の表現の工夫や効果について考える。 3 表現の工夫や効果をふまえて俳句の魅力を伝え合う。 ・選んだ俳句の魅力について考えたことをまとめる。 ・まとめた意見を発表し、交流する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。
--	---	--	-----------------------	---

	(知及技) 文章に表れているものの見方や考え方を捉えることができる。(Cイ) (思判表力) 文章を批判的に読み、科学と社会との関係について自分の考えを広げることができる。(Cエ) (学・人) 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを文章にまとめることができる。	(知・技) ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) (思・判・表) ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(Cイ) ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(Cエ) (主学) ・進んで文章を批判的に読み、学習課題にそって考えをまとめている。	(評論文) フロン規制の物語 ——〈杞憂〉と〈転ばぬ先の杖〉のはざままで	学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 文章全体の構成と概要を捉える。 ・本文を通読し、内容を捉える。 ・フロンの性質を箇条書きで列挙する。 2 異なる立場の説明を読み比べ、筆者のものの見方や考え方を捉える。 ・具体と抽象に着目して、本文の内容をまとめる。 ・「あなた」という言葉が使われていることの効果を考える。 ・フロン規制に向けた議論を整理する。 3 文章を批判的に読む。 ・「科学的な思考力」と「柔軟な想像力」とはどのようなものか、まとめる。 ・なぜそれらを「ともに」学んでいく必要があるのか、考える。 ・筆者の主張の根拠を検証し、文章を批判的に読む。 4 社会と科学の関係について自分の考えを広げる。
--	--	---	---	--

					・身のまわりから、本文の内容にあてはまる例を探す。 ・探した例をもとに、社会と科学との関係について話し合う。
	8	(知及技) 歴史的背景などに注意して古典を読むことをとおして、その世界に親しむことができる。 ((3) ア) (思判表力) 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(Cイ) (学・人) 進んで表現の仕方について評価し、学習課題にそって考えを伝え合うことができる。	(知・技) ・歴史的背景などに注意して古典を読むことをとおして、その世界に親しんでいる。 ((3) ア) (思・判・表) ①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(Cイ) ②「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。(Cウ) (主学) ・進んで表現の仕方について評価し、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。	(古文) 和歌の世界——万葉集・古今和歌集・新古今和歌集	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 和歌が詠まれた背景を想像しながら、情景や心情を読み取る。 ・和歌のリズムと意味の切れめに注意して、音読する。 ・和歌が詠まれた背景を想像しながら、情景や心情を捉える。 2 和歌の形式や表現の特徴を捉える。 ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の歌を比較する。・それぞれの表現の特徴について、捉えたことを交流する。 3 和歌の表現の効果について理解し、鑑賞文にまとめる。 ・好きな和歌を選ぶ。 ・読み取ったことに自分の感想を加えて、鑑賞文にまとめる。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。
2 学期	8	歴史的背景などに注意して古典を読むことをとおして、その世界に親しんでいる。 ((3) ア) (思判表力) ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、物語の展開の仕方などを捉えることができる。(Cア) ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(Cイ) ⑧・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 (Cエ) (学・人) ・進んでものの見方や考え方について考え、学習課題にそって考えたことを伝え合うことができる。	(知・技) ●歴史的背景などに注意して古文を読み、作者のものの見方や考え方を捉える。 (知・技 (3) ア, Cイ) (思・判・表) ●優れた表現や文体の特徴に着目しながら、作品を読み深める。(Cア, Cエ)	(古文) おくのはそ道	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 表現やリズムを意識して、古文を音読する。 ・本文を音読する。 ・対句的な表現がもつリズムを味わう。 2 歴史的背景などに注意して、作者のものの見方や考え方を捉える。 ・冒頭部分を読み、芭蕉の旅に対する思いをまとめる。 ・「平泉」での芭蕉の思いを想像する。 3 優れた表現や文体の特徴に着目しながら、作品を読み深める。 ・それぞれの句にこめられた作者の心情やものの見方について考える。 → 読み方を学ぼう⑤ 状況・背景 ・考えたことを交流する。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。

	(知及技) ・歴史的背景などに注意して古典を読むことをとおして、その世界に親しんでいる。 ((3) ア) ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3) イ) (思判表力) 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(Cイ) 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 (Cエ) (学・人) ・進んで人間や社会などについて自分の意見をもち、学習課題にそって文章にまとめようとしている。	漢文の響きやリズムに注意しながら読み、孔子のものの見方や考え方を捉える。 (Cイ) ●「論語」の言葉をきっかけにして、生き方や学び方について自分の考えをもつ。 (Cエ)	(漢文) 論語	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 漢文の響きやリズムに注意しながら読み、孔子のものの見方や考え方を捉える。 ・漢文特有のリズムに注意して、音読する。 ・訓読の仕方について確認する。 述べられている内容を自分の言葉で捉え直す。 2 「論語」の言葉をきっかけにして、生き方や学び方について自分の考えをもつ。 ・「論語」から言葉を選んで引用し、考えたことを文章にまとめる。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。
	(知及技) ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。 ((3) ウ) (思判表力) ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、物語の展開の仕方などを捉えている。(Cア) ・「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。(Cウ) (学・人) ・進んで表現の仕方について評価し、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。	(知・技) ●詩の形式をふまえて音読し、描かれている思いを捉える。(Cア) (思・判・表) ●表現の特徴とその効果を捉え、作品を味わう。(Cウ)	(詩) 初恋	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 詩の形式をふまえて音読し、描かれている思いを捉える。 ・文語定型詩の特徴とリズムに注意して音読する。 ・文語定型詩の特徴を確認する。 「われ」の「君」に対する思いを連ごとに捉える。 2 表現の特徴とその効果を捉え、作品を味わう。 ・「おのづからなる細道」はどのようなことを表しているか考える。 ・表現の効果について考えたことを書く。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。
10	(知及技) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2) ア) (思判表力) ①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(Cイ) ②「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。(Cウ) ③「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(Cエ) (学・人) 進んで考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって批評しようとしている。	(知・技) 登場人物の言動や関係を捉え、作品に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをつくる。 (Cイ, Cエ) (思・判・表) ●人物の心情と描写との関連や人物設定など、表現の特徴や工夫を捉え、評価する。(Cウ)	(小説) 故郷	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 人物の心情と描写との関連や人物設定を捉える。 ・本文を通読し、内容を捉える。 ・過去と現在に場面を分け、場面ごとに人物の描かれ方をまとめる。 ・過去と現在で、「私」の感じ方がどのように変化したかを捉える。 2 登場人物の言動や関係を捉える。 ・場面ごとに登場人物の関係の変化をまとめる。 ・「悲しむべき厚い壁」とは何か、考える。 3 表現の特徴や工夫を捉え、評価する。 ・登場人物が果たす役割を考える。 ・表現の特徴やその効果について考え、話し合う。 4 作品に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをつくる。 ・「自分の道」「希望」とはどういうことか、考える。 ・作品を読んで考えたことを文章にまとめ、交流する。

3 学期	8	(知及技) ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ((1) イ) (思判表力) ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 (Cエ) (学・人) ・進んで考えを広げたり深めたりし、学習課題にそって考えたことを文章にまとめようとしている。	(知・技) ●筆者の主張を捉え、自分の知識や経験などと照らし合わせながら内容を理解する。(Cエ) (思・判・表) ●文章を読んで、これからの社会について考え、自分の意見をもつ。(Cエ)	(評論文) 「文殊の知恵」の時代	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 筆者の主張を捉え、自分の知識や経験などと照らし合わせながら内容を理解する。 ・本文を通読し、内容を捉える。 ・「文殊の知恵」の辞書的な意味と本文中での意味を捉える。 ・「文殊の知恵」を生み出すために必要なことをまとめる。 2 文章を読んで、これからの社会について考え、自分の意見をもつ。 ・最終段落を読み、筆者の主張をまとめる。 ・筆者の主張について、自分の身近な体験を交えて考えたことを文章にする。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。
	13	(知及技) ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ((1) イ) (思判表力) ①「読むこと」において、文章の構成や表現の仕方について評価している。(Cウ) ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(Cエ) (学・人) ・進んで人間や社会などについて考え、学習課題にそって批評しようとしている。	(知・技) ●言葉の使われ方や人物の描かれ方に注意して読み、作品の特徴を評価する。(Cウ) (思・判・表) ●身近な人との関わり方について考えを深める。(Cエ)	(小説) 坊っちゃん	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 言葉の使われ方や人物の描かれ方に注意して読む。 ・本文を通読し、内容を捉える。 ・「坊っちゃん」はどのような人物か、説明する。 ・「清」は「坊っちゃん」をどのように見ているか、まとめる。 2 身近な人との関わり方について考えを深める。 ・「坊っちゃん」に対する見方が「清」とその他の人とは異なっているのはなぜか、考える。 ・最後の場面から感じたことや考えたことを交流する。 3 作品の特徴を評価する。 ・気に入った場面を音読し、作品の特徴について考えたことを発表し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。
	5	(知及技) 描かれた情景を想像しながら読み、内容を理解する。(Cイ) (思判表力) 詩にこめられた作者の思いを捉え、自分の意見をもつ。(Cエ) (学・人) 学習課題にそって考えを伝え合う。	(知・技) ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2) ア) (思・判・表) 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(Cイ) (主学) ・進んで文章に表れているものの見方や考え方を捉え、学習課題にそって考えを伝え合おうとしている。	(詩) さくら	◆学習目標を確認し、学習の見通しをもつ。 1 描かれた情景を想像しながら読み、内容を理解する。 ・情景を想像しながら音読する。 ・作者の思いを捉え、それについてどう考えるか、話し合う。 ◆学習目標をもう一度確認し、学んだことを自分の言葉でまとめる。
留意点引継ぎ等					

令和 5 年度中学部3年 (I課程) 社会科 年間指導計画

単位数 ／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
140	中学生の公民 帝国書院	

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等評価：(知・技)知識・技能
(思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標	(知及技) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (思判表力) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (学・人) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
------	--

学 期	時 数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
		(知及技) 現代日本の社会では情報化,グローバル化,少子高齢化など変化がみられることを理解し,その知識を身につけている。 (思判表力)情報化,グローバル化,少子高齢化が現在と将来の政治,経済,国際関係に与える影響について,位置や空間的な広がり,推移や変化などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,表現することができる。 (学・人)情報化,グローバル化,少子高齢化に関する事象を身近なところから見つけ,主体的に問題解決しようとしたり,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとすることができる。	(知・技) 現代日本の社会では情報化,グローバル化,少子高齢化など変化がみられることを理解し,その知識を身につけようとしている。 (思・判・表)情報化,グローバル化,少子高齢化が現在と将来の政治,経済,国際関係に与える影響について,位置や空間的な広がり,推移や変化などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,表現しようとしている。 (主学)情報化,グローバル化,少子高齢化に関する事象を身近なところから見つけ,主体的に問題解決しようとしたり,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。	1 情報化が進む現代 2 グローバル化が進む現代 3 少子高齢化が進む現代	1 情報化のさらなる進展は,私たちの生活にどのような影響をもたらすかを考える。 2 グローバル化は私たちの生活にどのような影響をもたらすかを考える。 3 少子高齢化が進むと,私たちの生活にどのような影響をもたらすかを考える。
		(知及技) わが国の伝統や文化に関する様々な資料を収集し,有用な情報を適切に読み取ることを通して,その意義や影響を理解し,その知識を身につけている。 (思判表力)現代社会における文化の意義や影響,文化の継承と創造の意義について,位置や空間的な広がり,推移や変化などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,表現することができる。 (学・人)わが国の伝統や文化について,自分の体験や身近な事例と結びつけて生活とのかかわりを考え,文化の継承と創造に積極的にかかわろうとすることができる。	(知・技) わが国の伝統や文化に関する様々な資料を収集し,有用な情報を適切に読み取ることを通して,その意義や影響を理解し,その知識を身につけようとしている。 (思・判・表)現代社会における文化の意義や影響,文化の継承と創造の意義について,位置や空間的な広がり,推移や変化などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,表現しようとしている。 (主学)わが国の伝統や文化について,自分の体験や身近な事例と結びつけて生活とのかかわりを考え,文化の継承と創造に積極的にかかわろうとしている。	1 生活に息づく文化 2 日本の伝統と文化■章の問い■ 現代日本の社会と文化にはどのような特色があるのだろうか。	1 文化は私たちの生活とどのように結びついていのかを考える。 2 日本の文化がどのように形づくられ,どのような特色があるのかを理解する。 ■ 章の学習で得た知識を確認し,章の問いへの答えを多面的・多角的に考える。
		(知及技) 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして,対立と合意,効率と公正などについて理解することができる。 (思判表力)対立と合意,効率と公正などに着目して,社会生活における物事の決定の仕方,契約を通した個人と社会との関係,きまりの役割について多面的・多角的に考察し,表現することができる。 (学・人)現代社会を捉える枠組みについて,現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとすることができる。	(知・技) 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして,対立と合意,効率と公正などについて理解しようとしている。 (思・判・表)対立と合意,効率と公正などに着目して,社会生活における物事の決定の仕方,契約を通した個人と社会との関係,きまりの役割について多面的・多角的に考察し,表現しようとしている。 (主学)現代社会を捉える枠組みについて,現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	1 社会的存在として生きる私たち 2 効率と公正 3 私たちときまり ● マンションの騒音問題を解決しよう ■章の問い■ 社会生活において,きまりにはどのような意義があるのだろうか。	1 私たちが生きていく上で,意見が対立した場合,どのように解決すればよいのかを考える。 2 意見が対立したとき,よりよい合意をつくるための考え方である 「効率」「公正」とは,どのような考え方なのかを理解する。 3 きまりが社会集団において,きまりにはどのような役割をはたしているかを考える。 ● マンションの騒音問題を解決するための方法を考える。 ■ 章の学習で得た知識を確認し,章の問いへの答えを多面的・多角的に考える。

	(知及技) 法の意義と法に基づく政治の大切さ,日本国憲法の原則,天皇の地位と国事行為について理解し,その知識を身に付けることができる。 (思判表力)民主的な社会生活にかかわる様々な事象から学習課題を見だし,対立と合意,効率と公正,個人の尊重と法の支配,民主主義などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,表現することができる。 (学・人)民主的な社会生活にかかわる様々な事象をもとに,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとすることができる。	(知・技) 法の意義と法に基づく政治の大切さ,日本国憲法の原則,天皇の地位と国事行為について理解し,その知識を身に付けようとしている。 (思・判・表)民主的な社会生活にかかわる様々な事象から学習課題を見だし,対立と合意,効率と公正,個人の尊重と法の支配,民主主義などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,表現しようとしている。 (主学)民主的な社会生活にかかわる様々な事象をもとに,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。	1 民主主義と立憲主義 2 人権保障と法の支配 ● みんなで決めるとはどういうこと? 3 日本国憲法の成立 4 国民主権 5 日本の平和主義 ◇節の問いを振り返ろう◇ 法に基づく政治が大切である理由を「国家」という言葉を用いて説明してみよう。	1 民主主義とはどのようなみで,それを実現するためにどのような取り組みが必要なのかを考える。 2 民主主義と人権の保障は,どのような歴史過程をたどって実現してきたのかを理解する。 ● 民主主義における決定の方法について考える。 3 大日本帝国憲法がどのような経緯で日本国憲法へと改正されたのかを理解する。 4 国民が主権を持つとはどのようなことなのかを理解する。 5 日本国憲法では,平和主義をどのように定めているのかを理解する。 ◇ 民主的な社会生活を営むうえで,なぜ法に基づく政治が大切なのかを考えさせる。
--	---	---	--	--

1 学期	(知及技) 基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方を理解し,その知識を身に付けることができる。 (思判表力)基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方と法との関連について,個人の尊重の視点から多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現することができる。 (学・人)人間の尊重についての考え方を踏まえて,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとすることができる。	(知・技) 基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方を理解し,その知識を身に付けようとしている。 (思・判・表)基本的人権を中心とした人間の尊重についての考え方と法との関連について,個人の尊重の視点から多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現しようとしている。 (主学)人間の尊重についての考え方を踏まえて,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。	1 個人の尊重と憲法上の権利 2 自由権 3 平等権と差別されない権利 4 日本社会の差別の現実 5 社会権 6 政治に参加する権利と人権を守るための権利 7 これからの人権を考える ◇節の問いを振り返ろう◇ 基本的人権の保障が大切な理由を「個人の尊重」という言葉を用いて説明してみよう。 ● 青果店を営む男性はどうなる?	1 日本国憲法では,基本的人権をどのように保障しているかを理解する。 2 日本国憲法では,自由権をどのように保障しているかを理解する。 3 日本国憲法では,平等権をどのように保障しているかを理解する。 4 現代社会に残る偏見や差別をなくすために,どのような取り組みが求められているかを考える。 5 日本国憲法では,社会権をどのように保障しているかを理解する。 6 人権を守るために,日本国憲法ではどのような権利が保障されているのかを理解する。 7 社会の変化に伴って,どのような人権が新たに求められているのかを理解する。 ◇ 個人の尊重を実現するために,なぜ基本的人権が保証されなければならないのかを考えさせる。 ● 権利を巡る対立からよりよい合意に至る方法を考える。
5	(知及技) 収集した資料の中から,我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることについての学習に役立つ情報を適切に選択して,読み取ったり図表にまとめたりすることができる。 (思判表力)我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について,対立と合意,効率と公正,個人の尊重と法の支配,民主主義などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,表現することができる。 (学・人)日本国憲法が国の統治について規定していることについて,主体的に学習問題を追究し,解決しようとするすることができる。	(知・技) 収集した資料の中から,我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることについての学習に役立つ情報を適切に選択して,読み取ったり図表にまとめたりしようとしている。 (思・判・表)我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について,対立と合意,効率と公正,個人の尊重と法の支配,民主主義などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,表現しようとしている。 (主学)日本国憲法が国の統治について規定していることについて,主体的に学習問題を追究し,解決しようとしている。	1 権力の分立 2 憲法の保障・改正と私たち ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本国憲法で規定されてる国の統治に関する大切な考え方を,「権力分立」という言葉を用いて説明してみよう。 ■章の問い■ 政治が日本国憲法に基づいて行われていることにはどのような意義があるのだろうか。	1 日本の三権はどのように分立しているのかを理解する。 2 日本国憲法では,憲法保障と憲法改正をどのように規定しているかを理解する。 ◇ 日本国憲法では,権力分立をどのように規定しているのを理解する。 ■ 章の学習で得た知識を確認し,章の問いへの答えを多面的・多角的に考える。

5	(知及技) 国民の政治参加や国民の意思を政治に十分に反映させるしくみについての資料を適切に調べまとめることができる。 (思判表力)議会制民主主義を守り,発展させるための関わり方を選択・判断して,適切に表現することができる。 (学・人)議会制民主主義が我が国の政治の原則であることに着目して,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとすることができる。	(知・技) 国民の政治参加や国民の意思を政治に十分に反映させるしくみについての資料を適切に調べまとめている。 (思・判・表)議会制民主主義を守り,発展させるための関わり方を選択・判断して,適切に表現しようとしている。 (主学)議会制民主主義が我が国の政治の原則であることに着目して,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。	1 国民の願いを実現するために 2 世論とマスメディア 3 政党の役割 4 選挙制度とその課題 ◇節の問いを振り返ろう◇ 個人を尊重し,基本的人権を守る政治を実現するために必要だと思うしくみをつくり上げ,理由とともに説明してみよう。	1 国民の願いを実現するために,国会はどのような役割を果たしているのかを考える。 2 政治においてマスメディアは,私たちとどのように関わっているのかを考える。 3 政党は政治においてどのような役割を果たしているのかを考える。 4 日本の政治において,選挙はどのように行われているかを理解する。 ◇ 個人を尊重し,基本的人権を守る政治を実現するための様々なしくみを理解する。
8	(知及技) 国の政治のしくみに関する資料をさまざまな情報手段を活用して収集し,有用な情報を適切に選択して,読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。 (思判表力)国会,内閣,裁判所の国民主権を守るための役割と課題について,多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現することができる。 (学・人)国の政治のしくみについて,主体的に問題解決しようとしたり,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとすることができる。	(知・技) 国の政治のしくみに関する資料をさまざまな情報手段を活用して収集し,有用な情報を適切に選択して,読み取ったり図表などにまとめたりしようとしている。 (思・判・表)国会,内閣,裁判所の国民主権を守るための役割と課題について,多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現しようとしている。 (主学)国の政治のしくみについて,主体的に問題解決しようとしたり,よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている。	1 国会の役割としくみ 2 国会の現状と課題 3 内閣の役割としくみ 4 行政の役割と課題 5 私たちの生活と裁判 6 人権を守る裁判とその課題 ◇節の問いを振り返ろう◇ 国会,内閣,裁判所の役割について,それぞれ「国民」という言葉を用いて説明してみよう。 ● 裁判の判決を考えよう	1 国会はどのような仕事を,どのようなしくみで行っているのかを理解する。 2 国会は,法律の制定においてどのような課題を抱えているのかを考える。 3 国民の要望を実現するために,内閣はどのような役割を果たしているのかを理解する。 4 現在の行政はどのような課題を抱えているのかを理解する。 5 裁判は私たちの生活のなかでどのような役割を果たしているのかを理解する。 6 裁判ではどのように人権が守られているのかを理解する。 ◇ 国会,内閣,裁判所は国民に対して,どのような役割を果たしているのかを考える。 ● 実際に起きた事件を題材に,裁判員として自分なりの判決を考える。

8	(知及技) 地方公共団体の政治のしくみに関する資料をさまざまな情報手段を活用して収集し,有用な情報を適切に選択して,読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。 (思判表力)地方自治体の政治と政治参加に関する課題を見だし,対立と合意,効率と公正などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察,構想し,表現することができる。 (学・人)身近な事例から地方自治体の政治に対する関心を高め,民主政治の基本的な考え方とそれに基づく地方公共団体の政治のしくみについて,意欲的に追究することができる。	(知・技) 地方公共団体の政治のしくみに関する資料をさまざまな情報手段を活用して収集し,有用な情報を適切に選択して,読み取ったり図表などにまとめたりしようとしている。 (思・判・表)地方自治体の政治と政治参加に関する課題を見だし,対立と合意,効率と公正などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察,構想し,表現しようとしている。 (主学)身近な事例から地方自治体の政治に対する関心を高め,民主政治の基本的な考え方とそれに基づく地方公共団体の政治のしくみについて,意欲的に追究しようとしている。	1 地方自治と地方公共団体 2 地方公共団体のしくみと政治参加 3 地方財政の現状と課題 4 私たちと政治参加◇節の問いを振り返ろう◇ 地方自治や民主政治を発展させるために,私たちがすべき政治参加について,今できることと,将来すべきことに分けて構想してみよう。 ● 自分が住むまちのまちづくりを考えよう ■章の問い■ 民主政治を発展させるためには,どのようなことが必要なのだろうか。	1 日本国憲法では,地方自治についてどのように定めているのかを理解する。 2 地方公共団体は,どのようなしくみで仕事を行っているのかを理解する。 3 地方公共団体の財政はどのような状況になっており,またどのような課題があるのかを考える。 4 国民が政治に参加する方法について理解する。 ◇ 地方自治や民主政治を発展させるためには,国民の政治参加が大切であること理解させる。 ● 自分が住むまちのまちづくりを考える。 ■ 章の学習で得た知識を確認し,章の問いへの答えを多面的・多角的に考える。
---	--	--	---	--

5	(知及技) 市場経済においては,価格には人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることを理解し,その知識を身につけることができる。 (思判表力)経済活動や市場経済の意義について,多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現することができる。 (学・人)経済活動や市場経済の意義について,予想や学習計画を立てたり,見直したりして,主体的に学習問題を解決しようすることができる。	(知・技) 市場経済においては,価格には人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることを理解し,その知識を身につけようとしている。 (思・判・表)経済活動や市場経済の意義について,多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現しようとしている。 (主学)経済活動や市場経済の意義について,予想や学習計画を立てたり,見直したりして,主体的に学習問題を解決しようとしている。	1 経済活動とお金の役割 ● あなたが無人島に漂着したら？ 2 お金の使い方と経済の考え方 3 価格の働きと経済◇節の問いを振り返ろう◇ 市場経済のしくみがある理由を,「分業」と「効率」という言葉を用いて説明してみよう。	1 私たちの生活の中で,経済活動はどのような役割を果たしているかを考える。 ● 無人島での生活をもとに,経済のしくみを理解する。 2 経済活動において「資源の効率的な配分」とはどのようなことを理解する。 3 市場経済とはどのようなしくみで成り立っているかを理解する。 ◇ 市場経済のしくみによって,商品が効率的に配分されていることについて理解する。
5	(知及技) 国や地方公共団体は消費者の権利の尊重およびその自立の支援のために,消費者政策を推進する役割を担っていることを理解し,その知識を身につけることができる。 (思判表力)経済活動を活発にするための消費者の役割や責任について,多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現することができる。 (学・人)個人の消費生活に関する諸問題に着目し,主体的に問題解決しようとしたり,学習したことを自らの消費生活に生かそうとすることができる。	(知・技) 国や地方公共団体は消費者の権利の尊重およびその自立の支援のために,消費者政策を推進する役割を担っていることを理解し,その知識を身につけようとしている。 (思・判・表)経済活動を活発にするための消費者の役割や責任について,多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現しようとしている。 (主学)個人の消費生活に関する諸問題に着目し,主体的に問題解決しようとしたり,学習したことを自らの消費生活に生かそうとしている。	1 家計の収入と支出 2 消費生活と流通の関わり 3 消費者問題と政府の取り組み ◇節の問いを振り返ろう◇ 経済活動において消費者が果たす役割や責任について,「自立」という言葉を用いて説明してみよう。 ● 一人暮らしにかかるお金を考えよう	1 家計の支出においてどのような選択が必要かを考える。 2 企業が生産した商品は,どのようにして私たちの手もとに届けられているのかを理解する。 3 消費者の権利は,政府によってどのように支えられているのかを理解する。 ◇ 経済活動において,消費者はどのような役割や責任を果たしているかを考える。 ● 一人暮らしを例として,消費において重視する選択の基準を考える。
9	(知及技) 企業の生産活動や金融に関する資料を,さまざまな情報手段を活用して収集し,有用な情報を適切に選択して,読み取ったり,図表などにまとめたりすることができる。 (思判表力)企業の生産活動や金融にかかわる様々な事象から課題を見だし,対立と合意,効率と公正などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現することができる。 (学・人)企業の生産活動や金融に関する諸問題について,主体的に問題解決しようとしたり,学習したことを社会生活に生かそうとすることができる。	(知・技) 企業の生産活動や金融に関する資料を,さまざまな情報手段を活用して収集し,有用な情報を適切に選択して,読み取ったり,図表などにまとめたりしている。 (思・判・表)企業の生産活動や金融にかかわる様々な事象から課題を見だし,対立と合意,効率と公正などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現しようとしている。 (主学)企業の生産活動や金融に関する諸問題について,主体的に問題解決しようとしたり,学習したことを社会生活に生かそうとしている。	1 私たちの生活と企業 2 企業活動のしくみ 3 金融のしくみと働き 4 企業競争の役割 5 働くことの意義と労働者の権利 6 労働環境の変化と私たち 7 企業の社会的責任◇節の問いを振り返ろう◇ 経済活動において企業が果たす役割や責任について,「消費者」「従業員」「国際社会」という言葉を用いて説明してみよう。 ● 企業の企画書を完成させよう	1 企業は経済活動においてどのような役割を果たし,どのような目的で活動しているのかを考える。 2 企業の活動はどのようなしくみで行われているのかを理解する。 3 銀行などの金融機関は,私たちの生活の中でどのような役割を果たしているのかを理解する。 4 企業競争は,私たちの生活にどのような影響をもたらすかを理解する。 5 労働者の権利は法律によってどのように保障されているのかを理解する。 6 日本の労働環境はどのように変化してきたのかを理解する。 7 現代社会の中で,企業にはどのような責任が求められているかを考える。 ◇ 経済活動において,企業はどのような役割や責任を果たしているのかを理解する。 ● 自分が起こしたい企業の企画書を完成させる。

2 学 期	7	(知及技) 日本経済における世界経済の影響に関する資料を,さまざまな情報手段を活用して収集し,有用な情報を適切に選択して,読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。 (思判表力)日本経済の発展のためにこれからの日本企業に求められることについて,多面的・多角的に考察し,表現することができる。 (学・人)グローバル化が進行する中,日本経済の発展について,主体的に問題解決しようとしたり,学習したことを社会生活に生かそうとすることができる。	(知・技) 日本経済における世界経済の影響に関する資料を,さまざまな情報手段を活用して収集し,有用な情報を適切に選択して,読み取ったり図表などにまとめたりしている。 (思・判・表)日本経済の発展のためにこれからの日本企業に求められることについて,多面的・多角的に考察し,表現しようとしている。 (主学)グローバル化が進行する中,日本経済の発展について,主体的に問題解決しようとしたり,学習したことを社会生活に生かそうとしている。	1 景気の変動とその影響 2 日本銀行と金融政策 3 グローバル化と日本経済 4 これからの日本の経済と私たち ◇節の問いを振り返ろう◇ 世界経済が変動するなかで,日本が経済発展していくために重要だと思う取り組みの一つを取り上げ,理由とともに説明してみよう。 ■章の問い■ 私たちの社会を豊かにするためには,経済にはどのような働きが求められるのだろうか。	1 景気の変動とはどのようなもので,企業はそれにどのように対応しているのかを理解する。 2 日本銀行は,日本経済の中でどのような役割を果たしているかを理解する。 3 経済のグローバル化の進行は,企業や私たちの生活にどのような影響を与えているかを考える。 4 これからの日本の産業が成長していくためには,どのような取り組みが必要かを考える。 ◇世界経済が変動する中で,日本経済が発展していくための取り組みを考える。 ■章の学習で得た知識を確認し,章の問いへの答えを多面的・多角的に考える。
	8	(知及技) 社会資本の整備,公害の防止など環境の保全,少子高齢社会における社会保障の充実・安定化,消費者の保護について,それらの意義を理解することができる。 (思判表力)対立と合意,効率と公正,分業と交換,希少性などに着目して,財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し,表現することができる。 (学・人)国民の生活と政府の役割について,現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとすることができる。	(知・技) 社会資本の整備,公害の防止など環境の保全,少子高齢社会における社会保障の充実・安定化,消費者の保護について,それらの意義を理解しようとしている。 (思・判・表)対立と合意,効率と公正,分業と交換,希少性などに着目して,財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し,表現しようとしている。 (主学)国民の生活と政府の役割について,現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	1 私たちの生活と財政 2 国の支出と収入 3 社会資本の役割と環境への取り組み ●赤字バス路線に税金を使うべきか? 4 社会保障と私たちの生活 5 これからの日本の財政 ■章の問い■ 国民の生活と福祉の向上を図るために,政府はどのような役割を果たすべきなのだろうか。	1 市場経済において,政府はどのような役割を果たしているのかを考える。 2 政府はどのようにお金を集め,どのようなことに使っているのかを理解する。 3 私たちの生活をよりよくするために,国や地方公共団体はどのような社会資本を整備しているのかを理解する。 ●赤字路線バスを巡る住民の対立からよりよい合意に至る税金の使い道を市長の立場から選択する。 4 社会保障制度にはどのようなものがあり,これからはどうあれば良いのかを考える。 5 少子高齢化が進むなかで,これからの日本の財政はどうあるべきかを考える。 ■章の学習で得た知識を確認し,章の問いへの答えを多面的・多角的に考える。
	9	(知及技) 国際協調のあり方や国際機構の役割について理解し,その知識を身につけることができる。 (思判表力)国家間の相互の主権の尊重と協力,各国の相互理解と協力について,課題を見だし,対立と合意,効率と公正,協調,持続可能性などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察,構想し,表現することができる。 (学・人)国家間の相互の主権の尊重と協力,各国の相互理解と協力について,主体的に問題解決しようとしたり,よりよい国際協調のあり方を考えることができる。	(知・技) 国際協調のあり方や国際機構の役割について理解し,その知識を身につけようとしている。 (思・判・表)国家間の相互の主権の尊重と協力,各国の相互理解と協力について,課題を見だし,対立と合意,効率と公正,協調,持続可能性などの見方・考え方を働かせて,多面的・多角的に考察,構想し,表現しようとしている。 (主学)国家間の相互の主権の尊重と協力,各国の相互理解と協力について,主体的に問題解決しようとしたり,よりよい国際協調のあり方を考えようとしている。	1 国家と国際社会 2 領土を巡る取り組み 3 国際連合の働きとしくみ 4 現代における紛争 5 兵器の脅威と軍縮への努力 6 グローバル化が進む国際社会 7 国際社会における日本の役割 ◇節の問いを振り返ろう◇ 国際社会において,国際協調が必要な理由を,「紛争」「平和」という言葉を用いて説明してみよう。 ●日本は難民をどう支援していくべきか?	1 国際社会にはどのようなルールがあるのかを考える。 2 現代の日本では,領土をめぐるどのような動きがあるのかを理解する。 3 国際連合は国際社会の中で,どのような役割を果たしているのかを理解する。 4 地域紛争をなくし,平和を実現するうえで,どのような課題があるのかを考える。 5 核兵器や軍縮を巡る状況は,どのように変化してきたかを理解する。 6 現代の国際社会にはどのような課題があるのかを理解する。 7 唯一の被爆国であり,平和主義をかかげる日本は,国際社会でどのような役割を果たすべきかを考える。 ◇国際平和の実現のために,国際協調が必要である理由を考える。 ●難民の受け入れや難民の支援のあり方を考える。

		(知及技) 温室効果ガスの削減に向けての国際的な取り組みと課題,日本の対応について理解し,その知識を身につけることができる。 (思判表力)地球環境,資源・エネルギー,貧困などの課題について,対立と合意,効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現することができる。 (学・人)地球温暖化防止に対する国際社会とわが国の取り組みに関心をもち,自分たちが協力できることを考えることができる。	(知・技) 温室効果ガスの削減に向けての国際的な取り組みと課題,日本の対応について理解し,その知識を身につけようとしている。 (思・判・表)地球環境,資源・エネルギー,貧困などの課題について,対立と合意,効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し,その過程や結果を適切に表現しようとしている。 (主学)地球温暖化防止に対する国際社会とわが国の取り組みに関心をもち,自分たちが協力できることを考えようとしている。	1 貧困問題とその解消 2 地球規模で広がる環境問題 3 資源・エネルギー問題 4 国際社会のよりよい発展 ◇節の問いを振り返ろう◇ 地球規模の社会的課題を解決していくために,どのような国際協調が求められているか,「持続可能性」という言葉を用いて説明してみよう。 ■章の問い■ 世界平和と人類の福祉の増大を実現するために,国際社会はどのようなことができるのだろうか。	1 貧困問題の解消に向けて,国際社会でどのような取り組みが進められているかを理解する。 2 地球温暖化防止について,国際社会ではどのような取り組みが進められているのかを理解する。 3 省資源や省エネルギーに,日本はどのように取り組んでいけばよいのかを考える。 4 「誰一人取り残さない」社会を実現していくために,国際社会はどのような取り組みをすべきかを考える。 ◇ 地球規模の社会的課題を解決するために,どのような国際協調が求められているかを考える。 ■ 章の学習で得た知識を確認し,章の問いへの答えを多面的・多角的に考える。
--	--	--	--	---	---

3 学 期	30	(知及技) 持続可能な社会を形成することに向けて,社会的な見方・考え方を働かせ,課題を探究する活動を通して,次の資質・能力を身に付けることができる。 (思判表力)社会的な見方・考え方を働かせ,私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察,構想し,自分の考えを説明,論述することができる。 (学・人)私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について,現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとすることができる。	(知・技) 持続可能な社会を形成することに向けて,社会的な見方・考え方を働かせ,課題を探究する活動を通して,次の資質・能力を身に付けようとしている。 (思・判・表)社会的な見方・考え方を働かせ,私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察,構想し,自分の考えを説明,論述しようとしている。 (主学)私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題について,現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	1 持続可能な社会を目指して 2 レポート作成 3 発表会	1 「持続可能な社会」の実現に向けて,私たちはどのように行動すべきかを考える。 2 課題決定,資料収集,四部構成と三部構成,課題考察 3 発表会
留 点 引 継 ぎ 等		上記総時数135テスト時数 5合計配当時数140			

単位数 ／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
140	新しい数学/中 3 数学をひとつひとつわかりやすく	

1章 文字式を使って説明しよう [多項式] (22 時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすることができる。 ・簡単な1次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。 $(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$ $(x+a)^2=x^2+2ax+a^2$ $(x-a)^2=x^2-2ax+a^2$ $(x+a)(x-a)=x^2-a^2$	・既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解する方法を考察し表現することができる。 ・文字を用いた式を活用して数量及び数量の関係を捉え説明することができる。	・式の展開や因数分解をすることの必要性や意味を考えようとしている。 ・式の展開や因数分解について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・式の展開や因数分解を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 多 項	先にゴールするのはどのコース？ (教科書 p.9～11)	1	具体的な問題を、文字式とその計算を利用して解決することを通して、文字のよさを理解する。	- どのコースが先にゴールするかを、コースの長さを比べて予想し、実際の映像で確認する。 - 点Pの位置を変えるとどうなるかを、文字式とその計算を使って考える。		○具体的な問題を、文字式とその計算を利用して解決することができる。	○文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。
	1 多項式と単項式の乗除						

式の計算	(教科書 p. 12～13)	2	単項式と多項式の乗法や多項式を単項式でわる除法の計算ができる。	- 単項式と多項式の乗法の計算をする。 - 多項式を単項式でわる除法の計算をする。	○単項式と多項式の乗法の計算方法を理解し、計算することができる。 ○多項式を単項式でわる除法の計算方法を理解し、計算することができる。		
------	----------------	---	---------------------------------	--	--	--	--

2 多項式の乗法 (教科書 p. 14～15)	3	式を展開することの意味を理解し、多項式どうしの積を展開できる。	- 多項式と多項式の乗法を、面積図を用いたり、1 つの多項式を文字に置きかえたりして考える。 - 式を展開することの意味を知る。 - 多項式どうしの積を展開する。 [用語・記号] 展開する	○式を展開することの意味を理解し、多項式どうしの積を展開できる。	○多項式と多項式の乗法を、面積図を用いたり、1つの多項式を文字におきかえたりして考え、説明することができる。	○式を展開することの必要性和意味を考えようとしている。	
3 乗法公式 (教科書 p. 16～21)	4	乗法公式 1 を見だし、それを利用して式を展開できる。	$(x+a)(x+b)$ を展開したり、面積図を用いたりして、乗法公式 1 をつくる。 - 乗法公式 1 を利用して、式を展開する。	○乗法公式 1 を理解し、公式 1 を利用して式を展開できる。	○ $(x+a)(x+b)$ を展開したり、面積図を用いたりして、乗法公式 1 を導くことができる。	○式を展開する方法を考えようとしている。	
	5	乗法公式 2, 3 を見だし、それらを利用して式を展開できる。	- 乗法公式 1 をもとにして、和の平方、差の平方を展開するための乗法公式 2, 3 をつくる。 - 乗法公式 2, 3 を利用して、式を展開する。	○乗法公式 2, 3 を理解し、公式 2, 3 を利用して式を展開できる。	○乗法公式 1 をもとにして、乗法公式 2, 3 を導くことができる。		
	6	乗法公式 4 を見だし、それを利用して式を展開できる。	- 乗法公式 1 をもとにして、和と差の積を展開するための乗法公式 4 をつくる。 - 乗法公式 4 を利用して、式を展開する。	○乗法公式 4 を理解し、公式 4 を利用して式を展開できる。	○乗法公式 1 をもとにして、乗法公式 4 を導くことができる。		
	7	乗法公式を利用して、いろいろな式をくふうして展開できる。	- 式の一部を 1 つの文字におきかえて、式を展開する。 - 式の展開と加法、減法を組み合わせた式の計算をする。	○乗法公式を利用して、いろいろな式をくふうして展開できる。	○乗法公式を利用するために、式の一部を 1 つの文字におきかえる方法を考え、説明することができる。		
基本の問題 (教科書 p. 22)	8						○式の展開について学んだことを学習に生かそうとしている。

2 因 数 分 解	長方形の縦と横の長さは？ (教科書 p. 23)	9	式の展開とは逆に，多項式をいくつかの式の積で表すことができることを理解する。	・ 巻末の正方形や長方形を組み合わせて，あたえられた面積の長方形をつくり，縦と横の長さがどんな式で表されるかを調べる。	○多項式をいくつかの式の積で表すことができることを理解している。 ○巻末の正方形や長方形を使って，あたえられた面積の長方形をつくることができる。		○式を因数分解することの必要性や意味を考えようとしている。
	1 因数分解 (教科書 p. 24～25)	10	式を因数分解することの意味を理解し，共通な因数をくくり出して，式を因数分解できる。	・ 式の因数，式を因数分解することの意味を知る。 ・ 共通な因数をくくり出して，式を因数分解する。 [用語・記号] (数の)因数，素因数，(多項式の)因数，因数分解する	○式の因数，式を因数分解することの意味を理解し，共通な因数をくくり出して，式を因数分解できる。		
	2 公式を利用する因数分解 (教科書 p. 26～30)	11	乗法公式 1 を逆にみて，公式 1' を導き，それを利用して，式を因数分解できる。	・ $x^2+7x+12$ の因数分解を，面積図を使って考える。 ・ 公式 1' を利用して，式を因数分解する。	○因数分解の公式 1' を理解し，公式 1' を利用して，式を因数分解できる。	○公式 1' の因数分解で， a ， b の見つけ方を，面積図を使って考え，説明することができる。	○式を因数分解する方法を考えようとしている。
		12	乗法公式 2，3，4 を逆にみて，公式 2'，3'，4' を導き，それらを利用して，式を因数分解できる。	・ x^2+6x+9 の因数分解を，公式 1' を使って考える。 ・ 公式 2'，3'，4' を利用して，式を因数分解する。	○因数分解の公式 2'，3'，4' を理解し，公式 2'，3'，4' を利用して，式を因数分解できる。		
		13	因数分解の公式を利用して，いろいろな式をくふうして因数分解できる。	・ 共通因数をくくり出してから，式を因数分解する。 ・ 式の一部を 1 つの文字におきかえて，式を因数分解する。	○因数分解の公式を利用して，いろいろな式をくふうして因数分解できる。	○因数分解の公式を利用するために，式の一部を 1 つの文字におきかえる方法を考え，説明することができる。	○式の因数分解について学んだことを学習に生かそうとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 30)	14					
3 式 の	速算のしくみを探ろう (教科書 p. 31～32)	15	速算の方法を予想し，その予想が正しいことを文字式とその計算を利用して証明する。	・ 一の位が 5 の 2 けたの整数の 2 乗について，速算の方法を予想し，それがいつでも成り立つことを証明する。	○文字を使って数量を表したり，目的に応じて式を変形したりすることができる。	○速算の方法が正しいことを，文字を使って証明することができる。	○式の展開や因数分解について学んだことを学習に生かそうとしている。

計 算 の 利 用	1 式の計算の利用（教科書 p. 33～35）	16	乗法公式や因数分解の公式を利用して，数の計算の結果や式の値をくふうして求めることができる。	・展開や因数分解を利用して，数の計算の結果や式の値をくふうして求める。		○乗法公式や因数分解の公式を利用して，数の計算の結果や式の値をくふうして求める方法を考え，説明することができる。	○式の展開や因数分解を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
		17	数の性質が成り立つことを，文字を使って証明することができる。	・2 つの続いた奇数の積に 1 を加えた数の性質を予想し，文字を使って証明することができる。 ・証明した数の性質の条件を変えることで，それらの性質を統合的に考えることができる。	○文字を使って数量を表したり，目的に応じて式を変形したりすることができる。	○数の性質が成り立つことを，文字を使って証明することができる。 ○文字を使った証明を読んで，新たな性質を見いだすことができる。	
		18	図形の性質が成り立つことを，文字式とその計算を利用して証明することができる。	・幅一定の図形の面積は，（幅）×（中央を通る線の長さ）で求められることを，式の計算を利用して証明する。	○文字を使って数量を表したり，目的に応じて式を変形したりすることができる。	○図形の性質が成り立つことを，文字式とその計算を利用して証明することができる。	
章の問題 A （教科書 p. 38）		19 ～ 22					

2 章 数の世界をさらにひろげよう【平方根】（19時間）

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 数の平方根の必要性和意味を理解している。 - 有理数，無理数の意味を理解している。 - 数の平方根をふくむ簡単な式の計算をすることができる。 - 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすることができる。	- これまでに学んだ文字式の計算などに関連付けて，数の平方根をふくむ式の計算の方法を考察し表現することができる。 - 数の平方根を具体的な場面で活用することができる。	- 数の平方根の必要性や意味を考えようとしている。 - 数の平方根について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 - 数の平方根を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	いろいろな面積の正方形をかくてみよう （教科書 p. 41～43）	1	方眼を使ってかいた正方形には，1 辺の長さが整数で表せない場合があることを理解する。	1 辺の長さが 1cm の方眼を使って，いろいろな面積の正方形をかく。 - 正方形の 1 辺の長さをはかったり，計算したりして調べる。		○方眼を使ってかいた正方形の面積の求め方を考え，説明することができる。	○数の平方根の必要性和意味を考えようとしている。

平方根	1 平方根 (教科書 p. 44～49)	2	2 乗して 2 になる数は、かぎりなく続く小数であり，根号を使って表すことを理解する。	・ 2 乗して 2 になる数の近似値を求める。 [用語・記号] $\sqrt{\quad}$ ，根号，近似値	○ 2 乗して 2 になる数は，かぎりなく続く小数であり，根号を使って表すことを理解している。	
		3	平方根の意味を理解し，ある数の平方根を求めることができる。	・ 平方根の意味を知る。 ・ ある数の平方根を求める。 $\sqrt{a^2}$ ， $(\sqrt{a})^2$ を，根号を使わずに表す。 [用語・記号] 平方根	○ 平方根の意味を理解し，ある数の平方根を求めることができる。 $\sqrt{a^2}$ ， $(\sqrt{a})^2$ ○ を，根号を使わずに表すことができる。	
		4	平方根の大小関係を理解し，平方根の大小を不等号を使って表すことができる。	・ 正方形の 1 辺の長さを比べて，平方根の大小を調べる。 ・ 平方根の大小を，不等号を使って表す。	○ 平方根の大小関係を理解し，平方根の大小を不等号を使って表すことができる。	○ 2 つの正方形の面積と 1 辺の長さの関係をもとに，平方根の大小を考え，説明することができる。
		5	有理数，無理数の意味を理解し，これまで学んだ数を有理数と無理数に分類できる。	・ これまで学んだ数を振り返って，有理数と無理数に分類する。 ・ 有理数と無理数を合わせると，数直線上の点に対応する数をすべて表すことができることを知る。 ・ 有理数を小数で表したときの特徴を調べる。 [用語・記号] 有理数，無理数	○ 有理数，無理数の意味を理解し，これまで学んだ数を有理数と無理数に分類できる。 ○ 有理数を小数で表すと，有限小数か循環小数になることを理解している。	
	基本の問題 (教科書 p. 50)	6				

2 根号をふくむ式の計算	新しい数の世界の計算を考えよう (教科書 p. 51)	7	根号をふくむ式の乗法や除法の計算方法を理解する。	・ $\sqrt{a} \times \sqrt{b} = \sqrt{a \times b}$ と計算してよいかどうかを，具体的な数や近似値を用いて考える。 ・ $\sqrt{a} \times \sqrt{b} = \sqrt{a \times b}$ となることを，論理的に説明する。	○ 根号をふくむ式の乗法や除法の計算方法を理解している。	○ $\sqrt{a} \times \sqrt{b} = \sqrt{a \times b}$ と計算してよい理由を，具体的な数や近似値を用いて考え，説明することができる。	○ 根号をふくむ式の乗法や除法の計算方法を考えようとしている。
	1 根号をふくむ式の乗除 (教科書 p. 52～56)		8	根号のついた数を変形することができる。また，根号のついた数を変形して，近似値を求めることができる。	・ $a\sqrt{b}$ を $\sqrt{a^2b}$ の形に表したり， $\sqrt{a^2b}$ を $a\sqrt{\quad}$ の形に表したりする。 ・ 根号のついた数を変形して，近似値を求める。	○ 根号のついた数を変形することができる。 ○ 根号のついた数を変形して，近似値を求めることができる。	
			9	分母を有理化することの意味を理解し，ある数の分母を有理化することができる。	・ 分母を有理化することの意味を知る。 ・ ある数の分母を有理化する。 [用語・記号] 分母を有理化する	○ 分母を有理化することの意味を理解し，ある数の分母を有理化することができる。	

		10	根号をふくむ式の乗法や除法の計算ができる。	・根号をふくむ式の乗法や除法を，くふうして計算する。	○根号をふくむ式の乗法や除法の計算ができる。		
	2 根号をふくむ式の加減 (教科書 p. 57～59)	11	$\sqrt{a} + \sqrt{b}$ を $\sqrt{a+b}$ と計算できない理由を，近似値や面積図を用いて考え，説明することができる。	・ $\sqrt{a} + \sqrt{b}$ を $\sqrt{a+b}$ と計算してよいかどうかを，近似値や面積図を用いて考え，説明する。	○ $\sqrt{2} + \sqrt{3}$ は，これ以上簡単にすることができない数であることを理解している。	○ $\sqrt{a} + \sqrt{b}$ を $\sqrt{a+b}$ と計算できない理由を，近似値や面積図を用いて考え，説明することができる。	○根号をふくむ式の加法や減法の計算方法を考えようとしている。
		12	根号をふくむ式の加法や減法の計算ができる。	・面積が 2cm^2 の正方形を 4 つ並べてできる正方形の 1 辺の長さを，いろいろな考え方で表す。 ・根号をふくむ式の加法や減法の計算をする。	○根号をふくむ式の加法や減法の計算ができる。		
	3 根号をふくむ式のいろいろな計算 (教科書 p. 60～61)	13	分配法則や乗法公式を利用して，根号をふくむ式を計算できる。また，根号をふくむ式の計算を使って，式の値を求めることができる。	・分配法則や乗法公式を使って，根号をふくむ式を計算する。 ・根号をふくむ式の計算を使って，式の値を求める。	○分配法則や乗法公式を利用して，根号をふくむ式を計算できる。 ○根号をふくむ式の計算を使って，式の値を求めることができる。		○既習の計算法則などを，根号をふくむ式の計算に生かそうとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 62)	14					
3 平方根の利用	コピー用紙はどんな長方形？ (教科書 p. 63～65)	15	数の平方根を具体的な場面で活用することができる。	・B5 判のコピー用紙の，短い辺と長い辺の長さの比を，紙を折ったり，図をかいたりして考える。	○具体的な場面で数の平方根を用いて表したり，処理したりすることができる。	○数の平方根を具体的な場面で活用することができる。	○数の平方根について学んだことを生活に生かそうとしている。 ○数の平方根を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
章の問題 A (教科書 p. 66)		16～19					

3 章 方程式を利用して問題を解決しよう [2次方程式]（18時間）

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・2次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。 ・平方の形に変形し2次方程式を解くことができる。 ・解の公式の意味を理解し、それを用いて2次方程式を解くことができる。 ・因数分解を利用して2次方程式を解くことができる。 ・事象の中の数量やその関係に着目し、2次方程式をつくることができる。	・平方根や因数分解の考えをもとにして、2次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ・具体的な問題の解決に2次方程式を活用し、解が適切であるかどうかを判断することができる。	・2次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ・2次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・2次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2 次 方 程 式 と そ の 解 き 方	ロープで囲んだ長方形の面積は？ (教科書 p. 69～71)	1	具体的な問題を解決することを通して、2次方程式の必要性を理解する。	・ 周の長さが 24m の長方形を図にかいて、縦、横の長さとも面積について調べる。 ・ 面積が 34m² のとき、縦と横の長さを求めるための方程式をつくる。	○具体的な問題の中から数量の間の関係を見だし、2次方程式をつくることができる。		○2 次方程式の必要性和意味を考えようとしている。
	1 2 次方程式とその解 (教科書 p. 72～73)						
	2 平方根の考えを使った解き方 (教科書 p. 74～77)	3	平方根の考えを使って、 $ax^2+c=0$ 、 $(x+▲)^2=●$ の形をした 2 次方程式を解くことができる。	・ 平方根の考えをもとにして、2 次方程式の解き方を考える。 ・ 平方根の考えを使って、$ax^2+c=0$、$(x+▲)^2=●$の形をした 2 次方程式を解く。	○平方根の考えを使って、 $ax^2+c=0$ 、 $(x+▲)^2=●$ の形をした 2 次方程式を解くことができる。	○平方根の考えをもとにして、2 次方程式の解き方を考え、説明することができる。	○平方根の考えをもとにして、2 次方程式の解き方を考えようとしている。
		4	$x^2+px+q=0$ の形をした 2 次方程式を、 $(x+▲)^2=●$ の形に変形して解く方法を理解する。	・ $x^2+px+q=0$ の形をした 2 次方程式を、 $(x+▲)^2=●$ の形に変形して解く方法を考える。	○ $x^2+px+q=0$ の形をした 2 次方程式を、 $(x+▲)^2=●$ の形に変形	○ $x^2+px+q=0$ の形をした 2 次方程式を、 $(x+▲)^2=●$ の形に変形	

		5	$x^2+px+q=0$ の形をした 2 次方程式を, $(x+▲)^2=●$ の形に変形して解くことができる。	・ $x^2+px+q=0$ の形をした 2 次方程式を, $(x+▲)^2=●$ の形に変形して解く。	して解く方法を理解し, 解くことができる。	して解く方法を考え, 説明することができる。	
	3 2 次方程式の解の公式 (教科書 p. 78～80)	6	2 次方程式の解の公式の意味を理解する。	・ 2 次方程式 $3x^2+5x+1=0$ の解き方にならって, 2 次方程式 $ax^2+bx+c=0$ を解くことで, 解の公式が導けることを知る。 [用語・記号] 解の公式	○2 次方程式の解の公式の意味を理解し, 解の公式を使って 2 次方程式を解くことができる。		
		7	解の公式を使って 2 次方程式を解くことができる。	・ 解の公式を使って 2 次方程式を解く。			
	4 因数分解を使った解き方 (教科書 p. 81～82)	8	因数分解を使って 2 次方程式を解くことができる。	・ 因数分解の考えをもとにして, 2 次方程式の解き方を考える。 ・ 因数分解を使って 2 次方程式を解く。 ・ $x^2=4x$ の解き方の誤りを指摘し, 正しい解を求める。	○因数分解を使って 2 次方程式を解くことができる。	○因数分解の考えをもとにして, 2 次方程式の解き方を考え, 説明することができる。	○因数分解の考えをもとにして, 2 次方程式の解き方を考えようとしている。
	5 いろいろな 2 次方程式 (教科書 p. 83～84)	9	いろいろな 2 次方程式を, 適当な方法で解くことができる。	・ 2 次方程式の解き方を振り返って, どの方法で解いても解は同じになることを確認する。 ・ いろいろな 2 次方程式を, 適当な方法で解く。	○いろいろな 2 次方程式を, 適当な方法で解くことができる。	○2 次方程式の式の形や係数に着目して, それぞれに適した解き方を考え, 説明することができる。	○2 次方程式の解き方を振り返って, よりよい方法で解こうとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 84)	10					

2 2 次	畑に通路をつくろう (教科書 p. 85～86)	11	具体的な問題を, 2 次方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。	・ 花だんの通路の幅を, 2 次方程式を利用して求めることについて考える。 ・ 2 次方程式を使って文章題を解く手順を確認する。	○2 次方程式を利用して問題を解決するときの手順を理解している。	○具体的な問題の解決に 2 次方程式を活用し, 解が適切であるかどうかを判断することができる。	○2 次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
-------------	-----------------------------	----	---	---	----------------------------------	---	-----------------------------------

方程式の利用	1 2次方程式の利用 (教科書 p. 87～89)	12	数に関する問題を，2 次方程式を利用して解決することができる。	・数に関する問題を，2 次方程式を利用して解決する。	○具体的な問題の中から数量の間の関係を見いだし，2 次方程式をつくることができる。		○2 次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
		13	長方形の紙から作った直方体の容器の容積に関する問題を，2 次方程式を利用して解決することができる。	・長方形の紙から作った直方体の容器の容積に関する問題を，2 次方程式を利用して解決する。			
		14	図形の動点に関する問題を，2 次方程式を利用して解決することができる。	・図形の動点に関する問題を，2 次方程式を利用して解決する。			
章の問題A (教科書 p. 90)		15 ～ 18					

4 章 関数の世界をひろげよう [関数 $y=ax^2$] (20時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 関数 $y=ax^2$ について理解している。 - 事象の中には関数 $y=ax^2$ として捉えられるものがあることを知っている。 - 関数 $y=ax^2$ を表，式，グラフを用いて表現したり，処理したりすることができる。 - いろいろな事象の中に，関数関係があることを理解している。	- 関数 $y=ax^2$ として捉えられる 2 つの数量について，変化や対応の特徴を見いだし，表，式，グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 - 関数 $y=ax^2$ を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	- 関数 $y=ax^2$ の必要性和意味を考えようとしている。 - 関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 - 関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

1 関数 = ax^2	ジェットコースターの進むようすは？ (教科書 p. 93～95)	1	具体的な事象の中の 2 つの数量の変化や対応の様子を調べ、変化の割合が一定ではない関数があることを理解する。	・ジェットコースターでは、進んだ距離が時間にもなってどのように変化するかを調べる。	○具体的な事象の中の 2 つの数量の変化や対応の様子を調べ、変化の割合が一定ではない関数があることを理解する。	○具体的な事象の中の 2 つの数量の変化や対応の様子を、表やグラフを用いて調べ、その特徴を説明することができる。	○関数 $y=ax^2$ の必要性和意味を考えようとしている。
	1 関数 $y=ax^2$ (教科書 p. 96～98)	2	関数 $y=ax^2$ の意味を理解する。	・ジェットコースターが斜面を下りる場合を、球が斜面を転がる場面におきかえて、時間と距離の関係を調べる。 ・関数 $y=ax^2$ の意味を知る。 [用語・記号] y は x の 2 乗に比例する、比例定数(関数 $y=ax^2$)	○関数 $y=ax^2$ の意味を理解している。		
		3	関数 $y=ax^2$ の意味を理解し、 $y=ax^2$ の式に表すことができる。	・ y を x の式で表して、 y は x の 2 乗に比例するかどうかを調べる。 ・1 組の x 、 y の値の組から、 $y=ax^2$ の式を求める。	○関数 $y=ax^2$ の関係を式に表すことができる。		
2 関数 = ax^2 の性質と調べ方	関数 $y=ax^2$ の性質を調べてみよう (教科書 p. 99)	4	関数 $y=x^2$ のグラフの特徴を理解する。	・比例や 1 次関数の性質を調べたときの経験を振り返って、関数 $y=ax^2$ の性質の調べ方に見通しをもつ。 ・関数 $y=x^2$ のグラフがどのような形になるかを調べる。 ・関数 $y=x^2$ のグラフの特徴を調べる。	○関数 $y=x^2$ のグラフは、その式をみたす点の集合で、なめらかな曲線であることを理解している。 ○関数 $y=x^2$ のグラフの特徴を理解している。		○関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴を捉えようとしている。
	1 関数 $y=ax^2$ のグラフ (教科書 p. 100～106)		関数 $y=x^2$ と $y=2x^2$ のグラフ、関数 $y=2x^2$ と $y=-2x^2$ のグラフの関係を理解する。	・関数 $y=x^2$ のグラフをもとにして、 $y=2x^2$ のグラフをかき、その特徴を調べる。 ・関数 $y=2x^2$ のグラフをもとにして、 $y=-2x^2$ のグラフをかき、その特徴を調べる。	○関数 $y=x^2$ と $y=2x^2$ のグラフ、関数 $y=2x^2$ と $y=-2x^2$ のグラフの関係を理解している。 ○関数 $y=ax^2$ のグラフをかくことができる。	○関数 $y=x^2$ と $y=2x^2$ のグラフ、関数 $y=2x^2$ と $y=-2x^2$ のグラフを関連付けて、その特徴を説明することができる。	
		6	関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴を理解する。	・関数 $y=ax^2$ のグラフについて、 a の値をいろいろにとって、その特徴を調べる。 ・関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴をまとめる。 [用語・記号] 放物線	○関数 $y=ax^2$ のグラフの特徴を理解している。	○関数 $y=ax^2$ のグラフについて、 a の値と関連付けて、その特徴を説明することができる。	
	2 関数 $y=ax^2$ の値の変化 (教科書 p. 107～112)	7	関数 $y=ax^2$ の値の変化の特徴を理解する。	・関数 $y=ax^2$ の値の増減について調べる。 ・1 次関数と関数 $y=ax^2$ の変化の割合を比べ、その特徴を調べる。	○関数 $y=ax^2$ の値の増減とグラフの特徴を理解している。 ○関数 $y=ax^2$ の変化の割合は一定ではないことを理解している。	○関数 $y=ax^2$ の変化の割合を、1 次関数の変化の割合と対比させて考え、説明することができる。	○関数 $y=ax^2$ の値の変化の特徴を捉えようとしている。

		8	関数 $y=ax^2$ の変化の割合を求めることができる。	・関数 $y=ax^2$ の変化の割合を求める。	○関数 $y=ax^2$ の変化の割合を求めることができる。 ○関数 $y=ax^2$ の変化の割合は、グラフ上の 2 点を通る直線の傾きを表していることを理解している。		
		9	関数 $y=ax^2$ で、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる。	・関数 $y=ax^2$ で、 x の変域に対応する y の変域を求める。 ・関数 $y=ax^2$ と関数 $y=ax+b$ の特徴を、振り返ってまとめる。	○関数 $y=ax^2$ で、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる。 ○関数 $y=ax^2$ と関数 $y=ax+b$ の特徴を、対比させて理解している。		
		10	具体的な事象において、関数 $y=ax^2$ の変化の割合の意味を考え、説明することができる。	・ジェットコースターの例で、変化の割合がどんなことを表しているかを考える。 ・平均の速さを求めることができる。	○平均の速さを求めることができる。	○具体的な事象において、関数 $y=ax^2$ の変化の割合の意味を考え、説明することができる。	
	基本の問題 (教科書 p. 113)	11					
3 いろいろな関数の利用	走行時の速さを推測しよう (教科書 p. 115～116)	12	具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を、関数 $y=ax^2$ とみなして、問題を解決することができる。	・自動車の走行時の速さを、速さとブレーキ痕の長さの関係をもとにして予想する。	○身のまわりには、2 つの数量の間の関係を関数 $y=ax^2$ とみなして、問題を解決できる場面があることを理解している。	○具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を、関数 $y=ax^2$ とみなして、問題を解決することができる。	○関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活に生かそうとしている。 ○関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	1 関数 $y=ax^2$ の利用 (教科書 p. 117～119)	13	具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を、関数 $y=ax^2$ で捉え、問題を解決することができる。	・身のまわりの問題を、関数 $y=ax^2$ やそのグラフを利用して解決する。		○具体的な事象の中の 2 つの数量の間の関係を、関数 $y=ax^2$ で捉え、問題を解決することができる。	
		14	放物線と直線の 2 つの交点の座標や 2 つの交点を通る直線の式を求めることができる。	・放物線と直線 2 つの交点の座標や 2 つの交点を通る直線の式を求める。	○放物線と直線の 2 つの交点の座標や 2 つの交点を通る直線の式を求めることができる。	○放物線と直線の 2 つの交点の座標や 2 つの交点を通る直線の式の求め方を考え、説明することができる。	
	2 いろいろな関数 (教科書 p. 120～121)	15	いろいろな事象の中から関数関係を見だし、その変	・いろいろな事象の中から関数関係を見つけ、その変化や対応の様子を調べる。	○いろいろな事象の中に関数関係があることを理解している。	○いろいろな事象の中から関数関係を見だし、その変化や対応	

		16	化や対応の特徴を捉え，説明することができる。			の特徴を捉え，説明することができる。	
章の問題A (教科書 p. 124)		17 ～ 20					

5 章 形に着目して図形の性質を調べよう [相似な図形]（26 時間）

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している。 ・ 相似な平面図形の相似比と面積比の関係について理解している。 ・ 基本的な立体の相似の意味を理解し、相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係について理解している。 ・ 誤差，有効数字の意味を理解し，近似値を $a\times 10^n$ の形に表現することができる。	・ 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ・ 平行線と線分の比についての性質を見だし，それらを確かめることができる。 ・ 相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	・ 図形の相似の意味や，相似な図形の相似比と面積比や体積比の関係を考えようとしている。 ・ 図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・ 相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	相似な図形						
		1	身のまわりにあるものを図形とみなして，その図形のある点を中心に拡大する方法や拡大してできる図形の特徴を理解する。	・ タブレット上での 2 本の指の操作によって，図形がどのように拡大されているかを調べる。		○図形をある点を中心に拡大する方法や拡大してできる図形の特徴を見だし，説明することができる。	○平面図形の相似の意味を考えようとしている。
		2	平面図形の相似の意味と相似な図形の性質を理解する。また，相似比の意味を理解し，相似比を求めることができる。	・ 平面図形の相似の意味と表し方を知る。 ・ ある図形の拡大図をかいて，対応する部分の長さや角の大きさの関係を調べる。 ・ 相似な図形の性質を確認する。 ・ 相似比の意味を知る。 ・ 図形の合同と相似の関係を考える。 [用語・記号] 相似， $\sim$ ，相似比	○平面図形の相似の意味と表し方を理解している。 ○相似な図形の性質を理解している。 ○相似比の意味を理解し，相似比を求めることができる。 ○合同な図形は，相似な図形で相似比が 1：1 の特別な場合であることを理解している。		
		3	相似の位置にあることの意味を理解し，ある図形と相似の位置にある図形をかくことができる。	・ 相似の位置にあることの意味を知る。 ・ ある図形と相似の位置にある図形をかく。 [用語・記号] 相似の中心，相似の位置にある	○相似の位置にあることの意味を理解し，ある図形と相似の位置にある図形をかくことができる。		
		4	相似な図形の辺の長さを，対応する辺の比やとなり合う辺の比が等しいことを使って求めることができる。	・ 相似な図形の辺の長さを，対応する辺の比が等しいことを使って求める。 ・ 相似な図形の辺の長さを，となり合う辺の比が等しいことを使って求める。	○相似な図形の辺の長さを，対応する辺の比やとなり合う辺の比が等しいことを使って求めることができる。		

2 三角形の相似条件 (教科書 p. 135～138)		5	三角形の相似条件を理解する。	・ある三角形と相似な三角形をかくためには、何がわかればよいかを考える。 ・三角形の相似条件を確認する。	○三角形の相似条件を理解している。	○三角形の相似条件を，三角形の合同条件をもとにして考え，説明することができる。	○三角形の相似条件の意味を考えようとしている。
2 平行線と比		6	三角形の相似条件を利用して，2つの三角形が相似かどうかを判断することができる。	・2つの三角形が相似かどうかを，三角形の相似条件を使って判断する。	○三角形の相似条件を利用して，2つの三角形が相似かどうかを判断することができる。		○三角形の相似条件を学習に生かそうとしている。
		7	三角形の相似条件を利用して，図形の性質を証明することができる。	・三角形の相似条件を利用して，図形の性質を証明する。		○三角形の相似条件を利用して，図形の性質を証明することができる。	
	3 相似の利用 (教科書 p. 139～141)	8	直接には測定できない距離や高さを，縮図を利用して求めることができる。	・直接には測定できない距離や高さを，縮図を利用して求める。		○相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	○図形の相似について学んだことを生活に生かそうとしている。
		9	測定値の誤差の意味を理解し，真の値の範囲を不等号を使って表すことができる。また，有効数字の意味を理解し，測定値を $a \times 10^n$ の形に表すことができる。	・測定値の誤差の意味を知り，真の値の範囲を不等号を使って表す。 ・有効数字の意味を知り，測定値を $a \times 10^n$ の形に表す。 [用語・記号] 誤差，有効数字	○誤差の意味を理解し，真の値の範囲を不等号を使って表すことができる。 ○有効数字の意味を理解し，測定値を $a \times 10^n$ の形に表すことができる。		
	基本の問題 (教科書 p. 142)						
	3 等分できるのはなぜ？ (教科書 p. 143)	10	あたえられた手順でノートの罫線が 3 等分できることを，相似な図形の性質を利用して確かめることができる。	・あたえられた手順でノートの罫線を 3 等分し，その方法で 3 等分できるわけを考える。		○相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。	○図形の相似について学んだことを生活に生かそうとしている。
	1 三角形と比 (教科書 p. 144～148)		11	三角形と比の定理を証明し，それを利用して線分の長さを求めることができる。	・三角形の 1 辺に平行な直線が，他の 2 辺に交わるときにできる線分の比を調べ，成り立つ性質を証明する。 ・三角形と比の定理を確認する。 ・三角形と比の定理を利用して，線分の長さを求める。	○三角形と比の定理を利用して，線分の長さを求めることができる。	○三角形と比の定理を証明することができる。
		12	三角形と比の定理の逆を証明し，それを利用して 2 つの線分が平行かどうかを判断することができる。	・三角形と比の定理の逆が成り立つことを証明する。 ・三角形と比の定理の逆を確認する。 ・三角形と比の定理の逆を利用して，2 つの線分が平行かどうかを判断する。	○三角形と比の定理の逆を利用して，2 つの線分が平行かどうかを判断することができる。	○三角形と比の定理の逆を証明することができる。	

		13	中点連結定理を見だし、それを利用して線分の長さを求めることができる。	・三角形の各辺の中点を結んでできた線分には、どんな性質があるかを調べる。 ・中点連結定理を確認する。 ・中点連結定理を利用して、線分の長さを求める。	○中点連結定理を利用して、線分の長さを求めることができる。	○中点連結定理を、三角形と比の定理とその逆をもとにして見だし、説明することができる。	
	四角形の各辺の中点を結んだ図形は？ (教科書 p. 149～150)	14	中点連結定理を利用して、図形の性質を証明することができる。	・四角形の各辺の中点を結ぶと、どんな図形になるかを調べる。 ・四角形の各辺の中点を結んでできる四角形は、平行四辺形であることを証明する。	○長方形やひし形、正方形は、平行四辺形の特別な場合であることを理解している。	○中点連結定理を利用して、図形の性質を証明することができる。	○図形の相似について学んだことを学習に生かそうとしている。 ○相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	2 平行線と比 (教科書 p. 151～153)	15	平行線と比の定理を見だし、それを利用して線分の長さを求めることができる。	・平行線に直線が交わるときの線分の長さの求め方を考え、説明する。 ・平行線と比の定理を確認する。 ・平行線と比の定理を利用して、線分の長さを求める。	○平行線と比の定理を利用して、線分の長さを求めることができる	○平行線と比の定理を、三角形と比の定理をもとにして見だし、説明することができる。	○平行線と線分の比についての性質を見いだそうとしている。
		16	平行線と比の定理を利用して、図形の性質を証明することができる。	・平行線と比の定理を利用して、線分の長さをあたえられた比に分ける。 ・平行線と比の定理を利用して、図形の性質を証明する。	○平行線と比の定理を利用して、線分の長さをあたえられた比に分けることができる。	○平行線と比の定理を利用して、図形の性質を証明することができる。	○平行線と比の定理を学習に生かそうとしている。
	基本の問題 (教科書 p. 154)	17					
3 相似な図形の面積と体積	合同な図形はいくつできるかな？ (教科書 p. 155)	18	相似な三角形について、相似比と面積比の関係をみいだすことができる。	・相似比が 1 : 2 の 2 つの四角形で、大きい四角形を切って、小さい四角形を 4 つつくるかどうかを考える。 ・相似な三角形について、相似比と面積比の関係を調べる。		○相似な平面図形の相似比と面積比の関係をみいだし、説明することができる。 ○相似な多角形の相似比と面積比を、多角形を三角形に分けて、対応する三角形の相似比と面積比をもとにして考察することができる。	○相似な平面図形の相似比と面積比の関係を考えようとしている。
	1 相似な図形の相似比と面積比 (教科書 p. 156～158)		19	相似な多角形や円について、相似比と面積比の関係をみいだすことができる。	・相似な多角形や円について、相似比と面積比の関係を調べる。 ・相似な平面図形の相似比と面積比の関係を確認する。		
		20	相似な平面図形の相似比と面積比の関係をを利用して、図形の面積を求めることができる。	・相似な平面図形の相似比と面積の関係をを利用して、具体的な問題を解決する。		○身のまわりにあるものを図形とみなして、相似な平面図形の相似比と面積の関係をを利用して問題を解決することができる。	○相似な平面図形の相似比と面積比の関係を生活に生かそうとしている。
		2 相似な立体の表面積の比や体積比 (教科書 p. 159～161)	21	立体の相似の意味を理解し、相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係をみいだすことができる。	・立体の相似の意味を知る。 ・相似な立体で、相似比と表面積の比や体積比の関係について調べる。 ・相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を確認する。	○立体の相似の意味及び相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を理解している。	○相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係をみだし、説明することができる。
	22						

	基本の問題 (教科書 p. 161)		相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を 利用して，立体の表面積や体積を求めること ができる。	・相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の 関係を利用して，具体的な問題を解決する。		○身のまわりにあるものを立体とみなして， 相似な立体の相似比と体積比の関係を 利用して問題を解決することができる。	○相似な立体の相似比と体積比の関係を生活に 生かそうとしている。
章の問題A (教科書 p. 162)	23 ～ 26						

6 円の性質を見つけて証明しよう [円] (13 時間)

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知っている。 ・円周角の定理の逆が成り立つことを知っている。	・円周角と中心角の関係を見いだすことができる。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。	・円周角と中心角の関係を見いだそうとしている。 ・円周角と中心角の関係について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・円周角と中心角を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 円周角の定理	カメラの位置を調べよう (教科書 p. 165～167)	1	円周角と中心角の関係を見いだすことができる。	2 点を一定の角度で見込む角の頂点はどのような図形の上にあるかを調べる。 1 つの円で同じ弧に対する円周角の大きさはどうなるかを調べる。 [用語・記号] 円周角		○円周角と中心角の関係を見いだすことができる。	○円周角と中心角の関係を見いだそうとしている。
	1 円周角の定理 (教科書 p. 168～173)	2	円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知る。	1 つの弧に対する円周角の大きさが一定であることの証明について考える。 - 円周角の定理を確認する。 - 円周角の定理を利用して、角の大きさを求める。	○円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知っている。 ○円周角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。	○円周角と中心角の関係の証明について、構想を立てることができる。	
		3	円周角と弧の定理を見だし、それを利用して図形の性質を証明することができる。	- 円周角と弧の定理を確認する。 - 円周角と弧の定理を利用して、図形の性質を考察する。		○円周角と弧の定理を利用して、図形の性質を証明することができる。	
		4	直径と円周角の定理を見だし、具体的な場面で活用することができる。	- 直径と円周角の定理を確認する。 - 直径と円周角の定理を利用して、角の大きさを求める。 - 直径と円周角の定理を具体的な場面で活用する。	○直径と円周角の定理を利用して、角の大きさを求めることができる。	○直径と円周角の定理を具体的な場面で活用することができる。	

章

	2 円周角の定理の逆 (教科書 p. 174～175)	5	円周角の定理の逆が成り立つことを知る。 ・円周角の定理の逆が成り立つかどうかを調べる。 ・円周角の定理の逆が成り立つことを確認する。 ・円周角の定理の逆を利用して，4 点が1つの円周上にあるかどうかを判断したり，図形の性質を考察したりする。	○円周角の定理の逆が成り立つことを知っている。 ○円周角の定理の逆を利用して，4 点が1つの円周上にあるかどうかを判断することができる。	○円周角の定理の逆を利用して，図形の性質を証明することができる。	
	基本の問題 (教科書 p. 176)	6				
2 円周角の定理の利用	船の位置を見つけよう (教科書 p. 177)	7	円周角の定理の逆を利用して，見込む角についての条件をみたす点の求め方を考えることができる。 ・船から望遠鏡で目印を見たときの，2つの目印を見込む角度から，地図上の船の位置を求める方法を考える。		○円周角の定理の逆を具体的な場面で活用することができる。	○円周角と中心角の関係について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○円周角と中心角を活用した問題解決の過程を振り返って，検討しようとしている。
	1 円周角の定理の利用 (教科書 p. 178～181)	8	円周角の定理を利用して，円外の 1 点からの接線を作図する方法を考えることができる。 ・円外の 1 点からの接線を作図する方法を考える。 ・円外の 1 点からの接線を作図する。	○円外の 1 点からの接線 の作図方法を理解し，作図することができる。 ○円外の 1 点からの接線の性質を理解している。	○円周角の定理を具体的な場面で活用することができる。	
		9	円周角の定理を利用して，図形の性質を見だし，証明することができる。 ・円と交わる直線でできる図形の中に，相似な図形を見つけ，相似であることを証明する。		○円周角の定理を利用して，図形の性質を見だし，証明することができる。	
章の問題 A (教科書 p. 182)		10～13				

7 三平方の定理を活用しよう [三平方の定理]（16 時間）

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

- 三平方の定理の意味を理解し，それが証明できることを知っている。 - 三平方の定理を利用して，直角三角形の辺の長さを求めることができる。 - 三平方の定理の逆が成り立つことを知っている。	- 三平方の定理を見いだすことができる。 - 三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	- 三平方の定理を見いだそうとしている。 - 三平方の定理について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 - 三平方の定理を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
--	--	---

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章	1 三平方の定理						
第2章	2 三平方の定理の利用						
第3章	3 三平方の定理の応用						

		8	三平方の定理を利用して、空間図形のいろいろな長さを求めることができる。	・三平方の定理を利用して、直方体の対角線の長さや、円錐、角錐の高さを求める。			
	どれくらい遠くから見えるかな？ (教科書 p. 201～202)	9	身のまわりの問題を、三平方の定理を利用して解決することができる。	・富士山がどれくらい遠くから見えるかを、地球を球とみてその切り口の円を考え、三平方の定理を利用して求める。		○身のまわりの問題を、三平方の定理を利用して解決することができる。	○三平方の定理について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○三平方の定理を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	2 いろいろな問題 (教科書 p. 203～204)	10	三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	・直方体に糸をかけるときの最短の長さを、展開図に表して、三平方の定理を利用して求める。		○三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	○三平方の定理について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
		11	三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。	・長方形の紙を折ってできる図形の線分の長さを、三平方の定理やこれまでに学んだ図形の性質を利用して求める。 ・円とその接線でできる図形の線分の長さを、三平方の定理やこれまでに学んだ図形の性質を利用して求める。			
	基本の問題 (教科書 p. 205)	12					
章の問題A (教科書 p. 206)	13 ～ 16						

8 集団全体の傾向を推測しよう【標本調査】（6 時間）

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

章

・標本調査の必要性和意味を理解している。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理することができる。	・標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現することができる。 ・簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができる。	・標本調査の必要性和意味を考えようとしている。 ・標本調査について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・標本調査を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
--	--	--

毎時の評価規準例

節	項	時	目 標	学習活動	評価規準例				
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
1 標 本 調 査	どのように調査しているのかな？ (教科書 p. 209～211)	1	身のまわりで行われている調査には全数調査と標本調査があることを知り、標本調査の必要性和意味を理解する。	・中学校で昼休みに流してほしい卒業ソングを調査する方法について考える。 ・全数調査、標本調査の意味を知る。 ・標本調査が行われるのはどのような場合かを考える。 ・母集団、標本の意味を知る。 [用語・記号] 全数調査、標本調査、母集団、標本	○全数調査、標本調査の必要性和意味を理解している。 ○母集団、標本の意味を理解している。	○標本調査が行われる例について、全数調査ではなく標本調査が行われる理由を考え、説明することができる。	○標本調査の必要性和意味を考えようとしている。		
	1 標本調査 (教科書 p. 212～217)		2	標本調査では、標本を無作為に抽出する必要があることを理解する。	・母集団の傾向を推測するためには、標本をどのように取り出せばよいかを考える。 ・無作為に抽出することの意味を知る。 ・無作為に抽出する方法を知る。 [用語・記号] 無作為に抽出する	○標本調査では、標本を無作為に抽出する必要があることを理解している。 ○無作為に抽出する方法を理解し、乱数さいや乱数表、コンピュータを使って、標本を無作為に抽出することができる。			
			3	簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができる。	・ミニトマトの糖度の平均値を、標本調査を利用して推測する方法を考え、実際に標本調査を行って推測する。			○簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断することができる。	○標本調査について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
			4	標本調査を利用して、母集団における割合を推定し、求めたい数量を求めることができる。	・標本調査を利用して、母集団における割合を推定し、求めたい数量を求める。	○標本調査を利用して、母集団における割合を推定し、求めたい数量を求めることができる。			
	2 標本調査の利用 (教科書 p. 218～219)	5	標本調査の方法や結果を批判的に考察したり、調査の計画を立てたりすることができる。	・身のまわりで行われた標本調査の方法や結論について、批判的に考察する。 ・標本調査を実際に行って、母集団の傾向を推測し判断する。		○標本調査の方法や結果を批判的に考察したり、調査の計画を立てたりすることができる。	○標本調査を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。		

章の問題A
(教科書 p. 220)

6

【単元 1】 第 1 章 水溶液とイオン (教科書 P. 11～28)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
- 水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を通して、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見いだして理解する。また、電解質水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を通して、電極に物質が生成することからイオンの存在を知るとともに、イオンの生成が原子のなり立ちに関係することを知る。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。（知識・技能） - 化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。（思考・判断・表現） - 水溶液とイオンに関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。（主体的に学習に取り組む態度）	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、原子のなり立ちとイオンについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	水溶液とイオンについて、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	水溶液とイオンに関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
単元 1 30	「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第 1 節 水溶液と電流 「レッツ スタート！」水に電流が流れるか話し合う。 - P.12 図 1、図 3 から、電流が流れる原因について話し合う。 「？課題」水に電流が流れるのはどのようなときだろうか。 「実験 1 ステップ 1」水にとかす物質を選び、どのような水溶液にも電流が流れるかどうかを調べる実験の計画などを話し合う。	11～13	思		水溶液に電流が流れる条件について、電流が流れるときと流れないときのちがいに着目し、それぞれの条件に共通することを見いだして表現している。 [発言分析]	これまでの経験や図 3 の実験のようすから、電流が流れる水溶液と流れない水溶液があることを見だし、それぞれの条件に共通することを表現している。	ほかの生徒の気づいたことや疑問点を話し合ったうえで、再度、活動を行わせ、自分が調べたいことを見つけることができるよう助言・指導する。
	【実験 1】電流が流れる水溶液 - 実験 1 を行い、どのような物質を水にとかしたら電流が流れるかを調べる。 - 電極のまわりの変化も観察して記録する。 「基礎操作」レポートの書き方を確認する。 - 実験結果を発表し合い、電流が流れる水溶液と流れない水溶液とを区別し、変化のようすとあわせて表にまとめる。 - 電解質と非電解質の説明を聞く。 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。	13～15	知	○	実験結果から、電流が流れる水溶液と流れない水溶液を区別し、変化のようすを正確に記録して、表にまとめている。 [記述分析]	実験 1 を正しく行い、実験結果について、電流が流れるときと流れないときのそれぞれの電流計のふれ方、電流値、電極付近のようすを整理して示し、考察を正しく述べている。	電流計の針のふれ方を観察することで、電流が流れたか、流れなかったかを整理して記録するよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第2節 電解質の水溶液の中で起こる変化 ・「レッツ スタート！」電流が流れた水溶液に共通する電極付近の変化について話し合う。 ・「?課題」電解質の水溶液に電流が流れるとき、水溶液の中ではどのような変化が起こっているだろうか。 ・「予想しよう」塩化銅水溶液に電流を流したときの電極付近での変化を予想する。 【実験2】塩化銅水溶液の電気分解 ・実験2を行い、塩化銅水溶液に電流を流したときに起こる変化を考える。 ・「考察しよう」実験結果から、電極に付着した物質が何かを、理由とともに考える。	16～18	思		塩化銅水溶液に電流を流したときに電極付近で起こる変化のようすから、電極に付着した物質が何かを、理由とともに考えて表現している。 【行動観察・記述分析】	塩化銅水溶液に電流を流したときに電極付近で起こる変化を予想し、見通しをもって実験を行い、電流を流したときに電極付近で起こる変化を科学的に考察して表現している。	電極付近の変化のようすに着目させ、何が起きているかを考えるよう助言・指導する。
	・塩化銅水溶液に電流を流すと、銅と塩素に分解されることの説明を聞く。 ・塩化銅水溶液の電気分解を化学反応式で表す。 ・「モデルを使って考察しよう」塩化銅水溶液を電気分解すると、陰極に銅が付着し、陽極から塩素が発生する理由を粒子モデルを用いて考える。 ・自分の考えを班内で発表し、ホワイトボードなどを用いて班で考察をまとめる。 ・ほかの班やクラス全体で意見交換を行い、最後に教員からコメントを受ける。 ・自分の考察をふり返って修正する。	18～19	思	○	塩化銅水溶液の電気分解における各電極で起こる変化を、科学的に考察している。 【行動観察・記述分析】	実験結果をもとに、塩化銅水溶液の電気分解における各電極で起こる変化を、粒子モデルを用いて図示し、科学的に考察し、ほかの生徒に説明している。	塩化銅水溶液にふくまれる銅イオンと塩化物イオンが各電極付近で何に変化したかに着目し、変化を表現できるよう助言・指導する。
	・P.20 図1の考察の例をもとに、塩化銅水溶液の中の、電気を帯びた銅原子のもと、塩素原子のものと説明を聞く。 ・塩酸の電気分解についての説明を聞く。 ・「!課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	20～21	知	○	P.16の「?課題」に対して、指定されたキーワードを用いて、説明している。 【記述分析】	電解質水溶液に電流が流れるときの変化について、「陰極、陽極、+の電気を帯びた粒子、-の電気を帯びた粒子」というキーワードとこれまでの学習内容をもとに、論理立てて説明している。	塩化銅水溶液の電気分解、P.21に示されている塩酸の電気分解の共通点を見いだすよう助言・指導する。
	第3節 イオンと原子のなり立ち ・「レッツ スタート！」Na⁺やK⁺とは何かについて話し合う。 ・原子は、原子核と電子からできていることについての説明を聞く。 ・原子には+の電気を帯びた陽子と-の電気を帯びた電子があり、陽子と電子の数が等しいので、原子は全体として電気を帯びていない状態であることについての説明を聞く。 ・原子核の中には中性子をふくむ物質があることについての説明を聞く。また、同じ物質の原子の中には中性子の数が異なるものがある場合があることについての説明を聞く。 ・「?課題」原子が電気を帯びるとすれば、どのような状態だと考えられるだろうか。	22	知		原子の構造や、原子が電気を帯びるときの状態を理解している。 【発言分析・記述分析】	原子の構造を理解したうえで、電子を失ったり、受けとったりすることで、原子が電気を帯びたイオンになることを説明している。	P.22 図2に示されるような原子の構造を図示し、電子を失ったり、受けとったりしたときの陽子と電子の数のバランスに着目するよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	- 原子が電気を帯びたものをイオンということについての説明を聞く。 - イオンを表す化学式についての説明を聞く。 - イオンの表し方と読み方についての説明を聞く。 「ここがポイント」イオンのでき方についての説明を聞き、理解する。 - 代表的なイオンについての説明を聞く。 「モデルを使って比べよう」電解質が水にとけるようすを食塩と砂糖の粒子モデルを用いて比較し、考える。 - 電離についての説明を聞き、電離のようすを化学式を使って表す。 - 電解質の水溶液に電流が流れる理由についての説明を聞く。	23～25	知		イオンのでき方を理解し、イオンを、化学式を用いて表すことができる。 〔記述分析〕	P.24 に示される代表的な陽イオン、陰イオンについて、そのでき方を説明しており、化学式で表すことができる。	陽子は+の電気をもち、電子は-の電気をもつことから、電気のバランスを考えるよう助言・指導する。
	「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 「例題」の考え方を理解する。 「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して、考えたことをノートに記述し、話し合う。 「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	26～28	態	○	今までの学習をふり返り、身のまわりに存在するイオンについて、考えようとしている。 〔行動観察，記述分析〕	学習した銅イオンや塩化物イオン以外にも、身のまわりに存在するイオンの具体例をあげ、ねばり強く考えようとしている。	スポーツドリンクなどの成分表示を見せ、イオンがふくまれていることを確認し、ほかに同様の例がないか助言・指導する。

【単元 1】第 2 章 酸，アルカリとイオン (教科書 P. 29～46)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
- 酸とアルカリの性質を調べる実験を通して，酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知る。また，中和反応の実験を通して，酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解する。あわせて，それらの観察，実験などに関する技能を身につける。 （知識・技能） - 化学変化について，見通しをもって観察，実験などを行い，イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し，化学変化における規則性や関係性を見いだして表現する。また，探究の過程をふり返る。 （思考・判断・表現） - 水溶液とイオンに関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようになる。 （主体的に学習に取り組む態度）	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら，酸・アルカリ，中和と塩についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	水溶液とイオンについて，見通しをもって観察，実験などを行い，イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し，化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに，探究の過程をふり返るなど，科学的に探究している。	水溶液とイオンに関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第 1 節 酸性やアルカリ性の水溶液の性質 「レッツ スタート！」酸性とアルカリ性の水溶液の区別のしかたについて話し合う。 「？課題」酸性の水溶液やアルカリ性の水溶液には，それぞれどのような性質があるだろうか。 「調べ方を考えよう」酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液の性質を調べる方法について話し合い，実験の計画を立てる。	29～30	知		身近な酸性，アルカリ性の水溶液の例をあげ，これまでに学んだことをもとに，それらの水溶液の性質を調べる方法について話し合い，実験の計画を立案している。 【行動観察・記述分析】	身近な酸性，アルカリ性の水溶液の例を多数あげることができ，それらの水溶液の性質を調べる方法について，適切な方法を具体的に計画している。	身近な酸性，アルカリ性の水溶液（酢やアンモニア水など）について例をあげ，それらの性質のちがいについて，小学校や1年次の学習内容を思い出せるよう助言・指導する。
	【実験 3】 酸性，アルカリ性の水溶液の性質 実験 3 を行い，酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液の性質を調べ，酸性・アルカリ性それぞれの水溶液に共通する性質を見つける。	31	態	○	酸性，アルカリ性の水溶液の性質に関心をもって調べ，酸性，アルカリ性それぞれの水溶液に共通する性質を科学的に探究しようとしている。 【行動観察・記述分析】	酸性，アルカリ性の水溶液の性質に関心をもって調べ，酸性，アルカリ性それぞれの水溶液に共通する性質を科学的に探究し，ねばり強く考えようとしている。	酸性，アルカリ性の水溶液の性質を調べることに進んでかかわるようにうながし，酸性，アルカリ性それぞれの水溶液に共通する性質を，まずは 1 つ見つけることができるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	- 実験結果や P.32 表 1 から、酸性の水溶液やアルカリ性の水溶液それぞれに共通する性質について説明を聞く。 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。	32～33	思		酸性、アルカリ性の水溶液それぞれに共通する性質について、実験結果を整理し、自分の考えを表現している。 【発言分析・記述分析】	酸性、アルカリ性の水溶液それぞれに共通する性質について、4 項目の実験結果を整理し、自分の考えをふまえて表現している。	P.32 を見本として、実験結果を表にまとめられるように支援し、そこから共通点が見いだせるよう助言・指導する。
	第 2 節 酸性、アルカリ性の正体 「レッツ スタート！」酸性やアルカリ性の水溶液がそれぞれに共通の性質を示す原因について話し合う。 - 酸性やアルカリ性を示す物質の化学式から共通して存在するものについて考える。 「？課題」酸性やアルカリ性の水溶液には、それぞれ何が共通して存在しているだろうか。 - 酸性、アルカリ性の水溶液が電解質の水溶液であったことを思い出す。 「課題に対する自分の考えは？」さまざまな酸性やアルカリ性の水溶液にとけている物質を化学式で考え、共通するイオンを考える。	34	知	○	酸性、アルカリ性の水溶液にとけている物質の化学式を書き、この化学式から共通して存在するものを、理由をあげて予想している。 【発言分析・記述分析】	酸性、アルカリ性の水溶液にとけている物質の化学式を正しく書いている。そして、化学式から、酸性の水溶液には H^+ 、アルカリ性の水溶液には OH^- が共通して存在することを予想している。	化学式が正しく書けない場合は第 2 学年の学習内容をふり振り返りながら助言・指導する。イオンが正しく書けない場合は前章の学習内容をふり振り返りながら助言・指導する。
	【実験 4】酸性・アルカリ性を示すものの正体 実験 4 を行い、酸性・アルカリ性を示すものの正体について考える。	35	思	○	酸性・アルカリ性を示すものの正体について、実験結果から自分の考えをまとめて、表現している。 【記述分析】	実験結果をもとに、酸性を示すものの正体が H^+ であること、アルカリ性を示すものの正体が OH^- であることを見いだして表現している。	H^+ が陰極に移動していること、 OH^- が陽極に移動していることと酸性、アルカリ性を関連づけるほかの生徒の発表を聞いたうえで、再度、実験結果を確認させ、的確にまとめられるよう助言・指導する。
	- 実験結果や P.36 図 3 から、酸についての説明を聞く。 - 実験結果や P.37 図 5 から、アルカリについての説明を聞く。 - 代表的な酸とアルカリについての説明を聞く。 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 - 酸性やアルカリ性には強弱があることに気づき、pH と指示薬の色の变化、身近な食品や製品の pH の値の説明を聞く。 「学びをいかして考えよう」について考える。	36～39	思		代表的な酸、アルカリについて、それぞれの酸性、アルカリ性の強さを pH と関連づけて表現している。 【発言分析・記述分析】	酸、アルカリの定義について理解したうえで、酸性やアルカリ性には強弱があることに気づき、pH と指示薬の色の变化を関連づけて表現している。	実験結果をもとに、酸、アルカリの定義を再確認させ、身のまわりの水溶液の酸性、アルカリ性の強さのちがいについて、いくつか例示したうえで pH との関連性について助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第3節 酸とアルカリを混ぜ合わせた時の変化 ・「レッツ スタート！」強い酸性の土壌に消石灰をまく理由について話し合う。 ・「?課題」酸の水溶液にアルカリの水溶液を加えていくと、どのような変化が起きるだろうか。 ・「基礎操作」こまごめピペットの使い方についての説明を聞く。 【実験5】酸とアルカリを混ぜ合わせた時の変化 ・実験5を行い、塩酸と水酸化ナトリウム水溶液を混ぜ合わせたときにどのような変化が起きているのかを調べる。	40～41	知	○	中和の実験操作における基本的な技能を身につけており、実験結果を正しく記録している。 【行動観察】	こまごめピペットの操作など、実験操作における基本的な技能が身についている。また、実験結果を正しく記録して、わかったこともきちんと書けている。	実験操作の技能を身につけているほかの生徒のようすを見て、実験操作を正しく行えるよう助言・指導する。また、実験結果を正しく記録できるよう助言・指導する。
	・中和についての説明を聞く。 ・「モデルを使って考察しよう」塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていくときのようすをイオンのモデルで表すとどうなるか考える。 ・中和と中性についての説明を聞く。 ・塩についての説明を聞く。	42～43	態	○	中和のしくみについて、イオンのモデルを用いて、関心をもって考えようとしている。 【行動観察・記述分析】	中和のしくみについて、塩酸に水酸化ナトリウム水溶液を加えていったときのようすをイオンのモデルで表す活動に進んでかわり、話し合いながらねばり強く考えようとしている。	塩酸と水酸化ナトリウムの中和反応について、化学反応式が書けているかどうかを確認する。そのうえで、ほかの生徒の考えを聞いたり、対話したりして、課題の解決に向けてとり組むことができるよう支援する。
	・そのほかの中和についての説明を聞く。 ・「調べよう」硫酸に水酸化バリウム水溶液を加えるとどのような変化が起こるかを調べる。 ・このとき、発生した沈殿について化学反応式にもとづいて考える。 ・水にとける塩ととけない塩ができることについて説明を聞く。 ・「!課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して、考えたことをノートに記述し、話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	44～46	知	○	実験で行った以外の中和反応や水にとけない塩を理解している。 【発言分析・ペーパーテスト】	実験で行った以外のさまざまな中和反応について、化学反応式にもとづいて説明している。また、水にとける塩だけでなく、とけない塩があることを説明している。	中和反応を起こす酸、アルカリについて化学式が正しく書けているか確認し、支援する。そのうえで、化学反応式は陽イオンと陰イオンの組みかえ反応であることを再確認するよう助言・指導する。

【単元 1】 第 3 章 化学変化と電池 (教科書 P. 47～65)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
- 金属を電解質水溶液に入れる実験を通して、金属によってイオンへのなりやすさが異なることを見いだして理解する。また、電解質水溶液と 2 種類の金属などを用いた実験を通して、電池の基本的なしくみを理解するとともに、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを知る。あわせて、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。（知識・技能） - 化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現する。また、探究の過程をふり返る。（思考・判断・表現） - 化学変化と電池に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。（主体的に学習に取り組む態度）	化学変化をイオンのモデルと関連づけながら、金属イオン、化学変化と電池についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	化学変化と電池について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連づけてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	化学変化と電池に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第 1 節 電解質の水溶液の中の金属板と電流 「レッツ スタート！」果物電池から気づいたことについて話し合う。 「? 課題」どのような金属板と水溶液の組み合わせならば、電流をとり出すことができるだろうか。 「予想しよう」電流がとり出せる金属板と水溶液の組み合わせを予想し、その理由についても考える。 【実験 6】電流をとり出すために必要な条件 - 実験 6 を行い、電流をとり出すことができる条件を調べる。あわせて、金属板の表面を観察する。 - 金属板の組み合わせや水溶液を変えて、電極間の電圧を計る。	47～49	思		実験 6 において、どちらが＋極、－極になるかは 2 種類の金属の組み合わせによって決まることや、組み合わせる金属と生じる電圧との関係を見いだしている。 [発言分析・記述分析]	実験結果をもとに話し合い、組み合わせる 2 種類の金属と生じる電圧との関係や、＋極、－極の関係について見いだして、論理立てて表現している。	複数の実験結果を考察することが苦手な生徒もいるため、まずは2種類の金属で実験を行い、生じる電圧と＋極、－極の関係を判断して考察できるよう支援する。
	- 実験結果について話し合い、電流をとり出す条件に気づく。あわせて、－極では金属板がとけ、＋極では気体が発生することに気づく。 - 電池についての説明を聞く。 「! 課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。	50～51	知	○	電池に共通する電極の変化を見だし、電池がどのような装置であるかを理解している。 [発言分析・記述分析]	気体が発生する、電極がとけだすという電池に共通する電極の変化を見だし、電池は内部で化学変化を起こして、化学エネルギーを電気エネルギーに変換する装置であることを説明している。	実験結果について、自分の言葉でまとめて発表することが苦手な生徒には、ほかの生徒との意見交換で発表内容をまとめるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第 2 節 金属のイオンへのなりやすさのちがいと電池のしくみ ・「レッツ スタート！」P.52 図 1 と実験 6 の結果からわかることを考え、話し合う。 ・P.52 図 1 の金属板表面で起きている変化について説明を聞く。 ・「？課題」金属によって陽イオンへのなりやすさに差はあるのだろうか。 ・「調べ方を考えよう」金属の陽イオンへのなりやすさを簡単に調べる方法について考える。 【実験 7】金属のイオンへのなりやすさの比較 ・実験 7 を行い、銅、マグネシウム、亜鉛の 3 種類の金属のイオンへのなりやすさを調べる。	52～53	思	○	金属のイオンへのなりやすさを調べる方法について、見通しをもって実験を計画している。また、実験結果から、金属のイオンへのなりやすさについて科学的に考察して判断している。 【発言分析・記述分析】	P.52 図 1～図 3 をもとに、3 種類の金属と硫酸塩水溶液との組み合わせを考え、見通しをもって実験を計画している。また、実験結果から、3 種類の金属のイオンへのなりやすさについて科学的に考察して判断している。	複数の実験結果を考察することが苦手な生徒もいるため、まずは 2 種類の金属で実験を行い、どちらがイオンになりやすいかを判断して考察できるよう支援する。
	・実験 7 の結果について、金属板表面での反応の説明を聞き、イオンのモデルと関連させて理解する。 ・「探究をふり返ろう」実験 7 と P.54 図 1、図 2 をふり返り、銀のイオンへのなりやすさについて考える。あわせて、P.55 図 4 の反応をモデルで表す。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。	54～55	知		金属のイオンになりやすさのちがいを、イオンや電子のモデルと関連づけて理解している。 【発言分析・記述分析】	2 種類の金属のイオンになりやすさを比べるときに、イオンになりやすい方の金属が電子を放出してイオンになり、イオンになりにくい方の金属が電子を受けとって金属になることを、イオンや電子のモデルと関連づけて説明している。	それぞれの金属がどんなイオンになるのか、また、化学式を正しく理解できているかを確認する。そして、イオンになりやすい金属の方が電子を放出してイオンになることを理解できるよう助言・指導する。
	・「モデルを使って考察しよう」うすい塩酸に亜鉛板と銅板を入れた電池の中で起きていることをイオンや電子のモデルを使って考え、話し合う。 ・うすい塩酸に亜鉛板と銅板を入れた電池の電極表面の反応や電池全体のモデルについて、説明を聞く。 ・「ここがポイント」P.57 図 3 の電池の問題点についての説明を聞き、理解する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	56～57	態	○	塩酸に亜鉛板と銅板を入れた電池の中で起きていることを、イオンや電子のモデルを用いて表現しようとしている。 【行動観察・記述分析】	塩酸に亜鉛板と銅板を入れた電池の中で起きていることを、話し合いながらねばり強く考え、イオンや電子のモデルを用いて表現しようとしている。	塩酸に亜鉛板と銅板を入れた電池の中で起きていることを、まずは文章で表現させる。その後、＋極、－極での反応を化学反応式で表現させ、最後にイオンや電子のモデルで表現できるよう助言・指導する。
	第 3 節 ダニエル電池 ・「レッツ スタート！」P.57 の電池とダニエル電池を比較し、共通点と相違点について考え、話し合う。 ・ダニエル電池がボルタ電池の構造と比較して優れている点を考える。 ・「？課題」ダニエル電池はどのようなしくみで電流をとり出しているだろうか。 【実験 8】ダニエル電池の作製 ・実験 8 を行い、電流をとり出すしくみを考える。また、P.57 の電池の性質と比較する。	58～59	思		ダニエル電池の＋極と－極での反応に着目し、気づいたことを記録している。また、P.57 の電池と比較して優れている点を具体的に考察している。 【記述分析】	ダニエル電池の＋極と－極での反応に着目し、電流をとり出せるしくみを表現している。また、P.57 の電池の構造などと比較して、水素が発生しない、電圧が安定しているなどの優れている点を考察している。	前時の学習内容をふり返りながら、作製したダニエル電池と比較し、ほかの生徒と意見交換させることで考察できるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・実験結果について，ダニエル電池の一極表面，＋極表面での反応をイオンと電子のモデルで考え，話し合う。 ・一極での反応，＋極での反応について説明を聞く。 ・ダニエル電池の改良点について考える。（持ち運びが難しい，充電が難しいなど） ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	60～61	態	○	ダニエル電池の中で起こっていることをイオンや電子のモデルを用いて表現しようとしている。また，その改良点や「学びをいかして考えよう」について科学的に考えようとしている。 【行動観察・記述分析】	ダニエル電池の中で起こっていることを，話し合いながらねばり強く考え，イオンや電子のモデルを用いて表現しようとしている。また，その改良点や「学びをいかして考えよう」について科学的に考えようとしている。	ダニエル電池の中で起こっていることを，まずは文章で表現させる。その後，＋極，－極での反応を化学反応式で表現させ，最後にイオンや電子のモデルで表現できるように助言・指導する。
	第４節 身のまわりの電池 ・「レッツ スタート！」身のまわりで使用されている電池について話し合う。 ・「？課題」身のまわりの電池はどのような機器に，どのような目的で使われるだろうか。 ・日常生活で使われている一次電池として，マンガン乾電池，アルカリ乾電池，リチウム電池，酸化銀電池，空気電池について説明を聞く。 ・日常生活で使われる二次電池として，鉛蓄電池，リチウムイオン電池，ニッケル水素電池について説明を聞く。	62～63	知		身のまわりで利用されているさまざまな電池とその用途について理解している。 【発言分析・記述分析】	身のまわりで利用されている電池とその利用例を具体的に説明している。また，その用途ごとの特性について説明している。	身のまわりの電気製品のうち，電池を使用している物について例をあげさせる。そして，その用途に応じた電池の使い分けについて，まずは電池の大きさに着目するよう助言・指導する。
	・燃料電池について説明を聞く。（燃料電池を実際につくり，実験をしてみてもよい） ・環境への影響や持続的な社会を形成していく視点から電池の利用を考える。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して，考えたことをノートに記述し，話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し，話し合う。	63～65	思	○	燃料電池と，環境や持続可能な社会形成とを関連づけて科学的に考えている。 【発言分析・記述分析】	燃料電池について，そのしくみと環境への影響や持続可能な社会を形成していく視点とを関連づけて科学的に考えている。	燃料電池について，メリット（二酸化炭素を排出しない，音がしないなど）とデメリット（水素を使うためあつかうのが難しい，高価，水素ステーションが少ないなど）を具体的に比較させて，環境への影響や持続可能な社会を形成していく視点と関連づけられるよう助言・指導する。

【単元 2】第 1 章 生物の成長と生殖 (教科書 P. 77～94)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
- 生物の成長とふえ方に関する事物・現象の特徴に着目しながら，生物の成長とふえ方について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身につける。（知識・技能） - 生物の成長とふえ方について，見通しをもって解決する方法を立案して観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈し，生物の成長とふえ方についての特徴や規則性を見いだして表現する。（思考・判断・表現） - 生物の成長とふえ方に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）	生物の成長とふえ方に関する事物・現象の特徴に着目しながら，細胞分裂と生物の成長，生物のふえ方についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の成長とふえ方について，観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，生物の成長とふえ方についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに，探究の過程を繰り返るなど，科学的に探究している。	生物の成長とふえ方に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
単元 2 30	「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第 1 節 生物の成長と細胞の変化 「レッツ スタート！」タマネギの成長している根の細胞について考え，話し合う。 「？課題」生物が成長するとき，細胞はどのように変化するのだろうか。 「比べよう」P.79 図 3 の㉔～㉗の細胞を比べ，細胞の大きさ，核の形などがどのように異なるかを話し合う。 - 図 3 の㉗の部分では，細胞に何が起きているのかを推論し，発表する。	77～79	知		生物が成長するときの細胞の変化について理解している。 [発言分析・行動観察]	生物が成長するとき，体細胞分裂を行うことを理解し，その際に細胞の中に見られるひものようなものを染色体とよぶことを理解している。	P.79図3タマネギの根の断面の顕微鏡写真などを用いて，根元に近い部分と先端に近い部分では細胞の何が変化しているかに注目して考えるよう助言する。
	- P.80 の模式図を見ながら，体細胞分裂では，もとの細胞と同質の新たな 2 つの細胞ができることを知る。 【観察 1】体細胞分裂の観察 - 観察 1 を行い，体細胞分裂が行われている細胞をさがしてそのようすをスケッチする。 - スケッチした細胞を染色体のようすや細胞の大きさに注目して，細胞分裂の順に並べる。	80～81	知	○	顕微鏡を正しく操作して観察し，観察した細胞の特徴について，スケッチや文章で適切に記録している。 [行動観察・記述分析]	顕微鏡を正しく操作して観察を行い，いくつかの体細胞分裂の段階をとらえたスケッチや文章で，観察結果を適切に表現している。	顕微鏡の操作が正しくできていない場合は，明るさの調整や低倍率から順にピントを合わせるなど，操作の手順を確認できるよう支援する。体細胞分裂をしている細胞を観察できていない場合は，教科書で図を確認したり，観察できている生徒のものを確認したりするよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	- 細胞分裂の過程があることを理解し、各過程で起こっていることを P.82 図 1 を見て理解する。 - 細胞分裂の動画（D マークコンテンツ）を見て、細胞分裂のときに染色体はどのような動きをするのかを確認する。 - これまでの学習をもとに、生物が成長するときの細胞の変化を説明する。	82～83	知		細胞分裂の過程を理解し、生物が成長するときの細胞の変化を理解している。 【発言分析・行動観察】	体細胞分裂がどのような過程で行われるか、生物が成長するときに細胞がどのように変化するかを説明している。	図などの資料を用いて、体細胞分裂の過程をていねいに説明する。
	「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 - 植物と動物の細胞分裂が起こる部分を予想する。 - P.83 図 2、図 3 を見ながら、細胞分裂が起こる部分についての説明を聞く。 「学びをいかして考えよう」について考える。	83	思		植物と動物の細胞分裂が起こる部分や、植物と細胞の細胞分裂の共通点・相違点について考え、表現している。 【発言分析・行動観察】	植物と動物の細胞分裂が起こる部分を予想し、自分の考えを具体的に説明している。また、P.83 図 4 をもとに、植物と動物の細胞分裂を比較し、共通点と相違点について考え、表現している。	第 2 学年で学習した維管束などの言葉を思い出させ、P.83 図 2、図 3 などの資料を用いて、体細胞分裂が起きている部分をていねいに説明する。
	第 2 節 無性生殖 「レッツ スタート！」ゾウリムシはどのようにふえるのか考え、話し合う。 - 単細胞生物がどのようにして新しい個体をつくるのかを考え、発表する。 「？課題」無性生殖は、どのような生殖だろうか。 - P.84 図 2、P.85 図 3～図 5 を見ながら、動物と植物の無性生殖についての説明を聞く。 - 分裂、出芽、栄養生殖の共通点・相違点から、無性生殖について考える。 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。	84～85	知		無性生殖とはどのような生殖なのか理解している。 【発言分析・行動観察】	無性生殖は受精を行わない生殖で、その中には、分裂や出芽、栄養生殖などがあることを説明している。	P.84、P.85 の図などの資料を用いながら、無性生殖の具体例をあげ、無性生殖の特徴についてていねいに説明する。
	第 3 節 有性生殖 「レッツ スタート！」メダカやカエル、ヒトなどの動物のふえ方とアサガオなどの植物のふえ方の共通点を考え、話し合う。 「？課題」有性生殖はどのような生殖だろうか。 - 動物の生殖細胞と受精についての説明を聞く。 - 受粉後、花粉の中の精細胞はどのようにして卵細胞にたどりつくのかを考える。 - P.87 図 2 を参照し、被子植物の生殖細胞と受精についての説明を聞く。 【観察 2】花粉管の伸長 - 観察 2 を行い、花粉管がのびるようすを観察し、時間を追って花粉管をスケッチする。 - 観察した結果をまとめる。	86～87	知	○	顕微鏡を正しく操作して観察し、観察した花粉管の伸長のようすについて、スケッチや文章で適切に記録している。 【行動観察・記述分析】	顕微鏡を正しく操作して観察を行い、花粉管の伸長のようすの特徴をとらえたスケッチや文章で、観察結果を適切に表現している。	顕微鏡の操作が正しくできていない場合は、明るさ調整や低倍率から順にピントを合わせることなど、操作の手順を確認できるよう支援する。花粉管の伸長がうまく観察できていない場合は、あらかじめ準備しておいた別のプレパラートをわたすなどして観察するよう指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・ P.88 図 2 を見ながら，被子植物の発生についての説明を聞く。 ・ P.88 図 1 を見ながら，ヒキガエルの受精卵がおたまじゃくしになるときの細胞の変化を考える。 ・ 受精卵の変化を確認し，動物の発生の過程について説明を聞く。 ・ 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・ 「学びをいかして考えよう」について考える。	88～89	知		動物や被子植物が受精して，発生していくこと，及びその過程について理解している。 【発言分析・行動観察】	動物の受精と発生，被子植物の受精と発生について，それぞれで細胞がどのように変化しているかについて説明している。	図などの資料を用いて，受精から個体へなるまでの過程についていねいに説明する。
	第 4 節 染色体の受けつがれ方 ・ 「レッツ スタート！」無性生殖の例と有性生殖の例を見て，どのようなことが言えるかを考え，話し合う。 ・ 「？課題」親から子へ染色体が受けつがれていくときには，どのような決まりがあるのだろうか。 ・ 無性生殖で見られる体細胞分裂では染色体が複製されて 2 倍になった後に 2 等分されるため，染色体の数が同じになることについて説明を聞く。 ・ 減数分裂についての説明を聞く。 ・ 「モデルを使って考えよう」同じ染色体数を保つには，生殖細胞にどのようなしくみがあるかを推測し，発表する。 ・ 有性生殖における染色体の数の変化についての説明を聞く。	90～92	思	○	親から子への染色体の受けつがれ方について，体細胞分裂と減数分裂，有性生殖と無性生殖を関係づけて考え，自分の考えを文章としてまとめて表現している。 【行動観察・記述分析】	有性生殖では減数分裂が行われ，子は両方の親の染色体を半数ずつ受けついでいること，無性生殖では体細胞分裂が行われ，子は親の遺伝子そのまま受けつぐことを見いだして，文章としてまとめて表現している。	親と子の染色体のモデルを色を分けて表現させ，親と子の染色体の数に注目して考えるよう助言・指導する。
	・ これまでの学びをもとに，有性生殖と無性生殖の特徴を考え，発表する。 ・ 有性生殖と無性生殖の特徴についての説明を聞き，まとめる。 ・ P.92 図 3 を参考にして，生物によっては無性生殖と有性生殖の両方を行って子孫をふやすものもあることを知る。 ・ 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・ 「学びをいかして考えよう」「つながる科学 くらしと科学」を読んで考える。 ・ 「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・ 「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して，考えたことをノートに記述し，話し合う。 ・ 「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し，話し合う。	92～94	態	○	細胞の成長や生殖における細胞の変化について，学習の前後をふり返り，自己の成長や変容を表現しようとしている。 【行動観察・記述分析】	細胞の成長や生殖における細胞の変化について，学習前の自分の考えと比べて，自身の理解が深まっていることを自覚して，自己の成長や変容を表現しようとし，学習への意欲を高めている。	学習内容を復習させ，できるようになった部分を自分で意識できるよう助言する。また，コラムの内容を解説することで，学習内容への興味をもたせ，進んで学びにかかわる態度を育むよう生徒の意欲を喚起する。

【単元 2】第 2 章 遺伝の規則性と遺伝子 (教科書 P. 95～108)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・ 遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子について理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。（ 知識・技能 ） ・ 遺伝の規則性と遺伝子について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、遺伝の規則性と遺伝子についての特徴や規則性を見いだして表現する。（ 思考・判断・表現 ） ・ 遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。（ 主体的に学習に取り組む態度 ）	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象の特徴に着目しながら、遺伝の規則性と遺伝子についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	遺伝の規則性と遺伝子について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、遺伝現象についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程をふり返るなど、科学的に探究している。	遺伝の規則性と遺伝子に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	・ 「Before & After」 これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し、話し合う。 第 1 節 遺伝の規則性 ・ 「レッツ スタート！」 孫の代で黒の毛色のハムスターが再び現れたのはなぜかを考え、話し合う。 ・ これまでに学んだことを思い出し、有性生殖にはどのような特徴があるか発表する。 ・ 遺伝についての説明を聞く。	95～96	思		ゴールデンハムスターの例とともに、遺伝の規則性についての課題を見だし、表現している。 [発言分析・行動観察]	ゴールデンハムスターの親・子・孫に見られる形質について話し合い、課題を見だし、表現している。	ほかの生徒の気づいたことや疑問点の発表を聞いたうえで、再度疑問に思ったことを考えさせ、自分なりの課題を見つけることができるよう助言・指導する。
	・ 「？課題」 親の形質は、どのようにして子や孫に受けつがれるのだろうか。 ・ エンドウを使った遺伝の実験についての説明を聞く。 ・ P.97 のメンデルの実験①の結果について理解する。 ・ P.98 のメンデルの実験②の結果について理解する。 ・ 「ここがポイント」 メンデルの交配実験の結果についての説明を聞き、内容を端的にまとめて理解する。	97～98	知		エンドウを使ったメンデルの交配実験について、メンデルが行った方法や、その結果を理解している。 [発言分析・行動観察]	メンデルの交配実験①・②の方法やその結果について整理し、P.98「ここがポイント」に書かれていることを整理し、説明している。	図などの資料を用いて、メンデルの交配実験の方法とその結果をていねいに説明する。
	・ 分離の法則について説明を聞き、理解する。 ・ 表を用いて、メンデルの実験①における親から子への遺伝のしくみの説明を聞き、理解する。 ・ P.100「つながる科学」メンデルの功績や苦労を理解する。	99～100	知		分離の法則を理解し、メンデルの実験①の親から子への遺伝のしくみ、遺伝子の組み合わせについて理解している。 [発言分析・行動観察]	分離の法則、メンデルの実験①の親から子への遺伝のしくみ、そのときの遺伝子の組み合わせについて説明しており、顕性形質・潜性形質についても説明している。	既習事項の有性生殖や減数分裂について、再度確認する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・メンデルの実験②における子から孫への遺伝のしくみを考える。 ・メンデルの実験②をモデル実験で考えていく。 【実習 1】 遺伝子の組み合わせ ・実習 1 を行い、子から孫への遺伝の規則性を調べる。 ・各グループの結果をクラス全体で集計し、表にまとめる。 ・丸形としわ形が現れる回数の比について考える。	101	知	○	実習 1 において、モデル実験の操作が示す意味を理解している。また、実験結果を整理して、表にまとめている。 【発言分析・行動観察】	メンデルの実験②と照らし合わせて、モデル実験の操作が何を意味しているかを説明している。また、実習 1 の結果を適切に表にまとめている。	カードを 1 枚とり出すこと、遺伝子の組み合わせをつくること、それぞれのをモデル化しているのかていねいに確認し、実習の意味がわかるよう助言・指導する。
	・「解決方法を考えよう」実習 1 をふり返り、1 つの班の結果だけではメンデルの考えが実証できないことについて考える。 ・1 つの班の結果だけでは実証できないが、各班の結果を合わせてクラス全体で考えると、値が近くなっていることに気づく。 ・試行回数を多くすることの意味について考える。 ・孫に現れる形質の個体比の説明を聞く。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	102～103	思	○	実習 1 の結果と、メンデルの実験結果との比較から、モデル実験の方法の妥当性や、試行回数と得られる結果の関係について、自分の考えを表現している。 【発言分析・記述分析】	実習 1 の結果と、メンデルの実験結果とを照らし合わせて考え、モデル実験の方法が妥当であったかどうかや、試行回数がモデル実験の結果にあたえる影響について、自分の考えを文章としてまとめて表現している。	理論上の値とモデル実験の結果とを比較するよう助言する。 P.102 表 5 を参照させ、メンデルが実際に行った実験結果を確認させ、自分の実験結果と試行回数を比べるよう助言・指導する。また、分離の法則の理解が不十分な生徒には、減数分裂と分離の法則の関係について説明する。
	第 2 節 遺伝子の本体 ・「レッツ スタート！」生物からとり出した遺伝に関する物質について考えて、話し合う。 ・「？課題」遺伝子とは、どのようなものなのだろうか。 ・遺伝子の本体と変化についての説明を聞く。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	104～105	知		遺伝子がどのようなものなのか理解している。 【発言分析・行動観察】	遺伝子の本体が DNA であることや、DNA に変化が起きると形質が変化することがあるということを説明している。	図などの資料を用いて、遺伝子と DNA の関係をていねいに説明する。
	第 3 節 遺伝子や DNA に関する研究成果の活用 ・「レッツ スタート！」遺伝子や DNA に関する研究・技術で日常生活とかかわっているものを見つけて、話し合う。 ・P.106 図 1、図 2 など参考に、遺伝子を操作して品種をつくりだした植物の説明を聞く。 ・「？課題」遺伝子や DNA に関する研究成果は、どのように利用されているのだろうか。 ・遺伝子や DNA に関する研究成果を農業へ応用する話を聞く。 ・「基礎操作」情報収集のしかたを確認する。 ・「基礎操作」を参考に、遺伝子の研究成果が利用されている例について調べる。	106～107	知		遺伝子や DNA に関する研究成果が身のまわりのどのようなものに活用されているかを理解している。 【発言分析・行動観察】	遺伝子や DNA に関する研究成果が農業や食料、医療などのさまざまな分野で活用されていることについて説明している。	農業、食料、医療などといったキーワードを視点としてあたえたり、具体的なものを図などで示したりするなどして、遺伝子や DNA に関する研究成果が身近なところで活用されていることを理解できるよう指導する。
	・遺伝子や DNA に関する研究成果や活用について、本や新聞、インターネットなどを利用して調べ、ポスターにまとめ、発表する準備を行う。	106～107	知		遺伝子や DNA に関する研究成果の活用について、情報収集のしかたの注意点を意識して調べ学習を行っている。 【発言分析・行動観察】	遺伝子や DNA に関する研究成果の活用について、著作権や誤情報などに気をつけながら調べ学習を行い、適切にまとめている。	P.106 「基礎操作」の記述を参照するように指導し、インターネットや本などを使った具体的な調べ方について助言する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・「調べて発表しよう」調べた事例を発表する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認し、自分の考えをノートに記述し、話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	107～108	態	○	遺伝子について、学習の前後をふり返り、自己の成長や変容を表現しようとしている。 【行動観察・記述分析】	遺伝子について、学習前の自分の考えと比べて、自身の理解が深まっていることを自覚して、自己の成長や変容を表現しようとし、学習への意欲を高めている。	学習内容を復習させ、できるようになった部分を自分で意識できるよう助言する。また、身近な遺伝現象を紹介することで、学習内容への興味をもたせ、進んで学びにかかわる態度を育むよう生徒の意欲を喚起する。

【単元 2】 第 3 章 生物の多様性と進化 (教科書 P. 109～121)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象の特徴に着目しながら，生物の種類の多様性と進化について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身につける。（ 知識・技能 ） ・生物の種類の多様性と進化について，見通しをもって解決する方法を立案して観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈し，生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現する。（ 思考・判断・表現 ） ・生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。（ 主体的に学習に取り組む態度 ）	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象の特徴に着目しながら，生物の種類の多様性と進化についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の種類の多様性と進化について，観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現するとともに，探究の過程をふり返るなど，科学的に探究している。	生物の種類の多様性と進化に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第 1 節 生物の歴史 ・「レッツ スタート！」現在見られる生物のグループは，いつ現れたのか，昔の生物とどのようなつながりがあるのかについて考え，話し合う。 ・化石を見ると，現在の生物との共通点や相違点があることがわかり，生物の変遷について推測することができることを理解する。	109～112	思		P.110, P.111 の図をもとに，生物の変遷についての課題を見だし，表現している。 [発言分析・行動観察]	P.110, P.111の図などを見ながら，過去に存在した生物のようすやセキツイ動物の化石が発見される地質年代を整理し，生物の変遷についての課題を見いだしている。	ほかの生徒の気づいたことや疑問点の発表を聞いたうえで，再度疑問に思ったことを考えさせ，自分なりの課題を見つけることができるよう助言・指導する。
	・「?課題」110, 111 ページの図とセキツイ動物の 5 つのグループの特徴を関連づけて比較すると，どのようなことがわかるだろうか。 ・「考察しよう」セキツイ動物の特徴を比較し，共通点と相違点を考える。 ・生物の進化についての説明を聞き，理解する。 ・「!課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	112～113	知	○	セキツイ動物が出現した時期や，生物の進化について理解している。 [発言分析・記述分析]	P.112「考察しよう」の表を作成し，セキツイ動物は魚類，両生類，ハチュウ類，ホニユウ類，鳥類の順で出現しており，進化とは長い年月をかけて代を重ねる間に変化することを説明している。	図や表などの資料を用いて，セキツイ動物の特徴や出現時期などについて確認する。また，生物の進化をていねいに説明し，生徒が進化について理解できるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第2節 水中から陸上へ ・「レッツ スタート！」水中と陸上で大きく異なることは何かを考え、話し合う。 ・「？課題」陸上で生活するセキツイ動物はどのように進化してきたのだろうか。 ・水中で生活するセキツイ動物のなかから、陸上生活に合うからだのしくみをもつものが出現したことを理解する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	114～115	知		陸上で生活するセキツイ動物がどのように進化してきたかについて理解している。 【発言分析・行動観察】	魚類と両生類、2つのグループの特徴をあわせもつ化石が見つかることなどを根拠に、あるグループがどのグループから進化してきたかということを説明している。	図などの資料を用いて、陸上で生活するセキツイ動物の進化をていねいに説明し、水中で生活するセキツイ動物の中から陸上生活に合うからだのしくみをもつものが進化してきたことを理解できるよう助言・指導する。
	第3節 さまざまな進化の証拠 ・「レッツ スタート！」始祖鳥のように、セキツイ動物の2つのグループにまたがる特徴をもつ生物について考え、話し合う。 ・「？課題」進化の証拠には、どのようなものがあるのだろうか。 ・相同器官についての話を聞き、理解する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	116～117	知		進化の証拠としてどのようなものがあるかを理解している。 【発言分析・行動観察】	2つのグループの特徴を備えている生物がいることや、もとは同じものであったと考えられる器官があることを進化の証拠としてあげて説明している。	図などの資料を用いて、さまざまな進化の証拠をていねいに説明する。ハリモグラやカモノハシなど、ホニユウ類だが、卵をもつなどの別のグループの特徴をもつものについても紹介するなどして理解できるよう助言・指導する。
	第4節 進化と多様性 ・「レッツ スタート！」P.118図1～図3の鳥類の写真をみて、それぞれの動物のちがいを考え、話し合う。 ・「？課題」進化と地球上の生物の多様性には、どのような関係があるのだろうか。 ・「調べて発表しよう」進化が起こったと考えられる例を調べ、発表する。	118	知		進化が起こったと考えられる例について、情報収集のしかたの注意点を意識して調べ学習を行っている。 【発言分析・行動観察】	進化が起こったと考えられる例について、著作権や誤情報などに気をつけながら、調べ学習を行い、適切にまとめている。	P.106「基礎操作」などの記述を再度参照するように指導し、インターネットや本などを使った具体的な調べ方について助言する。
	・前時に調べたことを発表する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「つながる科学」進化についての議論の歴史を知る。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認し、考えたことをノートに記述し、話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	118～121	思	○	進化と地球上の生物の多様性にはどのような関係があるかを考え、自分の考えを文章としてまとめて表現している。 【行動観察・記述分析】	進化が起こったと考えられる例の発表などを参考にし、進化が起こることによって、現存する生物の多様性が生じていることを見いだして表現している。	第1学年からさまざまな生物にふれてきたことやこれまでに学習したことを整理させ、進化とどのような関係があるのかを考えるよう助言・指導する。
			態	○	進化について、学習の前後をふり返り、自己の成長や変容を表現しようとしている。 【行動観察・記述分析】	進化について、学習前の自分の考えと比べて、自身の理解が深まっていることを自覚して、自己の成長や変容を表現しようとし、学習への意欲を高めている。	学習内容を復習させ、できるようになった部分を自分で意識できるよう助言する。また、コラムの内容を解説することで、学習内容への興味をもたせ、進んで学びにかかわる態度を育むよう生徒の意欲を喚起する。

【単元3】第1章 物体の運動 (教科書 P. 133～146)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・物体に力がはたらく運動および力がはたらかない運動についての観察，実験を行い，物体の運動には速さと向きがあること，力がはたらく運動では運動の向きや時間の経過にともなって物体の速さが変わること，および，力がはたらかない運動では物体は等速直線運動することを見いだして理解するとともに，それらの観察，実験の技能を身につける。（知識・技能） ・物体の運動について，見通しをもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈し，物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現する。また，探究の過程を繰り返す。（思考・判断・表現） ・物体の運動に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）	運動の規則性を日常生活や社会と関連づけながら，運動の速さと向き，力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	運動の規則性について，見通しをもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈し，物体の運動の規則性や関係性を見いだして表現しているとともに，探究の過程を繰り返すなど，科学的に探究している。	運動の規則性に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
単元3 30	・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第1節 物体の運動の記録 ・「レッツ スタート！」人のからだに記録テープをつけてまっすぐに歩いて引いたときの打点のようすを比べ，話し合う。 ・「基礎操作」記録タイマーの使い方を確認する。 ・記録タイマー以外に運動を記録する方法として，運動をデジタルカメラなどに録画した後に，動画をコマ送りして運動のようすを数値として記録する方法や，パソコンと距離センサーを利用して運動と同時にパソコンにデータを記録する方法があることの説明を聞く。	133～134	知		運動を記録する器具である記録タイマーの基本的な技能を身につけるとともに，記録をもとにその結果を整理している。 【行動観察・記述分析】	運動を記録する方法はさまざまあり，そのなかでも記録タイマーの有用性を理解し，記録タイマーを使って適切に記録し，結果を整理している。	記録タイマーによる打点の意味を理解できるようにていねいに説明し，記録タイマーの使い方と結果の整理のしかたを指導する。
	・「？課題」水平面上で移動する物体の運動を記録タイマーで記録すると，何がわかるだろうか。 【実験1】水平面上での台車の運動 ・実験1を行い，移動距離と時間との関係を調べ，結果をグラフにまとめる。	134～135	思	○	物体に加えた力の大きさによって，その運動の状態がどのように変わるかを比較し，表現している。 【行動観察・記述分析】	水平面上での台車の運動の実験結果から，台車はどのような運動をしているか，速さと時間や，移動距離と時間にはどのような関係があるかについて，グラフをもとに自分の考えをまとめて表現している。	記録テープを切って並べるものの意味を理解できるようにていねいに助言し，結果をもとにグラフにまとめられるよう指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	- 実験 1 の結果をもとに、台車の運動のようすと、物体にはたらく力との関係について話し合う。 「ここがポイント」速さは一定時間（単位時間）に移動する距離で表せることを確認し、P.137 の速さを求める式を使って台車の速さを求める。 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。	136～137	態		速さと時間の関係を表すグラフや、移動距離と時間の関係を表すグラフの意味について考えようとしている。 【発言分析・行動観察】	水平面上での台車の運動のようすを調べる活動に進んでとり組み、ほかの生徒と協力して調べたり、実験結果をたがいに伝え合ったりしながら、ねばり強く問題を解決しようとしている。	速さを求める式について、単なる割算ではなく、単位時間あたりの移動距離を求めていることを考えられるよう助言・指導する。
	第 2 節 物体の運動の速さの変化 「レッツ スタート！」P.138 図 1 の自動車の例から、同じ距離を移動するのに同じ時間かかった場合の速さが同じかどうかについて考え、話し合う。 - P.138 図 2 を参考に、グラフを用いると視覚的に運動が理解でき、便利であることの説明を聞く。 「？課題」物体の運動の速さの変化をくわしく調べるには、どうすればよいだろうか。	138	思		平均の速さと瞬間の速さのちがいに着目し、物体の運動の速さの変化について課題を見いだしている。 【発言分析・記述分析】	平均の速さで移動した場合や、速さが変化しながら移動した場合についてちがいを比較し、根拠を示しながら自分の考えを表現している。	平均の速さと瞬間の速さのちがいについて、電車の運動のようすなど、日常生活と結びつけて考えられるよう助言・指導する。
	「調べて考察しよう」P.138 図 1 のデータを使って、表 1 を完成させ、速さの変化を比べる。 - P.139 図 3 において、速さが増加している運動、一定の速さで移動する運動の説明を聞く。 - 等速直線運動の説明を聞く。 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。	138～139	知		計算によって物体の速さを求めている、速さのグラフの意味について説明している。 【発言分析・記述分析】	計算によって物体の速さを求めている。また、物体の運動の速さの変化について、より短い時間での移動距離を求める必要があること、運動の状態をグラフにするとさまざまな情報が読みとれることを理解し、説明している。	速さを求める式について、その時間の平均の速さを求めているということを理解できるよう助言・指導する。
	第 3 節 だんだん速くなる運動 「レッツ スタート！」P.140 図 1 のように、だんだん速くなる物体にはたらく力について考え、話し合う。 「？課題」物体がだんだん速くなる運動に、力はどのように関係しているだろうか。 「課題に対する自分の考えは？」斜面上の台車にはたらく力について、傾きや位置を変えると、力の大きさや台車の速さはどうなるかを考え、話し合う。	140	思		だんだん速くなる運動について、身のまわりの現象と関連づけて考え、斜面を下る物体の速さの変化とはたらく力に着目し、規則性を見いだしている。 【発言分析・記述分析】	斜面を下る物体の速さの変化とはたらく力に着目し、斜面の傾きが大きくなるほど物体にはたらく力も大きくなることを見いだし、だんだん速くなる運動と物体にはたらく力を関係づけて考え、規則性を見いだして表現している。	日常生活において、坂道を下る運動ではだんだん速くなるという実感を想起させるよう助言する。
	【実験 2】斜面上での台車の運動 - 実験 2 を行い、斜面の傾きによって、台車にはたらく力や運動のようすがどのように変わるかを調べ、結果を表やグラフにまとめる。 - 斜面の傾きとともに、台車にはたらく力の大きさが変わったという結果（ばねばかりの値）を表に記録する。	141	知	○	手順にしたがって実験を行い、結果を表やグラフに整理する技能を身につけている。 【行動観察・記述分析】	記録タイマーを用いて、斜面を下る台車の運動を記録し、結果を表やグラフに整理して説明している。	結果の整理について、表のまとめ方やグラフのかき方を具体的に指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	- 実験結果や、P.142 表 1, 図 2 を参考に、斜面の角度と台車にはたらく力の大きさ、台車の速さの変化との関係について考える。 - P.143 図 3 や「つながる科学」などを参考に、自由落下における物体にはたらく重力の大きさと速さの変化についての説明を聞く。 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。	142～143	態		記録テープの記録から、斜面を下る台車の運動について規則性を見いだそうとしている。 【発言分析・記述分析】	実験結果をもとに、斜面の角度と台車にはたらく力の大きさ、台車の速さの変化との関係について、ほかの生徒と話し合いながらねばり強く規則性を見いだそうとしている。	0.1秒ごとに切ったテープを並べたものが速さを意味していると考えられるよう助言・指導する。
	第 4 節 だんだんおそくなる運動 「レッツ スタート！」P.144 図 1 を参考に、斜面上を上の運動について考え、話し合う。 「？課題」物体の運動の向きとは逆向きに一定の力がはたらき続けるとき、物体の速さはどのように変化するだろうか。 「調べて考察しよう」台車を斜面の下からおし出したときの台車の運動を調べ、物体にはたらく力の向きと速さの変化について考える。 - P.145 図 3 をもとに、だんだんおそくなる物体の運動のグラフは、右下がりになることの説明を聞く。 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。 「探究をふり返ろう」P.141 実験 2 を思い出し、水平面上でも同じように一定の力をはたらかせ続けられ、同じ結果が得られるかを考える。 「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して、考えたことをノートに記述し、話し合う。 「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	144～146	態	○	斜面を上る台車の速さと台車にはたらく力について、これまでの運動と力の関係の学習と関連づけて考えようとしている。 【発言分析・記述分析】	力が一定であれば速さの変化も一定であることについて、だんだん速くなる運動とだんだんおそくなる運動を関連づけて、ほかの生徒と話し合いながらねばり強く考えようとしている。	一定の力がはたらき続けると、だんだん速くなるか、だんだんおそくなることや、力がはたらかなければ速さは変化しないことを考えられるよう助言・指導する。

【単元 3】 第 2 章 力のはたらき方 (教科書 P. 147～162)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・ 2 つ以上の力がはたらく状況の観察，実験を通して，合力や分力の規則性や，物体にはたらく力と物体の運動の関係を理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身につける。 （知識・技能） ・ 力のはたらきと物体の運動の関係性について問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，力のはたらきと物体の運動の規則性を見い出して表現する。（思考・判断・表現） ・ 力のはたらきと物体の運動の規則性に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）	力のつり合いと合成・分解，運動の規則性を日常生活や社会と関連づけながら，水中の物体にはたらく力，力の合成・分解，力と運動についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	力のつり合いと合成・分解，運動の規則性について，見通しをもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈し，力のつり合いと合成・分解，運動の規則性や関係性を見い出して表現しているとともに，探究の過程をふり返るなど，科学的に探究している。	力のつり合いと合成・分解，運動の規則性に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第 1 節 力の合成と分解 ・「レッツ スタート！」P.148 図 1 を見て，身のまわりの建造物について柱などに力がどのようにはたらいているか考え，話し合う。 ・P.148 図 1，図 2 を参考に，一直線上に 2 力がはたらく場合や，一直線上にない 2 力がはたらく場合，どうなるかについて考える。 ・「? 課題」1 つの物体に，ある角度をもった 2 力がはたらくとき，どのように表すことができるだろうか。 ・「課題に対する自分の考えは？」物体をつるした 2 本のゴムの角度とのびの関係について考える。	147～148	思		2 本のゴムを使って，2 つの力がさまざまな角度ではたらく場面を再現し，角度の大きさに応じたゴムののび方のちがいを見い出して表現している。 【発言分析・行動観察】	2本のゴムの角度を変化させ，開く角度が大きいほど，ゴムののびが大きくなるなど，角度によって力の大きさが変化していることを見い出して適切に表現している。	2本のゴムで物体を持ち上げ，そのゴムに角度をもたせて持つことで，ゴムののび方が変化することに気がつけるよう助言し，どうしてそのような結果になったか考えるよう指導する。
	【実験 3】角度をもってはたらく 2 力 ・実験 3 を行い，力の関係を調べる。 ・向きが異なる 2 力の合力，力の合成についての説明を聞き，作図をすることで実験結果を説明したり，2 力の大きさや角度を求めたりする。	149	思		ばねを 1 つの力で引いたときと同じのび方を，2 つのばねを用いて角度をつけて引くことで再現し，両者の状態が物理的に同じ意味であることを見い出して表現している。 【記述分析・発言分析】	角度をもってはたらく 2 つの力と，同じだけばねをのばしたときの 1 つの力との関係について，2 力を 2 辺とする平行四辺形では，その対角線が 1 つの力の矢印と一致することを作図によって見い出して表現している。	1 つのばねで引いたときの記録を残させ，2 つのばねによるその印までのばねの引き方には多様性があることに気づけるよう助言し，○cm のびたら△cm の矢印を引くなど，記録をとるうえでの決まりを指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・「考察しよう」実験結果と P.151「ここがポイント」をもとに力を分力に分けて表示し、結果的にばね 2 本の 2 力（分力）の合力が、分力を 2 辺とする平行四辺形の対角線になることについて考える。 ・「基礎操作」平行線のかき方を確認する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・P.152 図 1 を参考に、斜面上の物体にはたらく力、分力についての説明を聞く。 ・P.152 図 2 を参考に、斜面の角度による重力の分力の大きさや向きのちがいについて考える。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「例題」の考え方を参考にして、「練習」、「確認」を行う。	150～153	知	○	斜面の角度のちがいによって斜面を下る物体の速さが変化する理由を、物体にはたらく斜面に垂直な重力の分力と斜面下向きの重力の分力により理解している。 【発言分析・記述分析】	物体にはたらく重力を斜面に垂直な分力と、斜面下向きの分力に分解して図示しているとともに、斜面下向きの分力の大きさによって、斜面を下る物体の速さが変化することを理解し、説明している。	P.141 実験 2 を思い出させながら、傾きが異なる斜面上を、同じ物体が運動する場面を図示し、物体にはたらく力を斜面に垂直な向きと、斜面下向きに分解する作業について、定規の使い方から指導する。
	第 2 節 慣性の法則 ・「レッツ スタート！」P.154 図 1 などを参考に、運動の状態が変わる現象について考える。 ・「？課題」力がはたらいっていないときや、力がはたらいいていても合力が 0 のとき、物体の運動はどうなるだろうか。 ・「調べよう」P.154 図 1、図 2 や P.155 図 3 を参考に、物体に力がはたらいっていないか、はたらいいていても合力が 0 の場合について考える。 ・慣性の法則についての説明を聞く。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	154～155	思	○	身近な物理現象について、物体がどのように変化するかを予想したうえで、物体の運動の規則性を見いだしている。 【発言分析・記述分析】	進行中の電車が急ブレーキをかけたときの車内の乗客の状態や、だるま落とし、テーブルクロス引きなど、身近な物理現象について、物体がどのように変化するか、実際の例を用いて根拠を示しながら、自分の考えを表現している。また、物体の運動の規則性を見いだして表現している。	物体をのせた台車をおし出した後に台車だけを止めると、台車にのせた物体が進行方向に移動する現象を見せ、なぜそのような結果になったのか考えるよう助言・指導する。
	第 3 節 作用・反作用の法則 ・「レッツ スタート！」P.156 図 1 を参考に、力を加える向きと物体が移動する向きの関係について考え、話し合う。 ・「？課題」ある物体が別の物体に力を加えたとき、2 つの物体の間でどのように力をおよぼし合うだろうか。 ・「調べよう」相手をおしたときのそれぞれの動き方を調べる。 ・「ここがポイント」「作用・反作用の 2 力」と「つり合う 2 力」の見分け方についての説明を聞き、理解する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	156～157	知	○	1 つの物体が別の物体に力を加えると、相手からも力を受けることを理解している。 【記述分析・記述分析】	水泳のターンなど、身近な物理現象について、作用・反作用の法則をもとに作図しているとともに、力のつり合いの 2 力とのちがいについて説明している。	物体にはたらく力をひとつひとつ図示し、それぞれの力について、○○が△△を□□する力（例：地球が物体を引く力など）のように、力を加えている物体と力を加えられた物体を区別して考えるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第 4 節 水中ではたらく力 ・「レッツ スタート！」P.158 図 1, 図 2 を参考に, 水中にある物体にはたらく力を調べ, 話し合う。 ・P.158 図 3, 図 4 を参考に, 水圧の特徴についての説明を聞く。 ・「? 課題」水中の物体にはたらく上向きの力の大きさは, 物体の何に関係するだろうか。 ・水中の物体が受ける上向きの力の大きさは, 物体の何に関係するかを考え, 発表する。 【実験 4】水中の物体にはたらく上向きの力 ・実験 4 を行い, おもりに はたらく力の大きさと水中にしずめたおもりの深さの関係を調べる。	158～159	態	○	水中にある物体に上向きの力がはたらい ていることについて, ほかの生徒と話し合 いながら自ら問題を見いだし, 解決しよ うとしている。 【発言分析・行動観察】	水にしずむ物体の体積が大きくな るほど, ばねばかりの値が小さく なることから, 水中で物体に上向 きの力がはたらい ていると推測で きることを, 話し合 いながらねば り強く見いだそうとしている。	ばねばかりの値を真横から見 て正しく読みとり, 正しく記 録できているかを確認し, で きていなければ技能を身につ けることができるよう支援す る。
	・「考察しよう」実験結果や P.160 図 1, 図 2 を参考に, 水中の深 さと浮力の関係について考察し, 話し合う。 ・「ここがポイント」浮力の特徴について説明を聞き, 確認する。 ・「! 課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ, 確認 する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認す る。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して, 考 えたことをノートに記述し, 話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記 述し, 話し合う。	160～162	思		浮力の大きさは, 水中にしずん でいる物体の体積によって変化 することを実験結果から見い だして表現している。 【発言分析・記述分析】	物体の体積と質量を条件制御しな がら比較することで, 浮力は水深 ではなく, しずんでいる物体の体 積によって変化すること, また, 物体の質量は影響しないことを見 いだして表現している。	実験結果のそれぞれの値の変 化から, どのようなことが読 みとれるか表現するようにな がし, 水中の物体には上向 きの力がはたらくことに気づ くよう助言・指導する。

【単元 3】 第 3 章 エネルギーと仕事 (教科書 P. 163～183)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
- 仕事に関する観察，実験を行い，仕事と仕事率について理解する。また，力学的エネルギーに関する観察，実験を行い，物体のもつ力学的エネルギーは物体がほかの物体になしうる仕事で測れること，運動エネルギーと位置エネルギーは相互に移り変わることを，力学的エネルギーの総量は保存されることなどを見いだして理解するとともに，それらの観察，実験の技能を身につける。 （知識・技能） - 運動とエネルギーについて，見通しをもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈し，力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現する。また，探究の過程をふり返る。 （思考・判断・表現） - エネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）	力学的エネルギーを日常生活や社会と関連づけながら，仕事とエネルギー，力学的エネルギーの保存についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	力学的エネルギーについて，見通しをもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈し，力学的エネルギーの規則性や関係性を見いだして表現しているとともに，探究の過程をふり返るなど，科学的に探究している。	力学的エネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第 1 節 さまざまなエネルギー 「レッツ スタート！」P.164 図 1 にある事例が，どのようなエネルギーをもっているかを考え，話し合う。 「エネルギーをもっている」とはどういうことか説明を聞く。 「？課題」エネルギーには，どのような形態があるだろうか。	163～164	知		物体がエネルギーをもっている状態について理解している。 【発言分析・記述分析】	物体がエネルギーをもつ状態とは，物体の状態を変化させたり，ほかの物体を動かしたり，変形させたりすることができる状態であることを，身のまわりの現象と関連づけて説明している。	日常生活で「エネルギー」という言葉がどのような場面で出てくるかに焦点をしばって考えるよう助言・指導する。
	- P.165 図 2 を参考に，エネルギーにはどのような形態があり，それぞれ主にどのようなはたらきがあるか説明を聞く。 「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 「学びをいかして考えよう」について考える。	165	思		エネルギーにはさまざまな形態があることと，そのはたらきを利用していることを，関連づけて考えている。 【発言分析・記述分析】	エネルギーは実体があるものではなく，「はたらきがある」という状態で，さまざまな形態をもつことを見いだして表現している。また，そのはたらきを日常生活と関連づけて考えている。	エネルギーそのものよりも，どのようなはたらきがあるかに注目するようながす。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第2節 力学的エネルギー ・「レッツ スタート！」運動する物体や高い位置にある物体のエネルギーについて、その特徴を考え、話し合う。 ・運動エネルギー、位置エネルギーの説明を聞く。 ・「調べて考察しよう」運動エネルギーや位置エネルギーの大きさは何によって決まるのかを調べ、その結果から運動エネルギーは物体の質量と速さで、位置エネルギーは物体の質量と高さに関係することを見いだしてまとめる。	166～167	思	○	運動エネルギーの大きさは物体の質量と速さに、位置エネルギーの大きさは物体の質量と高さに関係することを見いだして表現している。 【行動観察・記述分析】	運動エネルギーと位置エネルギーの大きさを調べる実験において、何を同じにして何を変えるのか条件制御し、その結果から運動エネルギーの大きさは物体の質量と速さに、位置エネルギーの大きさは物体の質量と高さに関係することを見いだして表現している。	どのような場合にエネルギーのはたらきが大きくなるのかを日常生活と関連づけて考えるよう助言・指導する。
	・「？課題」運動する物体の運動エネルギーと位置エネルギーには、どのような関係があるだろうか。 ・「課題に対する自分の考えは？」ジェットコースターを例に、上ったり下ったりする場合の運動エネルギーと位置エネルギーについて考え、話し合う。 ・「調べて考察しよう」P.168 図1をもとに、運動エネルギーと位置エネルギーの変化について考察する。 ・力学的エネルギーの保存について説明を聞く。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「説明しよう」ふりこの運動について、自分の考えを説明する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	167～169	態		ジェットコースターやふりこの運動における力学的エネルギーについて関心をもって考え、力学的エネルギーに関する課題の解決に向けてとり組もうとしている。 【発言分析・記述分析】	エネルギーの移り変わりにおいて、多少の損失はあっても、力学的エネルギーは保存されることについて、話し合いながらねばり強く考えようとしている。	力学的エネルギーという言葉に惑わされず、日常でどのようなはたらきがあるエネルギーなのかを考えるよう助言・指導する。
	第3節 仕事と力学的エネルギー ・「レッツ スタート！」運動エネルギーや位置エネルギーの大きさを求める方法について考え、話し合う。 ・「ここがポイント」仕事についての説明、定義を聞き、理解する。 ・仕事と運動エネルギー、位置エネルギーの関係について考える。 ・「ここがポイント」仕事の大きさが0になる場合の説明を聞き、理解する。 ・重力に逆らってする仕事について説明を聞き、考える。	170～171	知		仕事と運動エネルギーや位置エネルギーの関係について理解している。 【発言分析・記述分析】	仕事を求める式「力×距離」が法則ではなく定義であることをふまえ、物体に仕事をするることによって、エネルギーをもつことを適切に説明している。	仕事に関する計算について、日常生活を想定した具体例を多くとり上げることで定着するよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・摩擦力に逆らってする仕事について説明を聞き、考える。 ・「？課題」仕事と力学的エネルギーには、どのような関係があるだろうか。 ・「調べ方を考えよう」課題に対する調べ方について話し合いを通じて考え、発表する。 【実験 5】仕事と力学的エネルギーの関係 ・実験 5 を行い、斜面の高さや小球の質量、斜面の傾きと木片が動く距離との関係について調べ、結果を表やグラフにまとめる。	172～173	思	○	実験の条件を制御しながら調べ、仕事と力学的エネルギーの関係を見いだしている。 【行動観察・記述分析】	実験の目的を把握したうえで、斜面の高さや小球の質量、斜面の傾きを変えて行い、その結果をもとに、仕事と力学的エネルギーの量的な関係を見いだして、適切に表現している。	実験結果を表やグラフにまとめることについて、ていねいに助言・指導する。
	・「考察しよう」実験結果をもとに、力学的エネルギーの変化とほかの物体にした仕事との関係について考察する。 ・「探究をふり返ろう」自分の考えをまとめ、予想と異なった場合はその理由を考え、それを検証する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「例題」の考え方を参考にして、「練習」，「確認」を行う。	174～175	態		実験結果をもとに、仕事と力学的エネルギーの量的な関係について見いだそうとしている。 【発言分析・記述分析】	物体のもつ力学的エネルギーは、物体がほかの物体になし得る仕事で測れることについて、自分の考えをもち、異なる考えが出た場合、自分やほかの生徒の考えを十分に検討して改善しようとしている。	小球の初めの高さや木片の動いた距離の関係を表したグラフを示し、どのような関係があるか考えるよう助言・指導する。
	第 4 節 仕事の原理と仕事率 ・「レッツ スタート！」重い荷物を持ち上げるとき、仕事が楽になる方法について考え、話し合う。 ・「？課題」道具を使うと、仕事の大きさはどのようになるだろうか。 ・「課題に対する自分の考えは？」滑車を使う場合と使わない場合とで、結果が変わるか自分の考えをまとめ、話し合う。 【実験 6】滑車を使うときの仕事 ・実験 6 を行い、滑車を使う場合と使わない場合とで仕事のちがいを調べる。	176～177	知	○	正しい操作で実験を行い、結果を整理する技能を身につけている。 【行動観察・記述分析】	手順どおりに、定滑車、動滑車を使って物体を引き上げる実験を行い、結果をもとにして、表に適切にまとめて説明している。	ほかの生徒と実験の注意点を共有してとり組むよう助言・指導する。
	・実験結果を確認して、仕事の原理の説明を聞く。 ・「説明しよう」P.178 図 2 をもとに、仕事の能率について自分の考えをまとめ、説明する。 ・「ここがポイント」仕事率の説明を聞き、理解する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。	178	思		仕事の原理と位置エネルギーを関連づけて考えている。また、仕事率について日常生活と関連づけて考えている。 【行動観察・記述分析】	実験結果をもとに、仕事の原理と位置エネルギーを関連づけて考察しているとともに、仕事率について身のまわりの現象と関連づけて考え、表現している。	仕事の原理や仕事率について、日常生活における作業とは異なることを実感するよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「例題」の考え方を参考にして，「練習」，「確認」を行う。 ・「つながる科学」仕事の原理に関する日常経験について話し合う。	178～179	態		仕事の能率を求める方法についてねばり強く考えようとしている。 【発言分析・記述分析】	仕事や仕事率について理解したうえで，仕事の能率を求めるためには，単位時間あたりの仕事で比べればよいことに気づき，ねばり強く考えようとしている。	仕事や仕事率の計算の過程の意味を，これまでの学習から見直すよう助言・指導する。
	第5節 エネルギーの変換と保存 ・「レッツ スタート！」P.180 図 1などを参考に，エネルギーどうしの関係について考える。 ・エネルギーの変換について説明を聞き，変換の際にエネルギーは失われていくのか考える。 ・利用したいエネルギーに変換できる割合や，それ以外のエネルギーは，どうなるのか考える。 ・「？課題」さまざまに形態を変えると，エネルギーの総量は，どうなるのだろうか。 ・「調べて考察しよう」測定した値をもとに，位置エネルギーから電気エネルギーへの変換効率を求める。	180～181	態	○	エネルギーは，利用できないエネルギーに一部変換されることに気づき，変換効率について，ほかの生徒と協力して調べたり，実験結果をたがいに伝え合ったりして，課題の解決に向けてとり組もうとしている。 【行動観察・記述分析】	エネルギーの変換効率について，ほかの生徒と協力して理解を深めたうえで，エネルギーの変換が単なる理科の問題だけではなく，社会と関連していることについて気づき，課題の解決に向けて話し合いながら，ねばり強くとり組もうとしている。	エネルギーが何から何に変換され，その過程でどのような仕事をするのかを，図などを参考に考えるよう助言・指導する。
	・実験結果から利用できるエネルギーへの変換効率について考え，エネルギーの有効利用のためには，利用できるエネルギーへの変換効率を高めるくふうが必要なことを考える。 ・エネルギー変換の前後で利用できないエネルギーに変換された分もふくめて，エネルギーの総量は保存されていることについての説明を聞く。 ・P.182 図 2～図 4を参考に，熱にはさまざまな伝わり方があることについての説明を聞く。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して，考えたことをノートに記述し，話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し，話し合う。	182～183	知		エネルギーの総量は保存されることや，エネルギーの形態の一つである熱の伝わり方について理解している。 【発言分析・記述分析】	利用できないエネルギーに変換された分もふくめて，エネルギーの総量は保存されるが，エネルギーの利用のしやすさにはちがいがあることを説明している。特に，熱に注目し，その伝わり方として，伝導や対流，放射があることを説明している。	摩擦によって熱が発生すると，力学的エネルギーは保存されないことに気づくことができるよう助言・指導する。

【単元 4】 プロローグ 星空をながめよう (教科書 P. 194～199)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
- 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら，月や太陽の表面のようすについての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに，それらの観察・実験の技能を身につける。（知識・技能） - 月や太陽，恒星について，天体の観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現する。また，探究の過程をふり返る。（思考・判断・表現） - 太陽系と恒星に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようになる。（主体的に学習に取り組む態度）	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら，月や太陽の表面のようすについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	月や太陽，恒星について，天体の観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに，探究の過程をふり返るなど，科学的に探究している。	太陽系と恒星に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	プロローグ 星空をながめよう ・「継続観察をしよう」星の継続観察の方法を理解し，単元の学習中に観察を行い，星の見え方を時刻や日付が変化することでのようになるか考える。 ・「調べよう」月を継続観察して，満ち欠けや見える方位の変化を調べる。 第 1 節 太陽 ・「レッツ スタート！」太陽が私たちにとってどのような存在か知っていることを話し合う。 ・「?課題」太陽の表面は，どのようにになっているだろうか。 ・「基礎操作」天体望遠鏡の使い方を確認する。 【観察 1】太陽の黒点の観察 ・観察 1 を行い，日を変えて太陽の表面を天体望遠鏡で観察し，黒点について調べる。	194～197	思		天体やその動きについて継続的に観測し，特徴や規則性を考えてまとめ，表現している。 【行動分析，記述分析】	天体やその動きについて継続的に観測し，特徴や規則性を見いだし，自分の考えを導いてまとめ，表現している。	天体やその動きについて継続的に観測させ，どのような特徴や規則性があるか見いだせるよう助言する。
	・「モデルを使って考えよう」同じ黒点が移動したものかをモデルを使って考え，話し合う。 ・ボールをモデルにして，黒点の移動を立証し，モデルと太陽の黒点の見え方が同じであることを確認する。 ・「!課題」に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	197～199	思		黒点の継続観察の記録やモデル実験から，太陽が球形で，自転していることを見いだし，まとめ，表現している。 【発言分析，記述分析】	黒点の継続観察の記録をもとに，太陽の形状や動きを予想し，モデル実験で確かめ，太陽が球形で，自転していることを見いだし，自らの考えを導いてまとめ，表現している。	黒点の継続観察の結果やモデル実験で，黒点が移動していることを説明し，太陽が球形で，自転していることに着目できるよう助言する。

【単元 4】 第 1 章 地球の運動と天体の動き (教科書 P. 201～222)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら，日周運動と自転，年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに，それらの観察・実験の技能を身につける。 （知識・技能） ・天体の動きと地球の自転・公転について，天体の観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現する。また，探究の過程をふり返る。 （思考・判断・表現） ・天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んでかかわり科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようになる。 （主体的に学習に取り組む態度）	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら，日周運動と自転，年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	天体の動きと地球の自転・公転について，天体の観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに，探究の過程をふり返るなど，科学的に探究している。	天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
単元 4 3 0	・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第 1 節 太陽の 1 日の動き ・「レッツ スタート！」太陽の 1 日の道筋について話し合う。 ・「基礎操作」天球の使い方を確認する。 ・「? 課題」太陽は，1 日でどのように動いて見えるのだろうか。 また，その理由は何だろうか。 【観察 2】太陽の 1 日の動き ・観察 2 を行い，透明半球を用いて太陽の 1 日の動きを観察し，太陽の動きの特徴を調べる。	201～203	思	○	透明半球を用いて太陽の 1 日の動きを，太陽の位置に注目しながら記録し，その特徴について考え表現している。 [発言分析・透明半球]	透明半球を用いて太陽の 1 日の動きを適切に記録し，その結果から，太陽が天球上を一定の速さで動いていることを見だし表現している。	太陽の 1 日の動きを透明半球に記録するとき，ほかの生徒の適切な記録を参考にしながら，透明半球のモデルの見方や観察の方法を確認し，間違えた点があれば，助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・「モデルを使って考えよう」P.204 図 2 のモデルを使って地球の自転について考え、話し合う。 ・「調べよう」地球儀と小型透明半球を使って太陽の動きを調べる。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	204～205	思		太陽の1日の動きを表した透明半球の観察記録をもとに、地球の自転と関連づけて太陽と地球の位置関係の規則性を見いだし、表現している。 【発言分析】	太陽の1日の動きを表した透明半球の観察記録をもとに、モデルや地球儀を使って、太陽と地球の位置関係の規則性を地球の自転と関連づけて見いだし、観測地ごとの日の出、日の入り、南中の時刻を推測したり、その位置を透明半球上に表現したりしている。	透明半球につけた点の結び方や、その延長させる方向について、ほかの生徒の発表をもとにふり返り、自分の考えを確認するよう助言する。また、天球の使い方について、再度指導する。
	第2節 地球の自転と方位、時刻 ・「レッツ スタート！」日中の太陽や夜空の星が移動して見えるのはなぜか考え、話し合う。 ・「？課題」地球上の方位と時刻は、どのように決められているのだろうか。 ・「課題に対する自分の考えは？」ミニ地球儀を用いて方位と時刻について考える。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	206～207	知		宇宙から見た地球上の各地点の方位が、自転とともに変化することや、太陽と観測点との位置関係により、その地点でのおおよその時刻が決まることを理解している。 【ペーパーテスト、記述分析】	宇宙から見た地球上の各地点の方位が、自転とともに変化することや、太陽と観測点との位置関係により、その地点でのおおよその時刻が決まることを、図などを用いて地球の自転と関連づけて説明している。	地球上における方位の決まりについて、地球のモデルなどを利用して個別に指導する。朝日が見られるときの太陽と地球の位置関係や時刻を例示し、モデルを使って個別に助言・指導する。
	第3節 星の1日の動き ・「レッツ スタート！」星の1日の動きについて、図1からわかることを考え、話し合う。 ・「？課題」地球の自転と星の1日の動きは、どのような関係だろうか。 ・「課題に対する自分の考えは？」夜に見ることが出来る星は、どのように動くのか予想し、話し合う。 【観察3】星の1日の動き方 ・観察3を行い、星の動きを観察して、天球全体の星の1日の動き方の決まりを考える。	208～209	態	○	太陽の動きをもとに夜に見ることが出来る星の動き方を予想し、見通しをもって科学的に探究しようとしている。 【発言分析・記述分析】	太陽の動きをもとに夜に見ることが出来る星がどのように動くのかを予想している。また、話し合いを通して自らの学習を調整し、見通しをもって科学的に探究しようとしている。	天体の動く理由の1つとして、太陽の動き方に注目して個別に指導する。時間とともにどのように動いたかを考え、夜に見られる星の動き方について助言・指導する。
	・東西南北それぞれの方位から見られる天体の見かけの動きと天球上の見え方を考える。 ・天体の日周運動について、太陽の日周運動と関連づけて見いだし、理解する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	210～211	思		星の動きを示した観察記録や写真などをもとに、星の1日の動きを透明半球に表し、東西南北のそれぞれの方位における規則性を見いだし、表現している。 【発言分析・記述分析・透明半球】	星の動きを示した観察記録や写真などをもとに、星の1日の動きを透明半球やモデルに正しく表現している。さらに、東西南北のそれぞれの方位における規則性を見いだし、表現している。	天球の概念について再確認するとともに、観測者の視点とのがいを説明し、再度、透明半球上に記録するなど、個別に指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第4節 天体の1年の動き ・「レッツ スタート！」同じ時刻に見える星が、季節ごとに変わるのはどうしてかを考え、話し合う。 ・「？課題」真夜中に見られる星座は、1年を通してどのように移り変わるだろうか。 ・「課題に対する自分の考えは？」真夜中に見られるオリオン座の星座の1か月後、3か月後、1年後の見え方について考え、話し合う。 【実習1】地球の公転と見える星座の関係 ・実習1を行い、地球の公転モデルを作成し、見える星座の移り変わりを調べる。	212～213	知	○	実習から、公転によって、季節ごとに地上から星座の見え方が変わることを理解している。 【ペーパーテスト、記述分析】	実習から、星座の年周運動のモデルを用いて、地球が公転することによって真夜中に見られる星座が移り変わることを見いだし、説明している。	モデルの視点が宇宙からの視点であることを指導し、宇宙からの天体の位置について、再度確認したうえで、地球の公転によって星座が移り変わることを助言・指導する。
	・「考察しよう」真夜中に南中する星座がどのように移り変わるか考え、話し合う。 ・「モデルを使って考えよう」ミニ天球モデルと黄道12星座の帯を用いて、真夜中に南中する星座や、今日の1日の星座の見え方を考える。 ・「例題」の考え方を参考にして、「練習」を行う。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	214～217	思		実習をふり振り返りながら、宇宙における天体、太陽、地球の位置関係を代表的な星座の見える時期と関連づけて表現している。 【発言分析・記述分析】	実習をふり振り返りながら、コンピュータシミュレーションやモデルも活用し、視点を変えて、宇宙における天体、太陽、地球の位置関係を代表的な星座の移り変わりと関連づけて見いだし、表現している。	地球から見られる星座と宇宙からの地球と星座の位置関係について、ほかの生徒の結果から再度モデルを使って考察し、地球が公転すると見られる星座が変わることに気づかせられるよう助言・指導を行う。
	第5節 地軸の傾きと季節の変化 ・「レッツ スタート！」継続観察の結果から、季節による太陽の日周運動のちがいについて考え、話し合う。 ・「？課題」季節によるさまざまなちがいは、どのようにして生じるだろうか。 ・「調べよう」太陽の光が当たる角度と温度上昇の関係について調べる。 【実習2】季節による昼と夜の長さの変化 ・実習2を行い、地球の公転モデルを使って、季節による昼と夜の長さの変化と公転との関係を調べる。	218～219	思	○	季節ごとの地球への太陽の光の当たり方の変化について実習を行い、結果を分析して解釈し、表現している。 【発言分析・記述分析】	季節ごとの地球への太陽の光の当たり方の変化について、実習を計画立てて行い、結果を分析して地球の公転と関連づけて現象を解釈し、表現している。	季節を見つけにくい生徒に対しては、北極への光の当たり方に注目させて、常に光が当たっている位置が日本の夏になることを説明する。
	・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して、考えたことをノートに記述し、話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	220～222	態		地軸が傾きながら公転をすることで、太陽の光の当たり方と、昼と夜の長さが変化することについて、実習から科学的に探究しようとしている。 【発言分析・記述分析】	地軸が傾きながら公転をすることで、太陽の光の当たり方と、昼と夜の長さが変化することについて、透明半球上の記録と実習の結果と結びつけて考察し、科学的に探究しようとしている。	地軸が傾きながら公転したときの光の当たるようすが、地球と太陽の位置関係によって変化することや、地軸が傾かないと変化しないことをモデルを用いて個別に指導し、原因が地軸の傾きであることを助言・指導する。

【単元 4】 第 2 章 月と金星の見え方 (教科書 P. 223～234)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら，月や金星の運動と見え方についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに，それらの観察・実験の技能を身につける。（ 知識・技能 ） ・月や金星の運動と見え方について，天体の観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，月や金星の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現する。また，探究の過程をふり返る。（ 思考・判断・表現 ） ・月や金星の運動と見え方に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようになる。（ 主体的に学習に取り組む態度 ）	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら，月や金星の運動と見え方についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	月や金星について，天体の観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，月や金星の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに，探究の過程をふり返るなど，科学的に探究している。	月や金星の運動と見え方に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，発表する。 第 1 節 月の満ち欠け ・「レッツ スタート！」P.224 図 1 の半月は，どのように形を変えていくのか考え，話し合う。 ・「? 課題」月が満ち欠けをくり返すのはなぜだろうか。 ・「調べよう」月の観察記録から，月の満ち欠けについて考える。 【実習 3】月の満ち欠けについてのモデル実習 ・実習 3 を行い，月の運動を月の見え方と関連づけてモデルを使って考え，説明する。	223～225	知	○	日没後の同じ時刻に，月の見える位置や満ち欠けのようすを観察し，その結果を記録している。 [行動観察，記述分析]	日没後の同じ時刻に，月の見える位置や満ち欠けのようすをより多く観察し，その結果をスケッチなど，さまざまな方法を使って正しく記録している。	日没後の同じ時刻にすることの意味を助言し，月の見える位置や形の変化をとらえるよう指導する。
	・モデルを使った実習の結果から，太陽と地球と月の位置関係が月の公転とともに変わること気づく。 ・「! 課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	226～227	思		月の満ち欠けのしくみについて，月の公転と関連づけて考えてまとめ，表現している。 [発言分析，記述分析]	月の満ち欠けのしくみについて，月の公転と太陽・月・地球の位置とを関連づけ，自らの考えを導いてまとめ，表現している。	月が地球のまわりを公転することによって，月の満ち欠けなどのようすが変化することを，図やモデルで示しながら考えるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第2節 日食と月食 ・「レッツ スタート！」P.228 図1で、太陽が満ち欠けしているように見える理由について考え、話し合う。 ・「?課題」月食や日食は、どのようにして起こるのだろうか。 ・月食や日食が起こる理由について、太陽・地球・月の位置関係をもとにした説明を聞く。 ・「!課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	228～229	態	○	月食や日食は、太陽、地球、月がどのような位置関係になったときに起こるのか、モデルや図を使って話し合い、自分の考えを表現しようとしている。 【発言分析、記述分析】	月食や日食は、太陽、地球、月がどのような位置関係になったときに起こるのか、モデルや図を使って話し合い、ほかの生徒の意見にも耳を傾け、グループ全体の意見をまとめ、発表に結びつけようとしている。	図やモデルで示しながら、月食や日食のようすを再現して考えるよう助言・指導する。
	第3節 金星の見え方 ・「レッツ スタート！」地球から見た金星がなぜ欠けて見えるのか、話し合う。 ・「?課題」金星が満ち欠けして見えるのはなぜだろうか。 ・「調べよう」金星の動きと満ち欠けのようすを観察する。 【実習4】金星の満ち欠けについてのモデル実習 ・実習4を行い、太陽、地球、金星の位置関係と動き方のモデルをつくり、金星の満ち欠けについての自分の考えを説明する。	230～231	知		地球と金星の位置関係から、金星の見える方角や時刻、形の変化について理解し、知識を身につけている。 【発言分析、ペーパーテスト】	地球と金星の位置関係から金星の見える方角や時刻、形の変化について理解し、適切に説明している。	金星の見える位置や時刻、形の変化について、例えば、太陽と金星の位置を固定してどこに地球があると観察記録のように見えるかを考えるよう助言し、さらに図やモデルで示して説明する。
	・「探究をふり返ろう」実習4でつくったモデルがうまく説明できなかった場合、どこがよくなかったのかを考える。 ・金星の運動（公転）モデルについて、地球からの星座の見え方と1年間の地球の動きで考えたモデルを関連づけて考える。	232～233	思	○	太陽と地球と金星の位置関係による、金星の見える位置や時刻、形の変化について、実習をふり返りながら考えてまとめ、表現している。 【発言分析、記述分析】	太陽と地球と金星の位置関係による、金星の見える方角や時刻、形の変化について、実習をふり返りながら、自分の考えを導いてまとめ、表現している。	金星の見える位置や時刻、形の変化について、太陽のまわりを金星と地球が公転しているようすを図やモデルで示し、観察記録のように見えるか考えるよう助言・指導する。
	・「!課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して、考えたことをノートに記述し、話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	233～234	態	○	金星の観察をもとに考えた金星の運動のモデルについて、仮説の正しい点と異なる点をふり返り、班で話し合い、まとめて発表しようとしている。 【発言分析、記述分析】	金星の観察をもとに考えた金星の運動のモデルについて、仮説の正しい点と異なる点をふり返り、ほかの生徒の意見にも耳を傾け、グループ全体の意見をまとめ、発表に結びつけようとしている。	太陽のまわりを金星と地球が公転しているようすを再度確認し、モデルの仮説と比べるようながす。

【単元 4】 第 3 章 宇宙の広がり (教科書 P. 235～243)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら，太陽系と恒星についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに，それらの観察・実験の技能を身につける。（ 知識・技能 ） ・太陽系と恒星について，天体の観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現する。また，探究の過程をふり返る。（ 思考・判断・表現 ） ・太陽系と恒星に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。（ 主体的に学習に取り組む態度 ）	身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら，太陽系と恒星についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	太陽系と恒星について，天体の観察，実験などを行い，その結果や資料を分析して解釈し，太陽系と恒星についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに，探究の過程をふり返るなど，科学的に探究している。	太陽系と恒星に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第 1 節 太陽系の天体 ・「レッツ スタート！」太陽系のさまざまな天体を調べて，話し合う。 ・「？課題」太陽系の天体にはどのようなものがあり，どのような特徴をもっているだろうか。 ・「比べよう」太陽系の各惑星をさまざまな観点で比較する。	235～237	思		太陽系の広がりや惑星の位置関係を考え，表現している。 [発言分析・記述分析]	自らのデータをもとに図示するなどして，惑星の大きさや太陽から惑星までの距離をふくめ，太陽系の広がりや惑星の位置関係を適切に表現している。	太陽系の広がりや惑星の位置関係や大きさについて，図や映像などの各種資料を使ってイメージできるよう助言・指導する。
	・惑星やそのほかの太陽系の天体の特徴についての説明を聞く。 ・「データから考えよう」地球以外の太陽系の惑星や衛星でも人間が生存できるか，考える。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	238～239	知	○	太陽系の恒星，惑星，衛星，すい星などの天体の特徴について理解し，知識を身につけている。 [発言分析・記述分析]	太陽系の恒星，惑星，衛星，すい星など，より多くの天体の特徴について理解し，適切に説明している。	太陽系の恒星，惑星，衛星，すい星などの天体の特徴について，資料の範囲を限定して示す。
	第 2 節 宇宙の広がり ・「レッツ スタート！」P.240 図 1 を見て考えたことを話し合う。 ・「？課題」私たちは，宇宙のなかのどこにいるのだろうか。	240～241	思	○	恒星や銀河系など，宇宙の構造の特徴を考え，表現している。 [発言分析・記述分析]	モデルなどを使って，銀河系と恒星の関係を見だし，表現している。	銀河系の全体の構造や部分のクローズアップなどを示し，イメージしやすいようにくふうする。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「どこでも科学」太陽系の天体や銀河系内の天体，銀河系の大きさについて考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して，考えたことをノートに記述し，話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し，話し合う。	241～243	態	○	教室内や校庭などで太陽系モデルを用いて，宇宙のスケールを実感することに進んでかかわろうとしている。 【行動観察・記述分析】	進んで「どこでも科学」の活動の準備にかかわり，宇宙のスケールを実感しようとしている。	大きな数を用いた比の計算でつまづいている場合は，数学（算数）での学習をふり返らせる。

【単元5】第1章 自然のなかの生物 (教科書 P. 255～268)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・日常生活や社会と関連づけながら，自然界のつり合いについて理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身につける。（知識・技能） ・身近な自然環境を調べる観察，実験などを行い，自然環境の保全のあり方について，科学的に考察して判断する。（思考・判断・表現） ・生物と環境に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようになる。（主体的に学習に取り組む態度）	日常生活や社会と関連づけながら，自然界のつり合いについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物と環境について，身近な自然環境などを調べる観察，実験などを行い，自然環境保全のあり方について，科学的に考察して判断しているなど，科学的に探究している。	生物と環境に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
単元5 20	・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第1節 生態系 ・「レッツ スタート！」ニホンアカガエルが生息するのに必要な環境について考え，話し合う。 ・生態系の概念の説明を聞く。 ・生物が何を栄養にしているのか，生物以外のどのような環境が必要なのかを考え，人間も生態系の一部であることを理解する。 ・「？課題」生態系では，生物どうしの間にどのような関係が見られるだろうか。	255～256	知		私たちが食べているものがどのような自然環境でつくられているかを，自分の知識や体験から考えている。 [発言分析・行動観察]	自分が好きな食べ物や最近食べた物が，どのような自然環境でつくられたかを説明している。	好きな食べ物をあげさせ，それはどのような生物からつくられているかを考えるよう助言する。例えば，ハンバーグが好きであれば，牛肉はどこでつくられるか，ウシはどのように成長するかなどを考えるよう助言・指導する。
	・食物連鎖，食物網の概念の説明を聞く。 ・いっぽんに，食べる側の生物より食べられる側の生物の個体数が多いことを理解する。 ・ある生態系について，植物など無機物から有機物をつくることのできる生物を底面におき，それを食べる生物をその上に，さらにそれを食べる生物をその上に置いていくと，ピラミッド形になることを理解する。 ・「推測しよう」教科書の資料をもとに，何らかの原因で草食動物がふえたとすると，その後どのようなことが起こると考えられるか，話し合う。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	257～259	思	○	生物の数量のつり合いについて，ある生物が一時的にふえたり，減ったりしても，食物連鎖の関係により，ほぼ一定に保たれることを考察している。 [発言分析・記述分析]	植物がふえると，草食動物がふえて植物が減り，草食動物がふえると，それをえさにしている肉食動物がふえて草食動物が減り，草食動物が減ると，植物がふえるなど，食物連鎖と生物の数量の変化について，科学的に考え，表現している。	食物連鎖の復習を行い，食べる－食べられる生物の関係性を再確認するよううながす。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第 2 節 生態系における生物の関係 ・「レッツ スタート！」それぞれの動物がどのようにかかわっているのかについて考え、話し合う。 ・「? 課題」生態系において、それぞれの生物はどのようなはたらきをしているのだろうか。 ・生態系における生産者と消費者に関する説明を聞く。 ・自然界で生物の死がいや排出物だらけにならない理由を考え、消費者のうち、生物の死がいや動物の排出物などの有機物を取り入れて、無機物に変えるはたらきをしている生物がおり、その生物を分解者とよんでいることを理解する。 ・P.262 図 1, 図 2 から、菌類、細菌類が利用されている例について理解する。	260～262	知		生態系の生物には生産者、消費者に加えて、分解者の役割があることを理解し、分解者には人間にとって有用な役割があるものがいることを、具体例をまじえて理解している。 【行動観察・発言分析】	分解者がいることで、有機物が無機物になり、再び生産者に利用されることを説明している。納豆やヨーグルトなどを例にあげ、身近なところで分解者が利用されていることを説明している。	分解者が何を分解しているのかを考えるようながす。また、納豆などの発酵食品を例にあげ、発酵前と発酵後のようすを伝えて、分解者のはたらきについて発言することができるよう助言・指導する。
	・「課題に対する自分の考えは？」水界での分解者について考える。 【実験 1】 微生物のはたらき ・実験 1 を行い、水中に存在する微生物のはたらきを調べる。 ・「推測しよう」川の微生物が多く存在しているところを推測する。 ・「! 課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「つながる科学」生活排水がどのようにして処理されているかについて説明を聞く。	263～265	思	○	水槽のろ過フィルターの中の微生物のはたらきについての実験を行い、その実験結果から科学的に考察して、分解者の役割を判断している。 【行動分析・記述分析】	水槽のろ過フィルターの中に入れていた脱脂綿を入れると、デンプンを分解することから、ろ過フィルターの中に存在した微生物が分解者であり、デンプンなどの有機物を分解する役割があることを、実験結果から対照実験をふくめて判断している。	ろ過フィルターにはさんでおい た脱脂綿と、そうではない脱脂綿のちがいを比較し、ちがいに気づかせる。第 1 学年、第 2 学年で学習した水中の小さな生物について思い出させる。水槽のろ過フィルターの中に本当に微生物がいるのかを疑問に思う生徒がいる場合は、顕微鏡でろ過フィルターの中に微生物がいることを確認する。
	第 3 節 炭素の循環と地球温暖化 ・「レッツ スタート！」生物のからだをつくる有機物はどこからくるのかを考え、話し合う。 ・「? 課題」生物のからだをつくる炭素は、食物連鎖にともなって、生態系をどのように移動しているのだろうか。 ・光合成と呼吸について整理した後、教科書の図の矢印をたどりながら、炭素が自然界を循環していることに気づく。 ・人間の活動が地球温暖化を引き起こす 1 つの要因であることを理解する。 ・地球温暖化の影響について理解する。 ・「! 課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認し、考えたことをノートに記述し、話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	266～268	態	○	人間の活動によって、二酸化炭素などの温室効果ガスが増加し、地球温暖化が進行していることを理解し、生態系にあたえる影響を考え、人間と環境のかかわりをふり返ろうとしている。 【発言分析・記述分析】	物質は生態系内を循環しているが、その循環が、一部でどこおること地球温暖化などの環境問題が生じることを理解し、人間の活動が生態系にあたえる影響について総合的にとらえようとしている。	生態系での物質の循環を学んだ後に、人間の活動が炭素の移動にどのような影響をあたえるかを考えさせ、大気中の二酸化炭素（温室効果ガス）の事例をもとに、炭素の循環について思考できるよう助言・指導する。

【単元 5】第 2 章 自然環境の調査と保全 (教科書 P. 269～278)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・日常生活や社会と関連づけながら，自然環境の調査と環境保全について理解するとともに，それらの観察，実験などに関する技能を身につける。（知識・技能） ・身近な自然環境を調べる観察，実験などを行い，自然環境の保全のあり方について，科学的に考察して判断する。（思考・判断・表現） ・生物と環境に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようになる。（主体的に学習に取り組む態度）	日常生活や社会と関連づけながら，自然環境の調査と環境保全についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物と環境について，身近な自然環境などを調べる観察，実験などを行い，自然環境保全のあり方について，科学的に考察して判断しているなど，科学的に探究している。	生物と環境に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，発表する。 第 1 節 身近な自然環境の調査 ・「レッツ スタート！」身近な自然のなかにいる生物を調べる方法について考え，話し合う。 ・「？課題」生物と自然環境はどのようにかかわっているのだろうか。身近な自然環境を調査してみよう。 ・「調べ方を考えよう」教科書に例示されている具体的な対象や方法について話し合い，班で協力して調査を計画する。 調査例 1：水生生物を指標にした川の水のよごれの調査 調査例 2：土壌動物を指標にした自然環境の状態の調査（校庭や植えこみなどの土壌の比較） 調査例 3：コドラートを用いた植生調査	269～271	知		身近な自然環境の調査を行うために目的を決めて，計画を立てている。 [発言分析・行動観察]	身近な自然環境を調査するための目的を決めて，具体的な計画を作成している。	いくつかの調査方法を示し，その中で興味のある調査をもとに計画を立案するようながす。
	【調査 1】身近な自然環境の調査 ・班ごとに計画した調査方法に従って，身近な自然環境について調べる。	271～273	知	○	自然環境の調査の注意事項をふまえたうえで，立案した調査方法をもとに，協力して調査を行い，その結果を記録している。 [行動観察・記述分析]	自然環境の調査の注意事項をふまえたうえで，立案した調査方法をもとにして，自然環境の調査を安全に協力して行い，その記録を適切な方法でまとめている。	班の中で記録係や測定係を決めて，協力して調査を行うようにながす。P.270「自然環境の調査の注意点」などを参照し，注意事項を厳守するよう指導する。
	・前時で調査した結果をまとめ，考察したことを発表する。 ・自然環境調査の重要性と，調査の結果から考えられることについてまとめる。	273	思	○	調査で得られた結果をふまえて，班のメンバーと意見を出し合いながら科学的な観点で考察している。 [発言分析・記述分析]	調査結果から考えられることについて科学的な観点で考察し，その環境の特性について判断している。	一緒に調査をした班のメンバーと結果を共有し，その結果をもとにして，考察を進めるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	第2節 人間による活動と自然環境 ・「レッツ スタート！」シカが増加した原因について考え、話し合う。 ・「？課題」自然環境に人間の活動がどのような影響をあたえているのだろうか。 ・P.274 図2～図4のシカの食害の写真などを見て、シカが増加した理由についての説明を聞き、人間の自然へのかかわりが自然界のつり合いを変化させることを認識する。 ・自然界のつり合いが変化する原因の例として、人間の活動や外来生物の影響があることを知る。 ・「調べて発表しよう」外来生物がどのようにして持ちこまれたのか、生態系にどのような影響をあたえるかについて教科書の生物の例を参考に考え、発表する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	274～275	態		人間の活動が自然環境に影響をあたえることを理解し、身のまわりの外来生物について進んで調べ、発表している。 【発言分析・行動分析】	人間の活動が自然環境に影響をあたえることを理解し、身のまわりの外来生物がどのように持ちこまれ、自然環境にどのような影響をあたえるのかなどを進んで調べ、発表している。	外来生物のいくつかの例をあげ、その例についてインターネットや書籍で調べるよう助言・指導する。
	第3節 自然環境の開発と保全 ・「レッツ スタート！」生物を絶滅させないためにできることを考え、話し合う。 ・「？課題」自然環境を保全するためにどのような活動が行われているのだろうか。 ・人間の活動により自然環境が急激に変化したことを理解する。 ・多くの生物が絶滅しており、生物多様性の低下が問題になっていることを理解する。 ・「発表しよう」里山保全や森林保護、湿地保全など地域の環境保全の取り組みを調べ、発表する。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「君ならどうする？」環境を保全するために私たちができることを考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認し、考えたことをノートに記述し、話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。	276～278	態	○	自然環境を保全するさまざまな取り組みを理解し、科学的な観点をふまえて、自然環境の保全に向けて、身のまわりからできる行動を考え、実行しようとしている。 【行動分析・記述分析】	自然環境を保全するさまざまな取り組みについて調べ、自然環境の保全について科学的な観点をふまえて自分ができる具体的な行動を考えて記述し、その行動を実行しようとしている。	身近な消費に目を向けて、自分の消費活動が環境にあたえる影響を考え、その消費活動を見直すよう助言・指導する。

【単元 5】 第 3 章 科学技術と人間 (教科書 P. 279～296)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
- 人間は水力，火力，原子力，太陽光などからエネルギーを得ていることを知るとともに，エネルギー資源の有効な利用が大切であることを認識する。また，物質に関する観察，実験などを通して，日常生活や社会では，さまざまな物質が幅広く利用されていることを理解するとともに，物質の有効な利用が大切であることを認識する。さらに，科学技術の発展の過程を知るとともに，科学技術が人間の生活を豊かで便利にしていることを認識する。あわせて，それらの観察，実験などに関する技能を身につける。（知識・技能） - 日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について，見通しをもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈するとともに，自然環境の保全と科学技術のあり方について，科学的に考察して判断する。（思考・判断・表現） - エネルギーと物質に関する事物・現象，自然環境の保全と科学技術の利用に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）	日常生活や社会と関連づけながら，エネルギーとエネルギー資源，さまざまな物質とその利用，科学技術の発展，自然環境の保全と科学技術の利用についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について，見通しをもって観察，実験などを行い，その結果を分析して解釈したり，自然環境の保全と科学技術の利用について，観察，実験などを行い，自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について，科学的に考察して判断したりするなど，科学的に探究している。	エネルギーと物質に関する事物・現象，自然環境の保全と科学技術の利用に進んでかかわり，見通しをもったりふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	・「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第 1 節 さまざまな物質とその利用 ・「レッツ スタート！」私たちの生活のなかで変化しているものについて話し合う。 ・「？課題」昔と今で，変わってきた素材や製品にはどのような物があり，また，なぜ変わってきたのだろうか。 【実験 2】素材となる物質の性質 ・実験 2 を行い，各素材の性質を比較することで，利点や欠点を見いだして，用途とのつながりを考える。 ・「考察しよう」物質の性質と用途との関係について，話し合う。 ・天然の物質や，人工的につくられた物質とその用途について学び，科学技術の発展が日常生活を支えていることを知る。	279～282	態		昔と現在の生活の比較から，素材や製品がどのように変わってきたかについて考えようとしている。 [発言分析・行動観察]	おむつの素材が布から紙製品に変わってきた事例のように，具体例をあげ，素材や製品の変化についてねばり強く考えようとしている。	教員の子どもの頃の生活事例を示すなどして，具体例を考えられるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・「調べよう」ペットボトル片を熱して、繊維をつくり、成型や加工ができることを理解する。 ・プラスチックの性質についての説明を聞く。 ・プラスチックの区別のしかたについて説明を聞く。 ・プラスチックの未来について説明を聞く。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	282～285	知	○	プラスチックに関する実験や資料から、プラスチックの性質や利用の利点と欠点を理解している。 【発言分析・記述分析】	プラスチックの性質をそれぞれ具体的にあげ、利用する際の利点と欠点を説明している。	身のまわりにさまざまなプラスチック製品があり、各プラスチックの特徴をいかした用途に使われていることを認識できるよう助言・指導する。
	第2節 エネルギー資源の利用 ・「レッツ スタート！」P.286 図1などを参考に、エネルギー総使用量の変化からわかることを考える。 ・「？課題」今後、エネルギー資源をどう利用していけばよいだろうか。 ・P.287 図3などを参考に、1日の電気エネルギーの需要変化の増減の理由について、現代と1975年などとを比較しながら考え、話し合う。 ・「君ならどうする？」省エネルギーにつながる行動について考える。	286～287	思		現代社会は電気エネルギーに依存していること、および、その理由について考えている。 【発言分析・記述分析】	エネルギー総使用量の変化と、1日の電気エネルギーの需要変化の増減を関係づけ、自分の考えを適切に表現している。	日常生活における電気エネルギーの利便性を想起するよううながす。
	・P.288 図1～図3を参考に、さまざまな発電方法の長所と短所についてまとめる。 ・原子力発電に関連して人体に対する放射線の影響を表す単位について確認し、身近な放射線量と影響についてまとめる。 ・「つながる科学」福島第一原子力発電所の事故を調べ、科学的に判断するための知識を身につける。	288～289	知		さまざまな発電方法の長所と短所について理解している。また、原子力発電に関連して、放射線について理解している。 【発言分析・記述分析】	さまざまな発電方法の長所と短所について、自分の言葉で説明している。また、放射線について、利点と欠点を適切に理解し、説明している。	身近にある発電所を例にあげて、長所と短所の両側面を考えるよううながす。放射線については、単に怖いだけのものではないことが実感できるよう助言・指導する。
	・再生可能なエネルギー資源について、P.290 図1～図3, P.291 図4などを参考に、長所と短所についてまとめ、安定したエネルギー資源を得るために何をしたらよいかを考える。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。	290～291	態	○	再生可能なエネルギー資源について考え、エネルギー資源の利用の課題解決に向けて、ねばり強くとり組もうとしている。 【発言分析・記述分析】	再生可能なエネルギー資源の問題点と、それを解決する方向性を見いだそうと、自分やほかの生徒の考えを十分に検討して改善しようとしている。	身近にどのような再生可能なエネルギー資源があるか、さがしてみるよう助言する。
	第3節 科学技術の発展 ・「君ならどうする？」科学技術がどのように役立っているか、どのように活用すべきかについて話し合う。 ・「？課題」科学技術を利用することは、私たちの未来をどのように変えることになるだろうか。 【実習1】科学技術の利用のあり方 ・実習1を行い、科学技術の有用性と活用のあり方について考える。	292～294	思	○	科学技術の利用のあり方について、正負の両側面からとらえ、多様な視点で考えている。 【行動観察・記述分析】	設定したテーマについて、関連するキーワードをつなげていくことにより視野を広げ、多様な視点で科学技術の利用のあり方をとらえ、考えている。	P.292 の会話文を参考にして、科学技術の利用が私たちの生活を変えていることを認識させ、さらに未来はどのように変化していくかについて考えるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	・「！課題に対する結論を表現しよう」実習１について，発表し合う。 ・ほかの生徒の発表を聞いて「？課題」に対する自分の考えをまとめ，ほかの生徒と考えを共有する。 ・持続可能な社会についての説明を聞く。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。 ・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して，考えたことをノートに記述し，話し合う。 ・「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し，話し合う。	295～296	態		ほかの生徒の発表を聞いて，自分の考えをさらに深めたり，広げたりしようとしている。また，循環型社会の構築のために，社会に積極的にかかわろうとしている。 【行動観察・記述分析】	実習１に対するほかの生徒の考えを理解し，自分の考えを深めたり広めたりする姿勢を見せ，持続可能な社会構築への積極的な姿勢を示している。	ほかの生徒の意見を整理し，自分の意見との共通点や相違点を見いだすよう助言・指導する。

【単元 5】 地域とつながる 自然災害と地域のかかわりを学ぶ (教科書 P. 297～300)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
・日常生活や社会と関連づけながら，地域の自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに，それらの観察・実験の技能を身につける。（知識・技能） ・地域の自然災害などを調べる観察，実験などを行い，自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について，科学的に考察して判断する。（思考・判断・表現） ・環境に関する事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに，自然を総合的に見ることができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）	日常生活や社会と関連づけながら，地域の自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	地域の自然災害などを調べる観察，実験などを行い，自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について，科学的に考察して判断しているなど，科学的に探究している。	地域の自然災害に関する事物・現象に進んでかかわり，見通しをもったり，ふり返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	自然災害と地域のかかわりを学ぶ ・「レッツ スタート！」自分たちの住む地域で起こった災害について，保護者や地域の人から聞いたことなどについて話し合う。 ・「？課題」自分たちの住む地域では，どのような災害が起こるおそれがあるだろうか。 ・「調べよう」自分たちの住む地域に過去に起こった自然災害について，調査計画を立てる。	297	態	○	自分たちの住む地域で過去に起こった自然災害に関する事物・現象についての情報を収集して課題を設定し，探究しようとしている。 [発言分析・行動観察]	自分たちの住む地域の自然災害を調べる際に，多様な情報を活用して，解決可能な課題を設定し，見通しをもって探究しようとしている。	自分たちの住む地域で過去に起こった自然災害があることに気づかせ，何について，どのように調べるのかを具体的に計画することができるよう助言・指導する。
	・「調べよう」自分たちの立てた調査計画にもとづき，資料調査・実地調査を行い，その結果をまとめる。 ・調査結果をもとに，科学的な根拠にもとづいた考察を行い，レポートを作成する。	297～298	思	○	地域の自然災害を記録や資料をもとに調べたり，実地調査を行ったりするなどの活動を行い，調査結果をもとに時間的・空間的な見方から現象をとらえるとともに，自然災害と人間とのかかわり方について科学的に考察して判断し，表現している。 [発言分析・記述分析]	地域の自然災害を記録や資料をもとに調べたり，実地調査を行ったりするなどの活動を行い，大地の変化の特徴を時間的・空間的な見方で理解し，自然を多面的，総合的にとらえ，自然と人間とのかかわり方について，科学的に考察して判断し，表現している。	資料調査・実地調査などによって得られた，それぞれの結果をまとめさせ，それらをもとに自然と人間とのかかわり方について考察することができるよう助言・指導する。
	・まとめた結果を発表し合う。 ・「！課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ，確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・「つながる科学」局地的な天候の変化をつかむレーダーの話題や東北地方太平洋沖地震での釜石の事例についての説明を聞く。	299～300	知	○	地域の自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しており，地域の自然やそこに起こる災害の特徴を，日常生活や社会と関連づけながら理解している。 [記述分析]	地域の自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを説明しており，地域の自然やそこに起こる災害の特徴を，日常生活や社会と関連づけながら具体的に説明している。	例えば，地震や津波のこん跡，火山灰の分布，台風被害，洪水や土砂災害，風雪被害など，これまでに学習してきた内容を想起させ，生じた現象と被害との関係を認識させるなど，具体的な事例を示しながら，自然と人間とのかかわりについて，理解できるよう助言・指導する。

【単元 5】 終章 持続可能な社会をつくるために (教科書 P. 301～309)

章の目標	章の観点別評価規準		
	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
- 日常生活と社会とを関連づけながら，科学技術が人々の生活を豊かにし，人間の経済活動が環境に変化をあたえていることを理解するとともに，持続可能な社会をつくることが重要であることを認識し，そのための科学的調査の技能を身につける。（知識・技能） - 多様な情報からエネルギーや資源，自然環境についての問題を見だし，調査や文献などの科学的知見を分析し，経済活動と環境保全のあり方について，科学的に考察して判断する。（思考・判断・表現） - 義務教育段階の理科をふり返り，科学の有効性を判断し，環境に関する科学的調査を計画し，持続可能な社会の実現に向けてねばり強く討論する。（主体的に学習に取り組む態度）	経済活動と資源，環境を関連づけながら，生物相の変化，資源の減少などを理解し，それに対する科学技術や社会的取り組みから，持続可能な社会に向けた行動判断のもとになる科学的調査（文献調査もふくむ）の技能を身につけている。	資源・環境の持続性について問題を見だし，身のまわりの調査活動をレポートにまとめ，科学的に考察して，持続可能な社会に向けての行動を判断している。	これまでの理科学習について進んでふり返り，持続可能な社会の実現案を出すための探究を計画し，科学的に探究しようとしている。

重点…重点的に生徒の学習状況を見取る観点
記録…記録に残す評価

時数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
	「Before & After」これまでに学んだことや生活経験をもとに自分の考えを記述し，話し合う。 第 1 節 地球環境と私たちの社会 「レッツ スタート！」生活経験などをもとに，30 年後の社会がどう変化するか（P.302 図 1～図 4 やふき出しは視点例），自分の考えを記述し，ほかの生徒と意見交換する。 - 今後，社会が変化することを理解したうえで，持続可能な社会の概念についての説明を聞き，理解する。 「？課題」30 年後の社会のために，私たちは社会にどのようにかわればよいだろうか。 「君ならどうする？」P.303 図 6～図 8 を見て，外来生物による生態系の変化や野生生物保護活動を学び，外来生物の存在について，良い，悪いで判断できるか話し合う。	301～303	思		30 年後の社会と外来生物の存在について，環境，資源，エネルギー，科学技術等の視点に科学的根拠をともなって，考えをまとめている。 [発言分析・行動観察]	「？課題」について，科学的根拠をもって考えをまとめ，ほかの生徒との意見交換を通して自分の考えを修正し，ブラッシュアップされた結論を表現している。	どのような視点で考えるか具体的な例をあげ，P.302，P.303の図を根拠として示し，考えをまとめられるよう助言・指導する。

時 数	主な学習活動	頁	重点	記録	評価基準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への 指導の手立て
	- さまざまな発電方法をふり返り，P.304 図 1，図 2 から，日本における発電方法の割合の経年変化と国別の発電方法の割合を比較し，気づいたことを発表する。 「君ならどうする？」発電方法の望ましい組み合わせをグループで話し合い，その結論の理由を説明する。 - 科学技術の進歩により，消費電力の少ない電化製品が流通するようになっていることについての説明を聞き，理解する。 「データから考えよう」日本の再生可能エネルギーの割合について，P.304 図 2 から読みとったことを発表する。 - 石油が燃料・動力源・原料に使用され，その埋蔵量にも限りがあることや，石油を使用しない発電方法や製品が存在することについての説明を聞き，理解する（P.305 図 5～図 8）。 「君ならどうする？」プラスチックによる環境汚染やプラスチックの原料減少などについて，社会的問題としてとり上げるべき内容を考える。 - 地球温暖化防止のためのさまざまなとり組みについて説明を聞き，理解する。 「君ならどうする？」地球温暖化に対する国際的なとり組み案を考え，発表する。	304～306	思		P.304 図 1 から日本の発電方法の特性を読みとり，発電方法の特性をいかした組み合わせを提案し，原油の持続可能な利用とプラスチックによる環境汚染を回避した持続可能な社会に向けた考えを表現している。 【発言分析・行動観察】	P.304 図 2 から，発電方法の国際比較と新技術の知識をもとにして，環境に負荷のかからない発電方法の組み合わせを提案し，石油を使用しない新技術をいかした製品について説明している。	P.288，P.290 をもとに，さまざまな発電方法とその特性を説明し，ほかの生徒との交流を通して，その組み合わせを考えさせ，P.305 図 5～図 8 から，石油を使用しない新技術を紹介し，持続可能な原油使用とプラスチックによる環境汚染の回避に着目できるよう助言・指導する。
	「調べよう」身近な環境について調べる。 - インターネットや文献を利用して調査方法を検討して，調査計画表を作成し，その計画について教員と確認する。	307～308	態	○	これまでの学習をふり返り，環境に関するテーマを設定し，課題解決に向けた適当な調査となっており，また実現可能な調査計画となっている。 【行動観察・記述分析】	これまでの学習をふり返り，環境に関する興味のあるテーマを設定し，適当な調査方法を文献やインターネットで調べ，調査に必要な道具・施設・人材を明確にし，調査活動を具体的に計画表に記載している。	P.255～P.307 の範囲で，どこに興味をもったか質問し，そこからテーマを設定させ，インターネットで検索する際のキーワードの例をあげ，調査方法を決定できるよう助言・指導する。
	【実習 2】30 年後の社会のために現在の社会とどうかかわるか - P.307 の「調べよう」で身近な環境について調べた結果をグループ内で発表し，「社会とどうかかわるか」を提案する。 - 各発表に対してグループ内で，質問や意見を交換する。 - グループ発表で提案された「社会とどうかかわるか」についてのアイデアをホワイトボードなどにまとめる。 - グループでの提案をクラス全体で発表し，意見交換を行う。 - クラス全体での意見交換を受け，「社会とどうかかわるか」について個人で考え，そのまとめを P.309 に記入する。 「Before & After」この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し，話し合う。	309	思	○	P.307 の「調べよう」で作成したレポートを根拠に，「社会とどうかかわるか」についての討議を行い，社会全体または個人でできることを，科学的根拠をもとに提案している。 【記述分析】	適当な科学的根拠をもとに持続可能な社会を目指した社会とのかかわりについて考え，さらに，ほかの生徒との意見交換を経て，最終的に個人で社会とかかわる行動を判断し，文章でまとめている。	グループやクラス全体で出た模範的な意見に着目させ，この意見に対して賛同する部分や付加する内容を表現できるよう助言・指導する。

令和5年度 中学部 3年（I課程） 音楽科 年間指導計画

単位数 ／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
35	中学生の音楽1 / 中学生の音楽2・3 上下 / 中学生の音楽 / 他	

目標：〈知・技〉知識及び技能 (思・判・表) 思考力、判断力、表現力等 (学・人) 学びに向かう力・人間性等
 評価：〈知・技〉知識・技能 (思・判・表) 思考・判断・表現 (主学) 主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知・技) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (思・判・表) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (学・人) 主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	4	(知・技) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 (思・判・表) 音色、リズム、旋律、テンションを聴き、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。 (学・人) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に歌唱の学習活動に取り組む。	(知・技) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 (思・判・表) 音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (主学) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	曲想と曲の構成を感じ取って歌唱表現を工夫しよう	「We'll Find The Way」 「夢の世界を」 「My Voice!」 「リズムゲーム・リズムアンサンブル」
	4	(知・技) 曲想と音楽の構造や曲の音響との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。 (思・判・表) 音色、リズム、旋律、テンションを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。 (学・人) 4つのパートの役割に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に器楽の学習活動に取り組む。	(知・技) 曲想と音楽の構造や曲の音響との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 (思・判・表) 音色、リズム、旋律、テンションを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 (主学) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	楽器の音色と奏法との関わりを理解して、器楽表現を工夫しよう	「千の風になって」 「カントリーロード」
	4	(知・技) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 (思・判・表) 音色、リズム、速度、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 (学・人) 音楽から得られるイメージと音楽の特徴との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組む。	(知・技) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 (思・判・表) 音色、リズム、テンション、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 (主学) 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	イメージと音楽との関わりを感じ取ろう	「ジョーズのテーマ」
2 学期	4	(知・技) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 (思・判・表) 音色、リズム、旋律、テンションを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。 (学・人) 旋律や強弱の生み出す曲想の変化、音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に歌唱の学習活動に取り組む。	(知・技) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 (思・判・表) 音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (主学) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	曲想やパートの役割を感じ取って歌唱表現を工夫しよう	「君をのせて」 「翼をください」
	4	(知・技) 曲想と音楽の構造や曲の音響との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。 (思・判・表) 音色、リズム、旋律、テンションを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。 (学・人) 曲の構成に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に器楽の学習活動に取り組む。	(知・技) 曲想と音楽の構造や曲の音響との関わり、楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 (思・判・表) 音色、リズム、旋律、テンションを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 (主学) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	曲の構成を理解して表現を工夫しよう	「赤とんぼ」 「浜辺の歌」 「風になつて」

3 学期	4	《知・技》音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対面などの構成上の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。 《思・判・表》リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫する。 《学・人》反復、変化、対象などの構成や全体のとまり、音の重なり方に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。	《知・技》音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対面などの構成上の特徴について理解している。創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付け、創作で表している。 《思・判・表》音色、リズム、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 《主・学》音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対象などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。	音の重なり方や反復、変化を理解して創作表現を工夫しよう	「Let's Create!」 「My Melody」
	3	《知・技》曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 《思・判・表》音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 《学・人》旋律の雰囲気や歌い方の違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組む。	《知・技》曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 《思・判・表》音色、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 《主・学》曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう	「魔王」
	4	《知・技》曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。 《思・判・表》音色、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫する。 《学・人》曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。	《知・技》曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 《思・判・表》音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 《主・学》曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の雰囲気との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	仲間とともに表情豊かに歌おう	「卒業式の歌」
	4	《知・技》我が国や郷土の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。 《思・判・表》音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 《学・人》音楽の特徴と多様性に触れ、我が国の音楽や音楽表現との比較を通して共通性や固有性について考える学習に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。	《知・技》我が国や郷土の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。 《思・判・表》音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 《主・学》我が国の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	日本の伝統音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう	能「敦盛」 沖縄の伝統音楽「組踊」に親しもう
留意点 引継ぎ等		○儀式・行事の曲（「校歌」「友だちになれたらいいね」「月桃」「いのちのリレー」等）			

令和5年度中学部3年（I課程） 美術科 年間指導計画

単位数 ／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
35	光村図書	

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等

評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標	(知及技) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。 (思判表力) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (学・人) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。
------	---

学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期		(知及技) 形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解する。 (思判表力) 造形的なよさや美しさを感じ取り、色彩などの表現の工夫を考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (学・人) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に色彩などの工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組む。	(知・技) 形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。 (思・判・表) 造形的なよさや美しさを感じ取り、色彩などの表現の工夫を考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 (主学) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に色彩などの工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	【鑑賞】 「うつくしい！」	・オリエンテーション ・美術の約束 ・foamsを使った実態把握アンケート ・鑑賞 谷川俊太郎「うつくしい！」を観て
	2	(知及技) 自分の感じ取った美しさに合った構図などを選択し、意図に応じて工夫して表す。 (思判表力) 身近なものや風景を見つめ、感じ取った美しさなどをもとに主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 (学・人) 美術の創造活動の喜びを味わい、作品からさまざまな表現の工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に楽しく取り組む。	(知・技) 自分の感じ取った美しさに合った構図などを選択し、意図に応じて工夫して表している。 (思・判・表) 身近なものや風景を見つめ、感じ取った美しさなどをもとに主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (主学) 美術の創造活動の喜びを味わい、作品からさまざまな表現の工夫を感じ取る鑑賞の学習活動に楽しく取り組もうとしている。	【写真撮影・鑑賞】 「it's my beautiful !」	・iPad でお気に入り撮影する ・写真選びとコメント書き ・写真を掲示するためにレイアウトする ・鑑賞と発表
	4	(知及技) 形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、作品の造形的な特徴をもとに、ピカソがゲルニカに託した思いなどを全体のイメージや作風で捉えることを理解する。 (思判表力) ゲルニカの造形的なよさや美しさを感じ取り、平和をテーマにした作品を表現する。 (学・人) 美術の創造活動の喜びを味わい、作品がつくられた背景をもとに、作者の表現の意図や工夫を感じ取ったり、自分の思いや考えを作品に表したりする。	(知・技) 形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、作品の造形的な特徴をもとに、ピカソがゲルニカに託した思いなどを全体のイメージや作風で捉えることを理解している。 (思・判・表) ゲルニカの造形的なよさや美しさを感じ取り、平和をテーマにした作品を表現しようとしている。 (主学) 美術の創造活動の喜びを味わい、作品がつくられた背景をもとに、作者の表現の意図や工夫を感じ取ったり、自分の思いや考えを作品に表したりしようとしている。	【鑑賞】 「ゲルニカ」 【絵画表現】 「平和とは？」	・「ゲルニカを見る少年」の鑑賞 ・ピカソ作品「ゲルニカ」の鑑賞 ・絵画表現 「ぼくが描く平和」
	3	(知及技) 形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、装飾物の造形的な特徴をもとに、デザインの役割や働きを全体のイメージで捉えることを理解する。 (思判表力) 装飾物の調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、地域の人々にとってのデザインの役割や働きなどをかんがえるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (学・人) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的にデザインの役割や働きについて見方を深める鑑賞の学習活動に取り組む。	(知・技) 形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、装飾物の造形的な特徴をもとに、デザインの役割や働きを全体のイメージで捉えることを理解している。 (思・判・表) 装飾物の調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、地域の人々にとってのデザインの役割や働きなどをかんがえるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 (主学) 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的にデザインの役割や働きについて見方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	デザイン 1, 色について 2, 夏色のモバイル制作	・色や光の特徴について（色の三原色・光の三原色、色の対比・補色、色相環など） ・色の組み合わせについて（色の調子・配色・錯視など） ・半立体作品「夏色のモバイル」制作（合作）

2 学期	5	(知及技) 形や色、構成や配置などが見る人に与える効果や造形的な特徴をもとに、印象に残るシンボルマークを全体のイメージで捉えることを理解する。 (思判表力) 学校の魅力を表現するために、学校の特色などから主題を生み出し、形や美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。 (学・人) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しくシンボルマークやキャラクターを考え、工夫してあらかず表現の学習活動に取り組む。	(知・技) 形や色、構成や配置などが見る人に与える効果や造形的な特徴をもとに、印象に残るシンボルマークを全体のイメージで捉えることを理解している。 (思・判・表) 学校の魅力を表現するために、学校の特色などから主題を生み出し、形や美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 (主学) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しくシンボルマークやキャラクターを考え、工夫してあらかず表現の学習活動に取り組もうとしている。	【デザイン】 「あわせ」の魅力について考えよう	1, 校章について 2, シンボルマークデザイン 3, ゆるキャラの考案
	7	(知及技) クレイ粘土の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。 (思判表力) 身の回りのものから創造を広げることで主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 (学・人) 美術の創造活動の喜びを味わい、アニメーションや表現のおもしろさを感じ取りながら仲間と共同で動画制作に取り組む。	(知・技) クレイ粘土の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。 (思・判・表) 身の回りのものから創造を広げることで主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (主学) 美術の創造活動の喜びを味わい、アニメーションや表現のおもしろさを感じ取りながら仲間と共同で動画制作に取り組もうとしている。	【粘土制作・動画編集】 「クレイアニメーションに挑戦！」	・クレイアニメーション動画視聴 ・映像制作の流れについて ・クレイ粘土について ・クレイアニメキャラクターの制作 ・動画編集 ・上映会
	4	(知及技) 自分の主題に応じて、制作の順序を考え、見通しを持ち工夫して模様を表す。 (思判表力) 身の回りの形や色の特徴などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練る。 (学・人) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく形や色を工夫して模様をつくる表現の学習活動に取り組む。	(知・技) 自分の主題に応じて、制作の順序を考え、見通しを持ち工夫して模様を表している。 (思・判・表) 身の回りの形や色の特徴などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練っている。 (主学) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく形や色を工夫して模様をつくる表現の学習活動に取り組もうとしている。	【デザイン・コンピュータグラフィックス】 「生活をいろいろ文様」	・パソコンや iPad などを使用して、デザインを考える ・文様をリビテーション（繰り返し）で表現する ・包装紙などにプリントアウト
3 学期	7	(知及技) 身の回りにある様々な紙類の特徴を生かし、それらを材料にして意図に応じて創意工夫して表す。 (思判表力) 主題や紙類の特徴をもとに全体と部分との関係などを話し合いながら、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 (学・人) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく材料の特徴を生かし、それらを組み合わせて表す表現の学習活動に取り組む。	(知・技) 身の回りにある様々な紙類の特徴を生かし、それらを材料にして意図に応じて創意工夫して表している。 (思・判・表) 主題や紙類の特徴をもとに全体と部分との関係などを話し合いながら、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 (主学) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく材料の特徴を生かし、それらを組み合わせて表す表現の学習活動に取り組もうとしている。	【立体制作：合作】 アワセモニュメントを考えよう。作ろう。	・モニュメントについて知る（身近なものや世界のもの） ・校内に飾るモニュメントについて全員で構想を練る。 ・モニュメントの材料を考える。 ・作品を展示する。
	2	(知及技) 形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、全体のイメージで捉えることを理解する。 (思判表力) 表現の良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げる。 (学・人) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく表現の良さや美しさを感じとる鑑賞の学習活動に取り組む。	(知・技) 形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、全体のイメージで捉えることを理解している。 (思・判・表) 表現の良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を広げている。 (主学) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく表現の良さや美しさを感じとる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	【鑑賞・まとめ】 「美術って何だろう？」	・制作した作品や名画を鑑賞し、ワークシートにまとめて発表する。 ・自己評価（振り返り）
留意点引継ぎ等					

令和 5年度 中学部3年（Ⅰ課程グループ）保健体育 年間指導計画

単位数 ／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
70	新しい保健体育（東京書籍）	

目標：（知及技）知識及び技能（思判表力）思考力、判断力、表現力等（学・人）学びに向かう力・人間性等
 評価：（知・技）知識・技能（思・判・表）思考・判断・表現（主学）主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身につけるようにする。 (思判表力) 各種の運動や健康な生活における自分の課題を見つけ、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。 (学・人) 各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
年間を通して		(知及技) 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともにその行い方がわかり、友達と関わったり、動きを継続する能力などを高めることができる。 (思判表力) 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動について自分の課題を見つけ、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。 (学・人) 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動ができる。	(知・技) 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともにその行い方がわかり、友達と関わったり、動きを継続する能力などを高めようとしている。 (思・判・表) 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動について自分の課題を見つけ、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えようとしている。 (主学) 体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとしている。 【評価資料】 活動の様子と感想発表 振り返りシートで評価する。	① 体つくり運動 ・体操、ダンス ・5分間走	・伸び伸びとした動作で行う運動。(ストレッチ体操等) ・リズムに乗って行う運動。(ツバメダンス、ラジオ体操等) ・歩いたり、走ったりする運動。 ・校外学習
		(知及技) 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身につけることができる。 (思判表力) 自分の健康・安全についての課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。	(知及技) 体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身につけようとしている。 (思判表力) 自分の健康・安全についての課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えようとしている。	②保健分野 ・病気の予防 ・体のしくみ ・体の発育 ・応急処置	・水泳の事前学習で「衛生」や「規則正しい生活」についての学習を行う。 ・身体測定を通して、自分自身の成長と友だちとの違いを学習する。
一学期	8	(知及技) 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり基本的な動きや技能を身につけ、簡易化されたゲームを行うことができる。 (思判表力) 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。 (学・人) 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動することができる。	(知及技) 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり基本的な動きや技能を身につけ、簡易化されたゲームを行おうとしている。 (思判表力) 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えようとしている。 (学・人) 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとしている。 【評価資料】 活動の様子と感想発表 振り返りシートで評価する。	③球技 (ボウリング)	・スライダーを使い球を転がす。 ・倒したピンを数える。 ・シューターの向きを調整する。 ・個人戦と団体戦の試合を行う。
	8	(知及技) 陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方がわかり、基本的な動きや技能を身につけることができる。 (思判表力) 陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。 (学・人) 陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動ができる。	(知・技) 陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方がわかり、基本的な動きや技能を身につけようとしている。 (思・判・表) 陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えようとしている。 (主学) 陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとしている。 【評価資料】 活動の様子と感想発表 振り返りシートで評価する。	④陸上競技 (短距離走・リレー)	・決められた短い距離を自分なりの方法で走ったり、歩いたり、電動車いすで移動したりする。 ・自分のコースを走る練習 ・バトンパスの練習
	8	(知及技) 初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに触れ、その行い方がわかり、基本的な動きや技能を身につけることができる。 (思判表力) 初歩的な泳ぎについて自分の課題を見付けその解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。 (学・人) 初歩的な泳ぎに進んで取り組み、きまりなどを守り友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動ができる。	(知・技) 初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに触れ、その行い方がわかり、基本的な動きや技能を身につけようとしている。 (思・判・表) 初歩的な泳ぎについて自分の課題を見付けその解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えようとしている。 (主学) 初歩的な泳ぎに進んで取り組み、きまりなどを守り友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとしている。 【評価資料】 活動の様子と感想発表 振り返りシートで評価する。	⑤水泳	・水慣れ (シャワー・足浴・顔つけ) ・水中ウォーキング ・ビート板等の浮き具を使用した活動 ・浮力を利用して様々な動きを行う活動。
二学期	20	(知及技) 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり基本的な動きや技能を身につけ、簡易化されたゲームを行うことができる。 (思判表力) 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。 (学・人) 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動することができる。	(知及技) 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり基本的な動きや技能を身につけ、簡易化されたゲームを行おうとしている。 (思判表力) 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えようとしている。 (学・人) 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとしている。 【評価資料】 活動の様子と感想発表 振り返りシートで評価する。	⑥球技 (コントロールアタック・ティーベースボール)	(コントロールアタック) ・指定した場所から指定した的を狙い投げる活動。 ・ねらう的を自分で決め投げる活動。 ・個人戦とチーム戦の試合を行う。(ティーベースボール) ・ティーに置かれたボールをバットにあてる活動。 ・素早く一塁まで移動する活動。 ・転がってきたボールをキャッチしたり、触れる位置まで移動する活動。 ・攻撃と守備の一連の動作を確認し実践する活動。 ・試合
	8	(知及技) エイサーの楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本的な動きを身につけ、表現して踊ったりすることができる。 (思判表力) エイサーについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。 (学・人) エイサーに進んで取り組み、きまりなどを守り友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動ができる。	(知及技) エイサーの楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本的な動きを身につけ、表現して踊ったりしようとしている。 (思判表力) エイサーについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えようとしている。 (学・人) エイサーに進んで取り組み、きまりなどを守り友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとしている。 【評価資料】 活動の様子と感想発表 振り返りシートで評価する。	⑦運動会の取り組み (エイサー等)	・前回の運動会の鑑賞 ・曲に合わせてバーランクーを叩く。 ・動画を見ながら振り付けを覚える。

三学期	9	(知及技) 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり基本的な動きや技能を身につけ、簡易化されたゲームを行うことができる。 (思判表力) 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えることができる。 (学・人) 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動することができる。	(知及技) 球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり基本的な動きや技能を身につけ、簡易化されたゲームを行おうとしている。 (思判表力) 球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えようとしている。 (学・人) 球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動しようとしている。 【評価資料】 活動の様子と感想発表 振り返りシートで評価する。	⑧球技 (車いすサッカー)	・大ボールを手で押したり、車いすを操作しながら押したりする活動。 ・動いているボールを止める運動。 ・ゴールに向かってボールを押し転がし、得点したりする運動。
	9	(知及技) 年間を通して取り組んだ活動内容を思い出すことができる。 (思判表力) これまでの活動の中から、もう一度挑戦したいことを選ぶことができる。 (学・人) 友だちと作戦を立て、楽しく安全に活動することができる。	(知・技) 年間を通して取り組んだ活動内容を思い出そうとしている。 (思・判・表) これまでの活動の中から、もう一度挑戦したいことを選ぶようとしている。 (主学) 友だちと作戦を立て、楽しく安全に活動しようとしている。	⑨チャレンジカップ	・動画や記録を通して、1年間の取り組みを確認する。 ・好きな競技を選ぶ。 ・皆と選んだ競技の内容やルールを再確認してゲームを行う。
留意点引継ぎ等					

■ 3 年

* (知) …知識・技能 (思) …思考・判断・表現 (態) …主体的に学習に取り組む態度

* ★…「主体的に学習に取り組む態度」は、複数の学習内容にまたがる長期的な評価規準となる。

時間	指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
1 5	1 編 1 章 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み				
	①身の回りの材料と加工の技術	A(1) アイ	- 身の回りの製品を見て、なぜその材料が使われているか知る。 - 身の回りの製品に使われている材料と加工の技術について調べる。	身の回りの製品に使われている材料は、製品の強度や耐久性、安全性、費用、環境への負荷などに考慮して選ばれていることに気付かせる。	- 身の回りの製品に生かされている材料の特性と材料に適した加工方法について理解している。(知) ★主体的に材料と加工の技術について考えようとしている。(態)
	②木材、金属、プラスチックの特性	A(1) アイ	- 木材、金属、プラスチックの特性について調べる。 - 木材、金属、プラスチックがどのような製品に利用されているかをまとめる。 [他教科] (小) 理科 4 年：金属、水、空気と温度 (小) 社会 4 年：人々の健康や生活環境を支える事業 - 理科 1 年：身の回りの物質とその性質 - 理科 2 年：原子・分子 - 理科 3 年：さまざまな物質とその利用	- 木材、金属、プラスチックの見本を準備し、実際に触らせたり、観察させたりするとよい。 - 見た目の違い - 触ったときの触感 - 力を加える(曲げる) - 重さ - 加工のしやすさ など - 身の回りの製品は、使用目的や使用条件に合わせて、最適な材料が選ばれていることに気付かせる。	木材、金属、プラスチックなどの特性と特性を生かした利用方法について理解している。(知)
	③材料に適した加工方法	A(1) アイ	- 工具や機器を加工の特性や方法に応じて分類する。 - 材料と目的に応じた工具や機器を選択する。 - 工具や機器を安全に使用方法や技術室の安全のための決まりを調べる。 - 簡単な加工体験を行う。 [他教科] (小) 図画工作：工作に表す活動	- 技術室にある工具や機器を調べさせ、加工方法によって選択する必要があることを知らせるとともに、作業の安全に注意を促す。 - 簡単な加工体験を行うことで、本題材(材料と加工の技術による問題解決)における製作品の完成度を高めることにもつながる。	- 目的とする加工に応じた工具や機器について理解している。(知) - 工具や機器を適切に選択し、安全に配慮しながら、簡単な製作品を製作できる技能を身に付けている。(知)
	④丈夫な製品を作るために	A(1) アイ	- 製品を丈夫にするための材料と加工の技術の工夫について調べる。 - 部材の組み合わせや接合の方法などを工夫して製品を丈夫にする方法を考える。 [家庭分野] - 住生活	- 段ボールや牛乳パックなどで作ったフレームを準備し、実験を行うとよい。 - 構造の違い - 部材の違い - 製品の丈夫さ、見た目、重さ、使い勝手などの視点で比較させる。	身の回りの製品を丈夫にする方法を調べる活動などを通して、構造と部材を丈夫にする方法について理解している。(知)
	⑤材料と加工の技術の工夫を読み取る	A(1) イ	- 材料と加工の技術に込められた問題解決の工夫について考える。 - 身近な製品の問題解決の工夫などから、「技術の見方・考え方」について気付いたことをまとめる。	- 身の回りの製品が材料と加工の技術によって最適化されていることに気付かせる。 - 使用者の視点だけではなく、開発者の視点でも考えられるように配慮する。	材料と加工の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。(思)

時間		指導項目	指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
6 5 1 4	1編 2章 材料と加工の技術による問題解決	①問題を発見し、課題を設定しよう	A(2) アイ	- 身近な生活や学校などで、材料と加工の技術によって解決できる問題を見つける。 - 発見した問題を解決するための課題を設定する。 - 必要に応じて校内、校外散策も行いながら身の回りから課題を見つける。	「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を見いだすことができるように配慮する。 - 先輩の製作品や教科書などを参考に考えさせる。製品調査や家族へのインタビューなどを行うことも考えられる。 - イメージマップなどの思考ツールを活用して、自分の考えをまとめさせる。 - 校内、校外の散策も行いながら身の回りの課題を考えさせる。	「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。(思)
		②製作品を構想し、設計しよう	A(2) アイ	- 課題を解決するために、使用目的や使用条件に合わせて、製作品の構想を具体化する。 - 機能の検討 - 材料の検討 - 構造の検討 - 加工方法の検討 - 製作品の構想を製作に必要な図に表す。 [他教科] (小) 算数4年：立方体、直方体など立体図形、見取図、展開図 - 数学1年：平面図形、空間図形	- 製作品の構想を具体化する際は、製作品の形、大きさ、使いやすさ、丈夫さだけではなく、製作時間、かかる費用、使える材料などの制約条件や使用後、環境への負荷などについても考えさせる。 - 製作に必要な図は、等角図及び第三角法による正投影図を用いる。 - 知的財産を創造、保護及び活用することの大切さや技術に関わる倫理観について考えさせる。	- 製作に必要な図の描き方を理解している。(知) - 製作に必要な図に表すことができる技能を身に付けている。(知) - 材料の選択や成形の方法などを構想し、設計を具体化する力を身に付けている。(思) ★自分なりの新しい考え方や捉え方によって、知的財産を創造するとともに、他者のアイディアを尊重し、それらを保護・活用しようとしている。(態)
		③製作の計画を立てよう	A(2) アイ	- 製作に必要な図を基に、部品表、材料取り図を作成し、製作に必要な材料を準備する。 - 製作工程表を作成する。 - 工程ごとに使用する工具や機器を調べる。	- 製作工程表を作成させ、作業の見通しを持たせる。 - 能率的な作業手順を考えさせる。	構想に基づいて、製作の計画を立てることができる力を身に付けている。(思)
		④作業手順を考えて製作しよう	A(2) アイ	- 切り代や削り代を見込んで、仕上がり寸法線と切断線をけがく。 - 材料を切断線に従って切断する。 - 寸法線に従って加工する。 - 加工後、検査・修正し、仮組み立てをする。 - 組み立てをする。組み立て後、検査・修正する。 - 素材や用途に合った表面処理をする。 [他教科] (小) 図画工作：工作に表す活動	- 工具や機器の取り扱いでは、安全を徹底させる。 - 工具や機器の適切な使い方ができるように指導する。 - 材料の特性に応じた加工方法があることを知らせる。 - ジグや測定具などを用いて、仕上がり寸法を測定しながら加工させる。 - 合理的な接合手順を考えさせる。 - さしがねや直角定規を用いて検査を行わせる。 - 適切な修正を行わせる。 - 素地磨きが仕上がりに影響することを伝える。 - 製作品の使用目的や使用条件に応じて、表面処理を行わせる。	安全・適切な製作や検査・修正をすることができる技能を身に付けている。(知) ★他者と協働して、粘り強く取り組もうとしている。(態)
		⑤問題解決の評価、改善・修正	A(2) アイ	材料と加工の技術による問題解決を振り返り、解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する方法について考える。	- 問題解決の評価の観点を決め、その評価の観点に基づいて評価させる。 - 製作品の品質 - 製作の工程	製作の過程や問題解決の結果を評価し、改善及び修正する力を身に付けている。(思) ★自らの問題解決を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。(態)

時間	指導項目		指導要領	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点
15516	展1編3章 と材料と加工の技	①材料と加工の技術の最適化	A(3) アイ	- 自分の問題解決における最適化の場面を振り返り、社会の問題解決における最適化と比較する。 - 社会からの要求 - 安全性 - 環境への負荷 - 経済性	- 社会における材料と加工の技術は、さまざまな制約条件の基で折り合いをつけ、効果が最も目的に合ったものになるように工夫されていることに気付かせる。 - 技術が生活の向上や産業の継承と発展に貢献していることに気付かせる。	- 材料と加工の技術の概念について理解している。(知) - 材料と加工の技術の最適化について考えている。(思)
17517.5	えて技術分野の学習を終	学んだことを社会に生かす	A(3) B(3) C(3) D(4)	3学年間の技術の学習内容を振り返り、これから技術とどのように関わっていきたいかを考えてまとめる。 - 地球環境や将来の世代のための技術について考え、10年後、50年後の未来を予測する。	3学年間で学んだ材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術について振り返らせる。また、将来に向けて自分なりの技術の活用方法を考えさせ、10年後、50年後の未来像とともに発表させる。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、材料と加工、生物育成、エネルギー変換、情報の技術を工夫し創造しようとしている。(態)

令和 5 年度 中学部 3 年 (I課程) 家庭科 年間指導計画

単位数 ／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
18	東京書籍「新しい技術・家庭」家庭分野	

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等評価：(知・技)知識・技能
(思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについての基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けることができる。 (思判表力) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力を身に付けることができる。 (学・人) 加増や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付けることができる。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
2 学期	4	(知及技) 幼い頃を振り返り、周囲の人との関わり大切さについて理解することができる。 幼児の体・心の発達の特徴について理解することができる。	(知・技) 幼い頃を振り返り、周囲の人との関わり大切さについて理解している。 幼児の体・心の発達の特徴について理解している。	①幼い頃の振り返り ②幼児の体・心の発達	・自分の幼児期を振り返り、幼い頃の夢、エピソードなどをまとめる。 ・幼児の体・心の発達の特徴について考える。
		(知及技) 幼児の発達と生活の特徴について理解することができる。	(知・技) 幼児の発達と生活の特徴について理解している。	③幼児の 1 日の生活	・幼児の 1 日の生活を自分たちの生活と比較することで、幼児の特徴を理解する。
		(知及技) 幼児の発達と生活の特徴について理解することができる。 幼児の生活習慣の習得を支える家族の役割について理解することができる。	(知・技) 幼児の発達と生活の特徴について理解している。 幼児の生活習慣の習得を支える家族の役割について理解している。	④支えられて身に付ける生活習慣	・幼児の生活習慣がどのように身に付いていくのか考える。 ・生活習慣の習得を支える家族の役割を考える。
	2	(知及技) 幼児にとっての遊びの意義について理解することができる。 幼児との関わり方について理解することができる。 (思判表力)幼児の遊びの意義を踏まえ、幼児との関わり方を工夫することができる。	(知・技) 幼児にとっての遊びの意義について理解している。 幼児との関わり方について理解している。 (思・判・表)幼児の遊びの意義を踏まえ、幼児との関わり方を工夫している。 (主学)	⑤幼児の生活と遊び	・幼児の生活やいろいろな遊びを観察し、遊びで育つ力について考える。 ・遊び道具や遊び場所について調べ、遊び道具の役割や遊ぶ環境について考える。 ・遊び道具を作る。
	2	(思判表力)自分や家族、幼児の衣生活や消費生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 (学・人)自分や家族、幼児の衣生活や消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践することができる。	(思・判・表)自分や家族、幼児の衣生活や消費生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 (主学)自分や家族、幼児の衣生活や消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践することができる。	⑥生活の課題と実践	・学習してきたことを生かし、改善する点や課題はないか自分や家族、幼児の衣生活を見直す。 ・課題を解決したり、より豊かな生活にしたりするための工夫を考え、計画を立て実践する。 (例) 余り布で幼児の小物作り・立てた計画をグループで発表し合い、計画を見直す。 ・各自で実践したことをまとめ、発表し合う。
	6	(知及技) 幼児との関わり方について理解することができる。 (思判表力) 幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、計画することができる。 (学・人) 幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組む、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善することができる。	(知・技) 幼児との関わり方について理解している。 (思・判・表)幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、計画している。 (主学)幼児との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組む、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。	⑦幼児との関わり方の工夫	・幼児との触れ合いについて、自分の課題を設定する。 ・幼児に合った接し方や遊びを工夫し触れ合う方法を考える
		(思判表力) 幼児との関わり方での課題解決に向けた一連の活動について実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現することができる。 (学・人) 幼児との関わり方での課題解決に向けた一連の活動について、振り返って改善し、工夫し創造し、実践することができる。	(思・判・表) 幼児との関わり方での課題解決に向けた一連の活動について実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 (主学) 幼児との関わり方での課題解決に向けた一連の活動について、振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。	⑧幼児との関わりを生活に生かす	・幼児との触れ合い活動を通して、学んだことを発表する。

		(知及技) 子どもが育つ環境としての家族の役割について理解することができる。 (思判表力) 家族の立場から幼児との関わり方について考え、工夫することができる。 (学・人) 家族の立場からの幼児との関わり方について、工夫し創造し、実践することができる。	(知・技) 子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。 (思・判・表) 家族の立場から幼児との関わり方について考え、工夫している。 (主学) 家族の立場からの幼児との関わり方について、工夫し創造し、実践しようとしている。	⑨子どもにとっての家族	・子どもが育つ環境としての家族の役割を考える。
3 学期	4	(知及技) 家族の互いの立場や役割について理解している。家族と協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解することができる。 (思判表力) 家族関係をよりよくする方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 (学・人) 家族関係をよりよくする方法について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践することができる。	(知・技) 家族の互いの立場や役割について理解している。家族と協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解している。 (思・判・表) 家族関係をよりよくする方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (主学) 家族関係をよりよくする方法について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。	⑩家族との関わり	・家族との関わりや、これからの自分の家庭生活について考える。 ・家族関係をよりよくする方法を考える。
		(知及技) 高齢者など地域の人々と協働する必要があることについて理解している。介護など高齢者との関わり方について理解することができる。 (思判表力) 高齢者との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 (学・人) 高齢者との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践することができる。	(知・技) 高齢者など地域の人々と協働する必要があることについて理解している。介護など高齢者との関わり方について理解している。 (思・判・表) 高齢者との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (主学) 高齢者との関わり方について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。	⑪家族や地域の高齢者との関わり	・高齢者の体の特徴を理解する。 ・高齢者の体の特徴を踏まえ、関わり方を考える。
		(知及技) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。地域の人々と協働する必要があることについて理解することができる。 (思判表力) 地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 (学・人) 地域の人々と関わり、協働する方法について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践することができる。	(知・技) ・家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。地域の人々と協働する必要があることについて理解している。 (思・判・表) 地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (主学) 地域の人々と関わり、協働する方法について、課題の解決に主体的に取り組み、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善し、工夫し創造し、実践しようとしている。	⑫地域での協働を目指して	・家庭生活が地域との相互の関わりで成り立っていることに気付く。 ・地域のために自分ができることを考える。
		(学・人) 家庭分野で学習したことを今後の生活に生かすことができる。	(主学) 家庭分野で学習したことを今後の生活に生かそうとしている。	⑬学習を終えて	・3 学年間の学習を振り返り、多くのことができるようになったことに気付く。 ・できるようになったことから、これからの生活で生かしていきたいことを考える。
留意点引継ぎ等					

令和5年度中学部 3年生（ I課程グループ） 英語科 年間指導計画

単位数 ／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
4／140	Here We Go！3年生	

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等評価：(知・技)知識・技能
(思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。(中3段階) (思判表力) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。(中3段階) (学・人)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(中3段階)			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1学期	17	(知及技) 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解することができる。(1)英語の特徴等に関する事項ア (思判表力) 日本の学校との違いを知るために、学校紹介の記事からその国の学校生活の様子を読み取り、適切に理解することができる。 (2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項ア (学・人) 学校紹介の記事を読んで、積極的に自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりすることができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項イ	(知・技) 文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解し、本文の内容を理解している。 (思・判・表) ルワンダの学校紹介のブログを読んで内容を理解し、その国の学校生活の様子を理解している。 (主学) 記事を読んで、印象に残ったことや気づいたことを積極的にメモし、自分の意見を適切に発表したり、友達の意見を聞いたりしようとしている。	Unit 1 School Life Around the World Daily Life 1 ディスカッション	・受け身の文、let/help+人・もの+動詞の原形の意味と形と使い方を理解している。 ・日本の学校と違うと思うところを抜き出して発表したり、違いについて感想を話し合う。 ・メモを参考にして、グループ内で意見を伝え合う。 ・友達の意見を聞き、いちばん印象的だった学校を発表する。 ・話し合いから、それぞれの意見や最終的な結論を聞き取る。
	17	(知及技) 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解することができる。(1)英語の特徴等に関する事項ア (思判表力) 会話から、おすすめの場所やしたことなどを聞き取ることができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項ア (学・人) おすすめの場所について、教え合うことができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項イ	(知・技) 現在完了形の「完了」や「経験」の用法について正確に理解している。 (思・判・表) 旅行するのによい場所を知るために、会話からおすすめの場所やそこでしたことなどを聞き取り、適切に理解しようとしている。 (主学) 積極的におすすめの場所やそこでしたことなどを伝えるとともに、友達から詳しい情報が得られるように質問しようとしている。	Unit 2 Our School Trip Daily Life 2 留守番電話	・本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項である現在完了形の「完了」「経験」の意味・形・使い方を理解する。 ・登場人物の会話から、その人のおすすめの場所、そこでしたこと、食べたものなどを聞き取る。 ・友達におすすめの場所やそこでしたことを伝える。友達の「おすすめ」を聞くときは、質問をして詳しい情報を得る ・留守番電話の伝言から用件を聞き取り、用件に応じたやり取りを演じたり、自分たちで考えたやり取りをしたりする。
	18	(知及技) 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解することができる。(1)英語の特徴等に関する事項ア (思判表力) 文章から、人物の経験や心情などを読み取ることができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項ア (学・人) 読んだ文章について、感じたことなどを発表することができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項イ	(知・技) 現在完了形の「継続」、現在完了進行形、It is ~(for 人)+to+動詞の原形の構文について正確に理解している。 (思・判・表) 自分の考えや感想を友達に伝えるために、考えや感想を整理して、その理由といっしょに適切に発表しようとしている。 (主学) 友達の発表のよいところを積極的に見つけようとしている。	Unit 3 Lessons From Hiroshima World Tour1 Living With Animals	・現在完了形の「継続」の用法を使った会話を聞いたり、用法を使って話したり書いたりする。 ・<It is ~(for 人)+to+動詞の原形>を使った会話を聞いたり、それを使って話したり書いたりする。 ・ピースボランティアの西村さんの手記を読んで西村さんの経験や心情などを読み取り発表する。また、友達の発表を積極的に聴く。 ・説明を聞いて、絶滅危惧種の現状やその原因について知り、動物たちのためにできることを話し合う。

	18	(知及技) 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解することができる。(1)英語の特徴等に関する事項ア (思判表力) 投稿文から、それぞれの意見の要点を読み取ることができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項ア (学・人) 読んだ投稿文について、感想や自分の意見を書くことができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項イ	(知・技) 関係代名詞 which, who, that が主語となる構文について正確に解している。 (思・判・表) 投稿文のどれが登場人物の意見に近いかわかるために、投稿文からそれぞれの意見の要点を読み取り、適切に理解している。 (主学) 自分の意見を整理して、理由や例とともに文章を組み立てて書こうとしている。	Unit 4 AI Technology and Language Daily Life 3 ポスター	・関係代名詞 which, who, that が主語となる文を使った説明を聞いたり、それを使って話したり書いたりする。 ・自動翻訳機についての4つの投稿文を読み、登場人物の意見に近いものを選ぶ。 投稿文に対する感想や意見を書き、お互いに読み合う。 ・グループでお互いの文章を読み合い、意見を交換する。 ・ポスターを読んで、呼びかけていることを理解し、必要な情報を読み取る。
--	----	--	---	---	--

2 学期	18	(知及技) 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解することができる。(1)英語の特徴等に関する事項ア (思判表力) プレゼンテーションから、話の流れを読み取ることができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項ア (学・人) 読んだプレゼンテーションについて、感想や考えを伝え合うことができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項イ	(知・技) 関係代名詞 which, that が目的語となる文や後置修飾について理解している。 (思・判・表) お互いの考えを知り合うために、プレゼンテーションの記事を読んで感じたことや考えたことを適切な表現を使って伝え合おうとしている。 (主学) プレゼンテーションの記事を読んで、自分の感想や考えを積極的に友達に伝えようとしている。	Unit 5 Plastic Waste Daily Life 4 ニュース	・関係代名詞 which, that が目的語になる文を使った話を聞いたり、それを使って話したり書いたりする。 ・ペアになり、関係代名詞 which, that が目的語になる文を使って自分の持ち物を説明し、会話を続ける。 ・記事を読んで、印象に残った部分に線を引き、それぞれ線を引いた部分を読み上げ、その部分を選んだ理由を伝え合う。 ・会議についてのニュースを聞いて要点を捉え、会議の参加者の意見を説明する。
	18	(知及技) 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解することができる。(1)英語の特徴等に関する事項ア (思判表力) ストーリーに出てくる絵の説明から、場面や状況を聞き取ることができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項ア (学・人) 絵にふさわしいせりふを考えて、発表することができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項イ	(知・技) 動詞の-ing 形や過去分詞による後置修飾や間接疑問文について正確に理解している。 (思・判・表) 絵を利用した説明で、どの絵のことを説明しているかわかるために、絵の説明を聞いて適切に内容を理解している。 (主学) 絵の場面にふさわしいせりふを積極的に考えようとしている。	Unit 6 The Chorus Contest You Can Do It! 1 「過去」と「現在」の相違点を挙げよう	・動詞の-ing 形や過去分詞による後置修飾を使った会話を聞いたり、話したり書いたりする。 ・間接疑問文を使った会話を聞いたり、話したり書いたりする。 ・鳥獣人物戯画」の説明を聞いて、どの絵のことを説明しているかを考える。 ・絵の中から動物を選んでふさわしいせりふを考え、どの動物のせりふかを当てるクイズを出し合う。 町の歴史についての説明を聞いて、内容を理解し、過去と現在の町の写真を比べて相違点を発表する。
3 学期	17	(知及技) 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解することができる。(1)英語の特徴等に関する事項ア (思判表力) スピーチから、話し手がいちばん伝えたいことを聞き取ることができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項ア (学・人) 今の自分の様子を伝えたり、スピーチをすることができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項イ	(知・技) 疑問詞+to+動詞の原形や If...の仮定法の構文について正確に理解している。 (思・判・表) 「今の自分」を伝えるために、テーマと話す内容を整理して、適切な表現を使ってスピーチしようとしている。 (主学) スピーチの内容が友達に伝わるように、声の大きさや発音、イントネーション、アイコンタクトなどに配慮している。	Unit 7 Tina's Speech World Tour 2 How Do We Live?	・疑問詞+to+動詞の原形を使った会話を聞いたり、話したり書いたりする。 ・If...の仮定法を使った会話を聞いたり、話したり書いたりする。 ・3人の登場人物のスピーチを聞いて、それぞれが話題にしたことや話し手がいちばん伝えたいことを聞き取る。 ・グループになり、順番に「今の自分」を伝えるスピーチをする。 世界を100人の村にたとえた文章を読んで、世界の現状を知り、感想や意見を友達と話し合う。

	(知及技) 本文の内容を捉え、文脈の中で新出文法事項の意味・形・使い方を理解することができる。(1)英語の特徴等に関する事項ア (思判表力) 手紙から、書き手のいちばん伝えたいことを読み取ることができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項ア (学・人) 自分の気持ちを伝える、手紙を書くことができる。(2)情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項イ	(知・技) I wish...の仮定法の構文について正確に理解している。 (思・判・表) 大切な人に宛てて自分の気持ちを伝えるために、適切な表現を使って手紙を書いている。 (主学) 自分の気持ちを伝えるのにふさわしい表現を探そうとしている。	Unit 8 Goodbye, Tina You Can Do It! 2 学校に必要なものを考えて意見を伝えよう	・ I wish...の仮定法を使った会話を聞いたり、仮定法を使って話したり書いたりする。 ・ 3人の登場人物が大切な人に宛てた手紙を読んで、書き手のいちばん伝えたいことを読み取り、書き手の気持ちがよく伝わると思う部分に線を引く。 ・ 大切な人に宛てて自分の気持ちを伝える手紙を書き、読み合って感想を話し合う。 ・ 2人の生徒の提案を読んで賛否の立場を決め、その理由を整理する。
留意点引継ぎ等				

令和 5 年度 道徳年間指導計画案 第3学年

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
4 月 (3 時間)	1	風に立つライオン	D-(22)	よりよく生きる喜び	人間の気高さ	内なる弱さと向き合い、それを克服することで、生きること に喜びを見いだそうとする実践意欲を育てる。	○ケニアについてどんなイメージをもっているか。 ○「僕」はケニアへ旅立つとき、どんな気持ちだっただろう。また、恋人はどんな気持ちだっただろう。 ○「僕」の言う『『現在』を生きること に思い上がりたくない』とは、何を意味しているのだろう。 ◎「風に向かって立つライオンでありたい」とは、どんな生き方を言うのだろう。 ○この詩から私たちが学べることは、どんなことだろう。 ○「さだまさしさんからあなたへ」を読んで、何を感じたか。	□人間として生きること に喜びを見いだそうとする意欲が発言や記述に見られたか。 ◇問い返しや補助発問で話し合いを 活発にすることによって、考 え議論する道徳を実現することができたか。	音楽，総合的な学 習の時間，特別活動
	2	銀メダルから得たもの	A-(4)	希望と勇気，克己と強い意志	より高い目標をめざして	より高い目標を設定し，その実現のために努力や希望，勇気の必要性を理解するとともに，困難や失敗を乗り越えてやり遂げようとする実践意欲を高める。	○吉田選手は，どうして試合が終わったあともマットの上に伏せたまま でいるのだろう。 ○吉田選手は，小さなときから，どんな気持ちでレスリングに打ち込んできたのだろう。 ○道場へやって来る子どもとの出会いで，吉田選手はどのような気持ちに変化したのだろう。 ◎銀メダルから得られたものとは，なんだったのだろう。 ○より高い目標をめざすことについて，感じたり学んだりしたことを振り返ってみよう。	□目標に向かって諦めずに努力する大切さや，自分に打ち勝つ強い意志の重要性を捉えた発言や記述が見られたか。 ◇写真や発問などから，より高い目標をめざすうえでの大切なことを，生徒自身の経験をもとに深く考えさせることができたか。	保健体育
	3	出迎え三步，見送り七歩	B-(7)	礼儀	おもてなしの心	礼儀は形と心が溶け合ったものであることを理解し，相手に対する敬愛の念を示そうとする態度を育てる。	○「おもてなしの心」について考えてみよう。 ○お客様の出迎え方と見送り方について，グループで話し合おう。 ○上で話し合った出迎え方，見送り方をみんなの前で演技してみよう。 ○演技のあと，感想や意見を発表し合おう。 ◎「出迎え三步，見送り七歩」を読み，山折さんが『『もてなし』の極意』ではないかと感じたのはどんなことか考えてみよう。 ○「もてなす」とはどういうことか，考えたことをまとめてみよう。	□話し合いや体験中の態度や様子に，相手を敬愛しようとする思いが見られたか。 ◇それぞれのグループの話し合いの内容に「おもてなし」の工夫が見られるよう，問い返しの発問などを構成することができたか。	国語，総合的な学 習の時間，特別活動
5 月 (3 時間)	4	昔と今を結ぶ糸	C-(17)	我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度	日本の伝統文化	日本人としての自覚を深め，受け継がれてきた歴史や伝統文化の素晴らしさを理解し，発展させようとする心情を培う。	○孝は，どんな気持ちから「みんながいいって言ってんだから，いいんじゃない。」と言ったのだろう。 ○孝が，先生の話聞いて何かが変わったように感じたのはどうしてだろう。 ◎十二神将像を調べた孝が，えも言われぬ感動を覚えたのはなぜだろう。 ○日本の伝統文化を知ることは，どんなことにつながっていくのだろう。	□先人が育んだ伝統と文化の素晴らしさに気づき，自らも伝統と文化を受け継ぐ役割をになっているという意識が，発言や記述に見られたか。 ◇孝の気持ちに共感させながら，自分も伝統と文化を継承し新たな文化を創造していく大切さを考えさせることができたか。	社会，特別活動
	5	卒業文集最後の二行	C-(11)	公正，公平，社会正義	いじめを許さない心	いじめがいかに非情であるかを理解し，差別や偏見を人間としてぜったいに許さない態度を育てる。	○どんなときに楽しいと感じるか。 ○「私」は，T子さんに対してとった行動をいまだに悔いている。「私」のどんなことが問題だったのだろう。問題だと考える場面を挙げてみよう。 ○上で挙げた場面について，問題だと考えた理由をまとめよう。 ◎いじめという問題を乗り越えるためには，どんな考え方が大切だろう。なぜこのような問題が起きてしまうのかも含めて，グループで話し合おう。 ○「私」のこれまでの生き方を踏まえて，これからの自分の生き方について考えてみよう。	□いじめが差別的で人間として許されないものであり，加害者が相手の痛みに対し無頓着かつ傲慢なことに気づくような発言や記述があったか。 ◇筆者「私」の心情理解のみでなく，生徒が自分自身の問題として捉え，今後の人生に生かしていこうとする姿勢を育める授業構想であったか。	特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	6	違うんだよ, 健司	B-(8)	友情, 信頼	本当の友情とは	友情の尊さを理解するとともに, 友達をよき理解者として心から信頼し, 互いに励まし高め合い, 協力し合おうとする実践意欲を育てる。	○掃除のときに健司から「早くしようや。」と注意されて, 「僕」はどんな気持ちだっただろう。 ○ショッピングセンターで「そんなのが友達といえるか。」と言われて, 「僕」は何を考えたのだろう。 ○耕平から「いや, ちょっとな。」と言われたとき, 「僕」の心の中はどうだったのだろう。 ◎夏の大三角を見上げながら「僕」はどんなことを思ったのだろう。 ○本当の友情とは, どんな友情だろう。	□「僕」になりきったうえで, 共感し葛藤する場面をとおして, 本当の友情とは何かに気づいた発言や記述が見られたか。 ◇生徒の意見を取り上げて問い返すなど, 話し合いを深めることができたか。	特別活動
6 月 (4 時 間)	7	命のトランジットビザ	C-(18)	国際理解, 国際貢献	世界平和と人類愛	国際的視野に立ち, 人類愛について理解を深め, 世界平和と人類の幸福に貢献しようとする実践意欲を育てる。	○天井を見つめ, 深いため息をついた杉原は, どんな思いだっただろう。 ○許可が出なくても諦めず二度目の電報を送る杉原には, どんな思いがあっただろう。 ◎ビザの発給を決断する前日, 杉原はどんなことを考えていたのだろう。 ○世界のどこにいても, 人間として正しいことを行い, 世界平和に力を尽くすためには, 何が大切だろう。	□ユダヤ人を救おうと決心した杉原千畝をとおして, 世界平和や人類の幸福を大切に思う発言や記述が見られたか。 ◇外交官としての職責や家族の安全と, 人種を超えた生命の大切さとの間で苦悩する杉原千畝の心の動きをとおして, 多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	社 会 , 外 国 語, 総合的な 学習の時間
	8	エリカ—奇跡のいのち—	D-(19)	生命の尊さ	生きていることの奇跡	生きていることの奇跡と尊さを理解し, かけがえのない自他の生命を尊重しようとする心情を養う。	○いつ, どこで生まれ, どんな名前かもわからない状況をどう思うか。 ○母親は, どんな思いでエリカを汽車から外にほうり投げたのだろう。 ○女の人は, なぜきけんをおかしてまで, エリカをひきとったのだろう。 ◎エリカはどんな思いで「わたしのかけがえのないいのちは, いまもかがやいているのです。」と言っているのだろう。 ○命のつながりや, 命をつないでいくということについて考えてみよう。	□生きていることの尊さや生命のつながり, かけがえのない生命を軽々しく扱ってはならないといった発言や記述が見られたか。 ◇母親や育ててくれた女の人の思いと, 「わたしの星」にかける思いを考えさせることで, 生命の尊さについて深く考えさせることができたか。	社会
	9	私も高校生	A-(1)	自主, 自律, 自由と責任	自分で決めたこと	主体的に自分の生き方を考え, やろうと決めたことを誠実に実行し, その結果に責任をもとうとする態度を育てる。	○「私」は, 愚痴をこぼしてしまったとき, どんな気持ちになったのだろう。○「私」は, どんなことを思って, 通信制高校への進学を決意したのだろう。◎四年間学び続けることができたのは, 「私」にどんな思いがあったからだろう。○あなたにとって, 学ぶ意味や喜びとは何か, あらためて考えてみよう。	□よりよい人生に向け, 主体的に考え誠実に実行しようとする発言や記述が見られたか。◇「私」の誇りある生き方に共感させ, 自らの生き方について考えさせることができたか。	総 合 的 な 学 習の時間, 特 別活動
	10	あるレジ打ちの女性	C-(13)	勤労	勤労の尊さ	自分の考え次第で仕事の素晴らしさが見いだせることを理解し, 将来, 自分の能力や個性を生かした働き方をしようとする心情を深める。	○進路を考えるうえで, 就きたい仕事はあるか。 ○履歴書に入社と退社の経歴がズラッと並ぶような人がいたら, あなたならどんなアドバイスをするだろう。 ○昔の日記を見て, 主人公の女性が気づいたことはなんだろう。 ○これまでレジのボタンだけを見ていた主人公の女性は, 何に目がいくようになったのだろう。 ◎レジの主任になった彼女は, 新人研修で「仕事の素晴らしさ」をどのように伝えていったのだろう。 ○人は何のために仕事をするのか, また仕事とはどんなものなのか, 考えてみよう。	□働くことによって, 充実した生き方が得られることに気づき, その素晴らしさについてさらに考えようとする発言や記述があったか。 ◇主人公の女性の仕事に対する価値観まで言及できるように, 問い返しや補助発問などを工夫できたか。	社会, 総合的 な 学 習 の 時 間, 特別活動

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
7月 (2時間)	11	No Charity, but a Chance!	C-(12)	社会参画, 公共の精神	ともに生きる社会の実現	自分たちが生活する社会に自ら進んで参画し, よりよい共生社会を実現していこうとする実践意欲を育てる。	○中村医師は, イギリスの病院で何に気づいたのだろう。 ○中村医師は, 外国人選手の姿からどのようなことを学んだのだろう。 ○働く場所を作ろうと決意した中村医師の思いを考えよう。 ◎中村医師は, どんな気持ちから「彼らの生きがいを失わせてはいけない。」と考えたのだろう。 ○ともに生きる社会の実現のために, どんな生き方が求められるのだろう。	□よりよい社会を実現するために自分はどのような貢献ができるのか考えている発言や記述があったか。 ◇中心発問で, ともに生きる社会に自ら進んで参画しようとする中村医師の思いを考えさせることができたか。	社会, 保健体育, 総合的な学習の時間, 特別活動
	12	新しい夏のはじまり	A-(3)	向上心, 個性の伸長	前向きな生き方	自己を見つめ, これまでの自分を冷静かつ客観的に振り返るとともに, 経験を生かして自分らしく新しい生き方をしようとする態度を育てる。	○体育館にひとりで立ちつくしていたとき, 亜樹はどんな気持ちでいただろう。 ○亜樹は, どういうつもりで「これから, 無駄じゃなかったって, 思えるようにするの!」と言ったのだろう。 ◎亜樹が体育館のとびらを勢よくしめたのは, どんな思いがあったからだろう。 ○教材から考えたことや友達の意見を聞いて, 友達や後輩に伝えたい今の気持ちを考えてみよう。 ○無駄じゃなかったと思えるようにするには, どのように毎日を送ればよいか考えてみよう。	□自分自身を見つめ, それまでの経験を生かして新しい生き方をしようという発言や記述が見られたか。 ◇やってきたことが無意味だったのではないかと捉えていた亜樹が, それに意味を見い込そうと心情を変化させたことに気づかせることができたか。	保健体育, 特別活動
9月 (4時間)	13	「稲むらの火」余話	C-(16)	郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度	かけがえのない郷土	郷土のために尽くした先人の生き方を理解し, 自らも地域社会の一員であるという帰属意識をもって郷土に貢献しようとする態度を育てる。	○(たいまつを持った濱口儀兵衛の銅像の写真を見せて)この銅像の人物は何をしていると思うか。 ○津波がやって来ると確信したとき, あなたならどうするか。 ○安政南海地震のあと, 儀兵衛はどんな思いをもって行動したのだろう。 ◎広村堤防への土盛りが現在も続けられているのは, 地域の人たちがどんな思いを抱いているからだろう。 ○私たちは, 自分たちの地域のためにどんなことができるだろうか。	□郷土に対する自分自身の思いを認識し, 郷土に貢献していきたいという発言や記述が見られたか。 ◇儀兵衛への称賛だけでなく, 生徒自身に置き換えて考察させることができたか。	社会, 数学, 総合的な学習の時間, 特別活動
	14	言葉の向こうに	B-(9)	相互理解, 寛容	相手の気持ちを考える	それぞれの立場を尊重し, いろいろなものの見方や考え方があることを理解して, 寛容の心をもとうとする態度を育てる。	○多数決のとき, 自分が少数派だと考えや思いを出さないという人がいるが, それをどう思うか。 ○必死で反論する「私」はどのように思っていただろう。 ○「中傷する人たちと同じレベルで争わないで。」という書き込みを見て, 「私」はどう思っただろう。 ◎「私」は「いちばん大事なことを忘れていた。」と言っているが, どんなことを忘れていたのだろう。 ○相手の気持ちを考えた行動とは, どんなものだろう。	□自分の発する言葉の向こうにそれを受け取る他者がいることや, 異なった考えを受け入れることの大切さを理解した発言や記述があったか。 ◇「自分に+1」での話し合い活動によって多面的・多角的に考えさせることができたか。	国語, 技術・家庭, 特別活動
	15	命の大切さ	C-(11)	公正, 公平, 社会正義	豊かな人権感覚	不公正な言動をせず, お互いの生命を尊重し, 差別や偏見のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。	○好奇の視線で見られた経験はないか。 ○入院したばかりの「僕」はどんな思いでいたのだろう。K君との出逢いを「僕」はどう思っていたのだろう。 ○病棟から一歩外に出た「僕」は, 外来の大勢の人からどんな目で見られ, どう感じたのだろう。 ○中学校の同級生から「なあんだ髪があるじゃん」と言われたとき, 「僕」はどんな思いだっただろう。 ◎「僕」はどんな思いから「彼にありがとうと言いたい。」と考えたのだろう。 ○差別や偏見のない社会の実現のために, 私たちはどうすればよいだろう。	□差別や偏見のない社会の実現に努めようとする発言や記述が見られたか。 ◇問い返しや補助発問で話し合いを活発にすることによって, 考え議論する道徳を実現することができたか。	社会

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	16	ゴリラのまねをした彼女を好きになった	B-(8)	友情, 信頼	人を好きになる	異性への理解を深め, 相手の内面的なよさに目を向けて, 互いを向上させようとする実践意欲を育む。	○中学校を卒業して 20 歳になる頃, みんなは何をしているだろう。 ○川崎くんに同意してしまったとき, 「僕」はどんな気持ちだっただろう。 ○「小林さんは恥ずかしがらなくていいよ! あのと看、輝いていたと、俺は思うよ。」と言ったとき, 「僕」はどんな気持ちだっただろう。 ◎「僕」は, 小林さんのどんなところが輝いていると感じたのだろう。 ○人を好きになるということは, どういうことだろう。	□異性を尊重し, 互いに高め合う関係を築くことの大切さに触れる発言や記述があったか。 ◇問い返しの発問などから, 具体的かつ深く考えさせることができたか。	保健体育, 総合的な学習の時間
10月 (4時間)	17	二通の手紙	C-(10)	遵法精神, 公徳心	法やきまりの意義	法やきまりは人々の幸福を守るためにあることを理解し, それらを主体的に守るとともに, よりよい在り方について考えようとする態度を育てる。	○私たちはふだん, どんな法やきまりの中で生活しているだろう。 ○姉弟を入園させた元さんの, 何が問題だったのだろう。 ◎元さんが, 二通の手紙を並べて見比べながら, 初めて考えさせられたこととはなんだろう。 ○上で考えたことをグループで話し合おう。また, この動物園のきまりは何のためにつくられたのかもあわせて考えてみよう。 ○法やきまりについて, どのように考えればよいかまとめてみよう。	□法やきまりの意義について理解しようとし, そのよりよい在り方について深く考えているような発言や記述があったか。 ◇話し合いをとおして, 規則は何のためにあるのかを深く考えさせることができたか。	社会, 特別活動
	18	独りを慎む	A-(2)	節度, 節制	自制する心	望ましい生活習慣を身につけ, 充実した人生を送るために, 節度を守り節制に心がけ, 調和のある生活を自ら実践しようとする態度を養う。	○だめだとわかっていても, ついついしてしまう悪い癖はないだろうか。 ○独り暮らしをすることになった「私」は, どんな気持ちだっただろう。 ○独り暮らしで得た自由について, 「私」の考えはどのように変わっていっただろう。 ○「私」は, どのような精神のことを「問題だ」と言っているのだろう。 ◎「私」は「独りを慎む」ために, どんなことを大切にしようと考えているのだろう。 ○なぜ, 「独りを慎む」心をもっていることが大切なのだろう。	□人生をより豊かにするためには望ましい生活習慣を身につけることが大切であり, それを実践していこうという発言や記述が見られたか。 ◇教材をとおして「自制」の意義を理解させ, 問い返しの発問で道徳的価値を多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	国語, 技術・家庭, 総合的な学習の時間
	19	電車の中で	B-(6)	思いやり, 感謝	本当の思いやり	心の通い合いのよさに気づき, 他者の立場を尊重しながら思いやりの心をもって人に接しようとする態度を養う。	○「本当の思いやり」と聞いて, どんなことを思い浮かべるか。 ○タケシは, 男性の笑顔と女子二人の満足したような顔を見ながら何を思ったのだろう。 ○ケンたちに言われてしぶしぶ席を立ったとき, タケシはどんな気持ちだったのだろう。 ◎恥ずかしさが込み上げてきたとき, タケシは何を思ったのだろう。 ○本当の思いやりとはなんだろう。	□お互いが他者の立場を尊重することで心の通い合いが生まれることに気づき, 思いやりの心をもって人に接していきたいといった発言や記述が見られたか。 ◇二つの場面での登場人物の行為と心情を比較させることで, 思いやりの心をもって人に接する大切さについて深く考えさせることができたか。	社会, 技術・家庭, 総合的な学習の時間, 特別活動
	20	自分・相手・周りの人	C-(12)	社会参画, 公共の精神	公共の場での心構え	公共の場での心構えを理解し, 一人ひとりが協力して, 誰もが安心して生活できる社会をつくっていかうとする実践意欲を育てる。	○マタニティマークについてどんなことを知っているか。また, 「自分・相手・周りの人」と聞いてどんなことを思い浮かべるか。 ○なぜマタニティマークが必要なのか考えてみよう。 ○マタニティマークを「知っているが, つけたことがない」人は, なぜつけないのだろう。 ◎マタニティマークが受け入れられる社会をめざすには, どんな考え方が大切だろう。上で考えたことをもとにグループで話し合おう。 ○よりよい社会を築くためには, どんなことを考えていけばよいだろう。	□公共の場での心構えを理解し, よりよい社会の実現のために自ら積極的に参画しようとする発言や記述が見られたか。 ◇教材提示によって, 社会の課題に気づき, 安心して生活できる社会にするために自分に何ができるかを考えさせることができたか。	数学, 美術, 技術・家庭

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
11月 (4時間)	21	失った笑顔を取り戻す	C-(13)	勤労	仕事の意義	働くことによって社会や他者の生き方を支えるという仕事の意義を理解し、社会に貢献する生き方をしようとする実践意欲を高める。	○職場体験学習で喜ばれた体験を思い出してみよう。 ○臼井さんが義肢装具士の仕事に就いたのはどうしてだろう。 ○臼井さんが、新たにスポーツ用の義足を作り始めたのはどうしてだろう。 ◎臼井さんは、なぜスポーツ用の義足を作り続けたのだろう。 ○あなたにとって、仕事とはどんなものだろうか。 ○今日の感想とともに、自分の将来と進路選択について考えよう。	□臼井さんの心情と自己のさまざまな体験を対比させ、社会貢献の視点で仕事の意義について考えているような発言や記述が見られたか。 ◇さまざまな体験活動と関連づけながら、将来に目を向けさせ、仕事が社会貢献につながることを自覚させるような発問ができたか。	社会、保健体育、技術・家庭、総合的な学習の時間、特別活動
	22	「川端」のある暮らし	D-(20)	自然愛護	自然とともに生きる	人間は自然の中で生かされていることを自覚し、自然環境を大切にするとともに、自分のできる範囲で自然愛護に努めようとする態度を育てる。	○「川端」の写真や動画から、特徴を挙げてみよう。 ○針江地区の人々は、「川端」や水路といった水文化とどのようにつき合ってきたのだろう。 ○「針江生水の郷委員会」を発足しようとした針江地区の人々は、どのようなことを考えたのだろう。 ◎「水も宝なら、ここで暮らす人たちも宝である。」という委員会会長の言葉には、どんな意味が込められているのだろう。 ○人間が、自然と共生していくためには、どんな心構えが必要だろう。	□「川端」が人々の暮らしにどのように根づき、生活に溶け込んでいるのかについて理解を深め、人間と自然との共生の在り方を理解し、自然愛護に努めようとする発言や記述が見られたか。 ◇「自分に+1」の部分で、話し合い活動などにより、多面的・多角的に考えさせることができたか。	社会、理科、総合的な学習の時間
	23	風景開眼	D-(21)	感動、畏敬の念	自然への畏敬	自然の神秘に感動し、人間の力を超えたものへの畏敬の念を深めようとする心情を育てる。	○東山魁夷の作品からどのような印象を受けるだろう。 ○魁夷は美ノ森の自然をどのように見つめ、感じとっていたのだろう。 ○魁夷が、熊本城からの眺めに涙が落ちそうになるほど感動したのはなぜだろう。 ◎「私は、生きているというよりも生かされている」という言葉には、どんな思いが込められているのだろう。 ○人の力を超えた自然の力について、日頃から考えていることをまとめてみよう。	□魁夷が見た「輝く生命の姿」をとおして、自然の神秘に感動し、人間の力を超えたものへの畏敬の念について深く考えようとしている様子があったか。 ◇発問により、魁夷の感動に共感しながら自然に対する畏敬の念を抱き、謙虚な気持ちで生きていこうとする発言や記述を引き出すことができたか。	社会、美術
	24	臓器ドナー	D-(19)	生命の尊さ	自他の生命の尊さ	臓器提供という現代的な課題をとおして、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重しようとする判断力を育てる。	○臓器移植や臓器提供意思表示カードについて知っていることを挙げてみよう。 ○臓器移植を巡っては、どんな迷いや問題があるだろう。○高井さんが「娘をドナーに私は出来ない」というのはどんな思いからだろう。 ○新見さんが自分の臓器提供には肯定的なのに、妻の臓器提供には否定的なのはなぜだろう。 ◎臓器移植について、家族や周囲の人たちが迷うのはどうしてだろう。自分が臓器を提供するとした場合も含め、その理由を考え、話し合おう。 ○自他の生命の尊さについて、考えたことをまとめてみよう。	□臓器提供について自分の考えをもち、仲間の考えを受け入れて、より生命に対する畏敬の念を深め、尊重するような発言や記述が見られたか。 ◇一人ひとりの考えを引き出し、共有し、さらに自分に立ち返らせることで、生命のかけがえのなさを感じさせる授業展開になっていたか。	社会、理科、保健体育、特別活動
12月 (2時間)	25	iPS細胞で難病を治したい	A-(5)	真理の探究、創造	夢の実現	よりよく生きるために、真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうとする実践意欲を育てる。	○iPS細胞について、知っていることを出し合おう。 ○二度の大きな挫折を経験し、山中さんはどんな気持ちだっただろう。 ○iPS細胞の作製に成功したのは、山中さんにどんな目標があったからだろう。 ◎夢の実現に向けて走り続けている山中さんの原動力になっているものはなんだろう。 ○新しいことを生み出すとき、どんなことを大切にすればよいだろう。	□よりよく生きたいという願いや、新しいものを創造していくことへの意欲を示す発言や記述が見られたか。 ◇幾度も挫折を乗り越えながら研究を進めている山中さんの原動力となるものを話し合い、自分自身のこととして考えさせることができたか。	理科、総合的な学習の時間

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	26	父は能楽師	C-(17)	我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	日本の文化を受け継ぐ	先人の残した有形無形の文化遺産の中に優れたものを見だし、それを生み出してきた精神に学んで、継承し発展させようとする実践意欲を養う。	○竜夫は、父のあとを継いで能楽師になることをなぜ決めかねているのだろう。 ○父の姿が何か違って見えたのはどうしてだろう。 ○友達がしたような質問を、竜夫が父にできなかったのはどうしてだろう。 ◎父が厳しい指導で能楽を学ばせようとしている理由を、竜夫が真剣に考えてみようと思ったのはどうしてだろう。 ○文化や芸能を受け継ぐために、どんなことを大切にすればよいのだろう。	□竜夫の内面的成長から学んだことをもとに、能楽などの伝統文化を受け継ぎ発展させることの意味や意義について考えている発言や記述があったか。 ◇竜夫の内面的変化を追い、伝統文化を継承、発展させる重要性を理解させるための的確な発問ができたか。	国語, 社会, 音楽, 総合的な学習の時間, 特別活動
1月 (3時間)	27	本とペンで世界を変えよう	C-(18)	国際理解, 国際貢献	世界平和を考える	国際的視野に立って、自分にできることで世界平和と人類の幸福に貢献しようとする実践意欲を育てる。	○マララ・ユスフザイについて知っていることはあるか。 ○武装勢力がスワートを支配し、学校へ通えなくなったとき、マララはどんな気持ちだっただろう。 ○「一人の子ども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペンが、世界を変えられる」という言葉には、マララのどんな思いが込められているのだろう。 ◎マララをここまで突き動かすものは、なんだろう。 ○世界平和の第一歩には、どんなことがあるだろう。	□マララの姿をとおして、世界平和を自分のこととして考える発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから、多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	社会, 外国語, 総合的な学習の時間
	28	塩むすび	B-(6)	思いやり, 感謝	周りへの感謝	家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や自分があることに感謝し、進んで周囲の思いに応えようとする態度を育てる。	○母に食事係の担当を促されたときの「私」の気持ちを考えてみよう。 ○「私」が塩むすびのアイディアに素直に賛成できなかったのは、どうしてだろう。 ◎「食事係で新しい世界を知った」という「私」は、どんなことを考えたのだろう。 ○私たちを支えてくれている人の思いやつながりに、どのように応えていけばよいのだろう。	□「私」が周囲に喜んでもらえたことや、おばさんたちの気配りについて深く考えようとしている発言や記述があったか。 ◇身近な人への感謝の気持ちが表れた発言や感想を引き出すことができたか。	技術・家庭, 総合的な学習の時間
	29	町内会デビュー	A-(1)	自主, 自律, 自由と責任	自律的な生き方	自主的に考え、自らを律し、自分の決めたことを実行していこうとする判断力を養う。	○最近、「自分で決めて行動した」と自信をもって言えることがあるか。 ○母から町内会の共同作業に参加することを頼まれ、黙って台所を出た明は、どんなことを思っただろう。 ○ザクツ、ザクツと草を刈る明は、どんな気持ちだろう。 ◎明は、どうして自分から草や枝を集めて運び始めたのだろう。 ○背筋を伸ばして大股で学校に向かった明は、どんなことを思っていただろう。 ○自ら考え、行動することの素晴らしさについて考えてみよう。	□自分の意志で行動することの大切さを捉えた発言や記述があったか。 ◇明の動機の変化を考えさせることをとおして、自主、自律の大切さを感じさせることができたか。	特別活動
2月 (4時間)	30	一冊のノート	C-(14)	家族愛, 家庭生活の充実	家族の在り方	祖母の苦悩や不安、家族への思いに気づく主人公の姿をとおして、家族への敬愛を深め、家族の一員としての役割を果たそうとする態度を養う。	○高齢者である祖母の気持ちが表現されている部分に線を引きながら、教材を読もう。 ○「誰だって年を取ればしわもできれば白髪頭にもなってしまうものよ。」と言った祖母の気持ちは、どんなものだっただろう。 ○祖母が書いた一冊のノートには、祖母のどんな思いが込められているのだろう。 ◎祖母と並んで草取りをする「僕」は、どんなことを考えていたのだろう。 ○「僕」と祖母が並んで草取りをする場面を、みんなの前で演技してみよう。演技のあとに、「僕」と祖母それぞれの思いを考えてみよう。 ○家族みんなの幸せについて、深く考えてみよう。	□「僕」に共感しながら、祖母の苦悩や不安、自分の家族に思いをはせる発言や記述が見られたか。 ◇問い返しや補助発問から、自分の立場で考えさせることができたか。	技術・家庭, 総合的な学習の時間

月	教材名		内容項目		主題名	ねらい	主な発問(◎は中心発問)	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
	31	サトシの一票	C-(12)	社会参画, 公共の精神	よりよい社会の実現	社会の一員としての権利を積極的に理解し, 主体的に社会に参画することで, よりよい社会の実現に寄与しようとする態度を養う。	○選挙に対して, どんなイメージをもっているか。 ○「選挙は俺たちの未来を左右する, 大切な機会」と兄に言われて, サトシは何を思っただろう。 ○「この街のこれからのことを考えなきゃいけない」と言う兄の姿から, サトシは何を考えただろう。 ◎サトシは「将来の一票」をどのように捉え, どうしようと考えているのだろう。 ○あなたが住む街の未来のために, できることを考えてみよう。	□「将来の一票」がよりよい社会の実現につながることに気づいた様子が, 発言や記述に見られたか。 ◇話し合い活動をとおして, 教師の説話などを用いながら考えを深めさせることができたか。	社会
	32	ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン	C-(10)	遵法精神, 公德心	規律ある社会	社会の成員としての正しい行いを実現する公德心の大切さを理解し, 規律ある社会の実現に努めようとする実践意欲を育成する。	○この人はモースというアメリカ人だが, 何をした人か知っているか。 ○「あたりまえの心遣い」とはどのようなことだろう。 ○現金と懐中時計を部屋に置いていくように言われたとき, モースはどう思っただろう。 ◎モースを魅了した明治期の日本のよさを支えていたものはなんだろう。 ○規律ある社会を実現するためには, 何が大切だろう。	□規律ある社会のために法やきまりを守ることの大切さについて発言や記述があったか。 ◇問い返しの発問をとおして, 多面的・多角的な見方や考え方を引き出すことができたか。	社会, 外国語, 総合的な学習の時間, 特別活動
	33	世界を動かした美	D-(22)	よりよく生きる喜び	よりよく生きる	さまざまな環境の中で人間としてよりよく生きようとする大切さを学び, 自分の生き方について考えを深めようとする心情を育む。	○俳優として世界のスターになり, オードリーはどんな思いだっただろう。 ○紛争地帯の子どもたちを見て, オードリーは何を感じただろう。 ◎ユニセフ親善大使となったオードリーは, どんな思いで紛争地帯を訪問し, 活動が続けたのだろう。 ○あなたの心を強く突き動かした, 人の生き方について考えてみよう。	□話し合い活動への積極的な参加や発言, 記述をとおして, 授業の初めよりも「自分の人生をよりよく生きること」への関心が高まっている様子が見られたか。 ◇授業での発言に対して, その場できちんと評価したり教師として感想を述べたりすることができたか。	社会, 外国語, 特別活動
3月 (2時間)	34	お別れ会	C-(15)	よりよい学校生活, 集団生活の充実	我が校を愛する心	自校に対する愛着を深め, 協力して校風を継承し, 発展させようとする態度を育てる。	○みんなが大切にしている我が校の「伝統」「校風」といえば, どんなものが挙げられるだろう。 ○南中を卒業する「僕」は, どんな中学生だったのだろう。 ○孝好と目が合ったような気がして, 「僕」がどきっとしたのはなぜだろう。 ◎「僕」が高校でも剣道を続け, 後輩たちのコーチに来ているのは, どんな思いからだろう。 ○学校の一員として, よりよい学校をつくるためにはどうすればよいか, 考えてみよう。	□自校の校風を見だし, 愛着をもつとともに, それを継承し, 発展させていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇「僕」の心情を追うことをとおして, 自校の伝統や校風を想起させ, その中での自己の生き方を考えさせることができたか。	保健体育, 特別活動
	35	希望	D-(19)	生命の尊さ	かけがえのない生命	生命の重さと絶対的な有限性を理解し, 自他の生命を尊重して懸命に生きようとする実践意欲を高める。	○東日本大震災の写真や動画を見て, どんな感想をもったか。 ○暗闇の中, 「私」はどんな気持ちでラジオを聞いたのだろう。 ○祈りのために目を閉じたとき, 「私」はどんなことを考えていたのだろう。 ○祖母の言葉を聞いて, 「私」の心はどうしてざわざわしたのだろう。 ◎復興へ向けて働く人々を見て, 「私」はどんな心のざわめきによって, 自分を変えようとしたのだろう。 ○今回のできごとから, 「私」はこれからどのように生きていこうと決心したのだろう。 ○尊い生命を大切に生きていくには, 何が必要だろう。	□生命の有限性などを理解し, 生命を大切にするために, 自分にできることは何かを考えている発言や記述が見られたか。 ◇「私」の気持ちの変容を踏まえたうえで, 生命の有限性などを発問構成によって深く考えさせることができたか。	国語, 社会, 理科, 総合的な学習の時間, 特別活動

令和 5 年度中学部3年（I 課程） 総合的な学習の時間 年間指導計画

単位数 ／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
35	なし	

目標：（知及技）知識及び技能 （思判表力）思考力、判断力、表現力等 （学・人）学びに向かう力・人間性等

評価：（知・技）知識・技能 （思・判・表）思考・判断・表現 （主学）主体的に学習に取り組む態度

年間目標		（知及技）学校・家庭・地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。 （思判表力）学校・家庭・地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 （学・人）学校・家庭・地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、行動の仕方を考えようとする態度を養う。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	3	（知及技）自分の好きなことを見いだしたり関心を広げたりすることができる。 （思判表力）自分の関心のあることや楽しさを感じることにについて、自分なりの表現で伝えることができる。 （学・人）好きなことなどを見つけようとすることができる。	（知・技）自分の好きなことを見いだしたり関心を広げたりしようとしている。 （思・判・表）自分の関心のあることや楽しさを感じることにについて、自分なりの表現で伝えようとしている。 （主学）好きなことなどを見つけようとしている。	生徒の興味・関心に基づく課題 「キャリアパスポートの取組」	・オリエンテーション ・総合的な学習の時間の内容や目標の確認 ・自分の得意なこと、好きなこと、年間目標、1 学期の振り返り
	5	（知及技）交流学習を通じて多様な価値観や考え方に触れ、理解することができる。 （思判表力）異年齢集団との関わり方を考え、自己の考えを表現することができる。 （学・人）積極的に他者と関わり合おうとすることができる。	（知・技）交流学習を通じて多様な価値観や考え方に触れ、理解しようとしている。 （思・判・表）異年齢集団との関わり方を考え、自己の考えを表現しようとしている。 （学・人）積極的に他者と関わり合おうとしている。	多様な価値観や異年齢集団の関わり方 「交流学習」	・事前事後学習 ・学校紹介 PP 作成 ・司会進行 ・振り返り ・お礼の手紙
	4	（知及技）郷土の歴史を知り、平和な社会の大切さについて知ることができる。 （思判表力）平和な社会の形成者として、身近な生活の中で自分ができることを考え、他者に伝えることができる。 （学・人）教師の話や読み聞かせなどに関心を向け、平和について自分なりの考えを持つことができる。	（知・技）郷土の歴史を知り、平和な社会の大切さについて知ろうとしている。 （思・判・表）平和な社会の形成者として、身近な生活の中で自分ができることを考え、他者に伝えようとしている。 （主学）教師の話や読み聞かせなどに関心を向け、平和について自分なりの考えを持つようとしている。	現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 「平和学習」	・読み聞かせ ・パネル展示見学 ・歌 ・平和学習 ・平和について考えよう ・情報収集（校外学習）
2 学期	3	（知及技）実現可能な目標を立てることの目的を知ることができる。 （思判表力）見通しを持って目標達成に向けて取り組むことができる。 （学・人）自分や友達の頑張った様子を、お互いに振り返ることができる。	（知・技）実現可能な目標を立てることの目的を知ろうとしている。 （思・判・表）見通しを持って目標達成に向けて取り組もうとしている。 （主学）自分や友達の頑張った様子を、お互いに振り返ろうとしている。	生徒の興味・関心に基づく課題 「キャリアパスポートの取組」	・1 学期の振り返り（課題と自己評価） ・2 学期頑張りたいこと、2 学期の振り返り
	6	（知及技）卒業後の社会生活に必要な知識・技能を身に付けることができる。 （思判表力）卒業後の社会生活に具体的なイメージを持ち、学んだことを表現したりすることができる。 （学・人）就業・生活体験に意欲をもって取り組むことができる。	（知・技）卒業後の社会生活に必要な知識・技能を身に付けようとしている。 （思・判・表）卒業後の社会生活に具体的なイメージを持とうとしたり、学んだことを表現したりしようとしている。 （主学）就業・生活体験に意欲をもって取り組もうとしている。	職業や自己の将来に関する課題 「就業生活体験事前学習」 「就業生活体験」 「就業生活体験事後学習」	・就業生活体験の実施
	6	（知及技）過去、現在、未来の科学技術の進歩や社会生活の変化を理解し知識や技術を知ることができる。 （思判表力）科学技術の変化について ICT 機器等を活用し調べて他者に伝えることができる。 （学・人）他者が行う発表に、興味を持って聴き、質問することができる。	（知及技）過去、現在、未来の科学技術の進歩や社会生活の変化を理解し知識や技術を知ろうとしている。 （思判表力）科学技術の変化について ICT 機器等を活用し調べて他者に伝えようとしている。 （学・人）他者が行う発表に、興味を持って聴き、質問しようとしている。	科学技術の進歩と社会生活の変化 「身近な変化や今後の科学技術の進歩」	・科学技術の進歩を調べる。 ・生活様式の変化を調べる。 ・今後の予想を自分なりに考える。 ・調べたことを PP にまとめ、発表を行う。 ・振り返り、質問 ・情報収集（校外学習）
3 学期	2	（知及技）1 年間を通して、自分が立てた目標を達成できたか、振り返ることができる。 （思判表力）頑張ってきたことを自分の言葉で発表することができる。 （学・人）自分や友達の頑張った様子を、お互いに振り返ることができる。	（知・技）1 年間を通して、自分が立てた目標を達成できたか、振り返ろうとしている。 （思・判・表）頑張ってきたことを自分の言葉で発表しようとしている。 （主学）自分や友達の頑張った様子を、お互いに振り返ろうとしている。	生徒の興味・関心に基づく課題 「キャリアパスポートの取組」	・1 年間で振り返り評価する、次年度の目標を設定する

	6	(知及技) 年間を通して、学んだ内容を整理し内容を振り返ることができる。 (思判表力) 学んだ内容を PP で作成し、自分の考えを他者に伝えることができる。 (学・人) 自分や友達の発表を聞き、質問したりして振り返ることができる。	(知及技) 年間を通して、学んだ内容を整理し内容を振り返ろうとしている。 (思判表力) 学んだ内容を PP で作成し、自分の考えを他者に伝えようとしている。 (学・人) 自分や友達の発表を聞き、質問したりして振り返ろうとしている。	自己の在り方・生き方や進路に関わる課題 「年間で学んだ内容を整理し発表しよう」	・発表準備 ・PP 作成 ・発表会 ・振り返り ・まとめ ・情報収集（校外学習）
留意点引継ぎ等					

令和 5 年度中学部 1 年（Ⅰ課程） 総合的な学習の時間 年間指導計画

単位数／配当時数	教科書／副教材等	担当者名
35	なし	松尾祝

目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等評価：(知・技)知識・技能
(思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度

年間目標		(知及技) 学校・家庭・地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。 (思判表力) 学校・家庭・地域の人、もの、ことの中から問いを見だし、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 (学・人) 学校・家庭・地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、行動の仕方を考えようとする態度を養う。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	3	(知及技) 自分の好きなことを見いだしたり関心を広げたりすることができる。 (思判表力) 自分の関心のあることや楽しさを感じることにについて、自分なりの表現で伝えることができる。 (学・人)好きなことなどを見つけようとする ことができる。	(知・技) 自分の好きなことを見いだしたり関心を広げたりしようとしている。 (思・判・表)自分の関心のあることや楽しさを感じることにについて、自分なりの表現で伝えようとしている。 (主学)好きなことなどを見つけようとして いる。	生徒の興味・関心に基づく課題 「キャリアパスポートの取組」	・オリエンテーション ・総合的な学習の時間の内容や目標の確認 ・自分の得意なこと、好きなこと、年間目標、1 学期の振り返り
	5	(知及技) 交流学習を通じて多様な価値観や考え方に触れ、理解することができる。 (思判表力)異年齢集団との関わり方を考え、自己の考えを表現することができる。 (学・人)積極的に他者と関わり合おうとすることができる。	(知・技) 交流学習を通じて多様な価値観や考え方に触れ、理解しようとしている。 (思・判・表)異年齢集団との関わり方を考え、自己の考えを表現しようとしている。 (学・人)積極的に他者と関わり合おうとしている。	多様な価値観や異年齢集団の関わり方 「交流学習」	・事前事後学習 ・学校紹介 PP 作成 ・司会進行 ・振り返り ・お礼の手紙
	4	(知及技) 郷土の歴史を知り、平和な社会の大切さについて知ることができる。 (思判表力) 平和な社会の形成者として、身近な生活の中で自分ができることを考え、他者に伝えることができる。 (学・人)教師の話や読み聞かせなどに関心を向け、平和について自分なりの考えを持つことができる。	(知・技) 郷土の歴史を知り、平和な社会の大切さについて知ろうとしている。 (思・判・表) 平和な社会の形成者として、身近な生活の中で自分ができることを考え、他者に伝えようとしている。 (主学)教師の話や読み聞かせなどに関心を向け、平和について自分なりの考えを持つようとしている。	現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 「平和学習」	・読み聞かせ ・パネル展示見学 ・歌 ・平和学習 ・平和について考えよう ・情報収集（校外学習）
2 学期	3	(知及技) 実現可能な目標を立てることの目的を知ることができる。 (思判表力) 見通しを持って目標達成に向けて取り組むことができる。 (学・人)自分や友達の頑張った様子を、お互いに振り返ることができる。	(知・技) 実現可能な目標を立てることの目的を知ろうとしている。 (思・判・表) 見通しを持って目標達成に向けて取り組もうとしている。 (主学)自分や友達の頑張った様子を、お互いに振り返ろうとしている。	生徒の興味・関心に基づく課題 「キャリアパスポートの取組」	・1 学期の振り返り（課題と自己評価） ・2 学期頑張りたいこと、2 学期の振り返り
	6	(知及技) 卒業後の社会生活に必要な知識・技能を身に付けることができる。 (思判表力) 卒業後の社会生活に具体的なイメージを持ち、学んだことを表現したりすることができる。 (学・人)就業・生活体験に意欲をもって取り組むことができる。	(知・技) 卒業後の社会生活に必要な知識・技能を身に付けようとしている。 (思・判・表) 卒業後の社会生活に具体的なイメージを持とうとしたり、学んだことを表現したりしようとしている。 (主学)就業・生活体験に意欲をもって取り組もうとしている。	職業や自己の将来に関する課題 「就業生活体験事前学習」 「就業生活体験」 「就業生活体験事後学習」	・就業生活体験の実施
	6	(知及技) 過去、現在、未来の科学技術の進歩や社会生活の変化を理解し知識や技術を知ることができる。 (思判表力) 科学技術の変化について ICT 機器等を活用し調べて他者に伝えることができる。 (学・人)他者が行う発表に、興味を持って聴き、質問することができる。	(知及技) 過去、現在、未来の科学技術の進歩や社会生活の変化を理解し知識や技術を知ろうとしている。 (思判表力) 科学技術の変化について ICT 機器等を活用し調べて他者に伝えようとしている。 (学・人)他者が行う発表に、興味を持って聴き、質問しようとしている。	科学技術の進歩と社会生活の変化 「身近な変化や今後の科学技術の進歩」	・科学技術の進歩を調べる。 ・生活様式の変化を調べる。 ・今後の予想を自分なりに考える。 ・調べたことを PP にまとめ、発表を行う。 ・振り返り、質問 ・情報収集（校外学習）

3 学期	2	(知及技) 1年間を通して、自分が立てた目標を達成できたか、振り返ることができる。 (思判表力)頑張ってきたことを自分の言葉で発表することができる。 (学・人)自分や友達の頑張った様子を、お互いに振り返ることができる。	(知・技) 1年間を通して、自分が立てた目標を達成できたか、振り返ろうとしている。 (思・判・表)頑張ってきたことを自分の言葉で発表しようとしている。 (主学)自分や友達の頑張った様子を、お互いに振り返ろうとしている。	生徒の興味・関心に基づく課題 「キャリアパスポートの取組」	・ 1年間を振り返り評価する、次年度の目標を設定する
	6	(知及技) 年間を通して、学んだ内容を整理し内容を振り返ることができる。 (思判表力)学んだ内容を PP で作成し、自分の考えを他者に伝えることができる。 (学・人)自分や友達の発表を聞き、質問したりして振り返ることができる。	(知及技) 年間を通して、学んだ内容を整理し内容を振り返ろうとしている。 (思判表力)学んだ内容を PP で作成し、自分の考えを他者に伝えようとしている。 (学・人)自分や友達の発表を聞き、質問したりして振り返ろうとしている。	自己の在り方・生き方や進路に関わる課題 「年間で学んだ内容を整理し発表しよう」	・ 発表準備 ・ PP 作成 ・ 発表会 ・ 振り返り ・ まとめ ・ 情報収集 (校外学習)
留意点引継ぎ等					

令和5年度 中学部3年（I課程） 特別活動 年間指導計画

単位数 ／配当時数		教科書／副教材等		担当者名	
35		iPad、パソコン、電子黒板等			
目標：(知及技)知識及び技能 (思判表力)思考力、判断力、表現力等 (学・人)学びに向かう力・人間性等 評価：(知・技)知識・技能 (思・判・表)思考・判断・表現 (主学)主体的に学習に取り組む態度					
年間目標		(知及技) 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 (思判表力)交流及び共同学習を行ったり、地域の人々などと活動を共に共にしたりする集団活動を通して生徒の経験を広め、自己実現や社会参画のための課題を見だし、解決に向かって取り組むことができる。 (学・人)人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。			
学期	時数	単元・題材の目標	単元・題材の評価規準	単元・題材名	単元・題材の活動内容
1 学期	12	①厳粛で清らかな気分を味わい、行事を節目として新たな生活への希望や意欲につなげることができる。 ②教師と協力して、落ち着いて測定を受けることができる。 ③学級や学部、生徒会の一員として集団に参加することができる。 ④事件や事故、災害等から身を守ることの大切さを理解し、必要な行動の仕方を身に付けることができる。 ⑤夏休みの過ごし方、規則正しい生活について考えることができる。	①厳粛で清らかな気分を味わい、行事を節目として新たな生活への希望や意欲につなげようとしている。 ②教師と協力して、落ち着いて測定を受けようとしている。 ③学級や学部、生徒会の一員として集団に参加しようとしている。 ④事件や事故、災害等から身を守ることの大切さを理解し、必要な行動の仕方を身に付けようとしている。 ⑤夏休みの過ごし方、規則正しい生活について考えようとしている。	①1 学期始業式 ①入学式 ②身体測定 ③遠足・校外学習 ③新入生歓迎会 ③児童生徒総会 ④火災避難訓練 ⑤夏休みの過ごし方 ①1 学期終業式	①儀式のマナー（聞く態度、姿勢等） ②身体測定 ③学級や学部、生徒会の活動を通して、集団の一員であることを把握する。 ④避難の事前事後学習と実践 ⑤生活習慣の確認や見直し
2 学期	13	①厳粛で清らかな気分を味わい、行事を節目として新たな生活への希望や意欲につなげることができる。 ②学級や学部、生徒会の一員として集団に参加することができる。 ③事件や事故、災害等から身を守ることの大切さを理解し、必要な行動の仕方を身に付けることができる。 ④互いに協力をしながら、式や競技に参加することができる。 ⑤冬休みの過ごし方、規則正しい生活について考えることができる。	①厳粛で清らかな気分を味わい、行事を節目として新たな生活への希望や意欲につなげようとしている。 ②学級や学部、生徒会の一員として集団に参加しようとしている。 ③事件や事故、災害等から身を守ることの大切さを理解し、必要な行動の仕方を身に付けようとしている。 ④互いに協力をしながら、式や競技に参加することができる。 ⑤冬休みの過ごし方、規則正しい生活について考えようとしている。	①2 学期始業式 ②児童生徒会 ②校外学習 ③地震津波避難訓練 ④運動会 ⑤冬休みの過ごし方 ①2 学期終業式	①儀式のマナー（聞く態度、姿勢等） ②身体測定 ③学級や学部、生徒会の活動を通して、集団の一員であることを把握する。 ④避難の事前事後学習と実践 ⑤生活習慣の確認や見直し
3 学期	10	①厳粛で清らかな気分を味わい、行事を節目として新たな生活への希望や意欲につなげることができる。 ②学級や学部、生徒会の一員として集団に参加することができる。 ③個人目標がどれだけ達成できたか振り返り、次の目標へつなげることができる。	①厳粛で清らかな気分を味わい、行事を節目として新たな生活への希望や意欲につなげようとしている。 ②学級や学部、生徒会の一員として集団に参加しようとしている。 ③個人目標がどれだけ達成できたか振り返り、次の目標へつなげようとしている。	①3 学期始業式 ②児童生徒会役員選挙 ②児童生徒会役員認証式 ②卒業生を送る会 ③一年間の振り返り ①卒業式	①儀式のマナー（聞く態度、姿勢等） ②学級や学部、生徒会の活動を通して、集団の一員であることを把握する。 ③学級や学部での発表、儀式での挨拶など

留意点引継ぎ
等